



同志社大学 大学院・専門職大学院案内

DOSHISHA UNIVERSITY GRADUATE SCHOOLS

Guidebook 2024



学問への志を持つ全ての人へ



日本の、そして世界の
学術・研究の最先端を
牽引する。

同志社の創立者・新島襄。幕末の1864(元治元)年、激動する日本の将来を憂い、国禁を犯して脱国し、約10年間にわたってアメリカ、ヨーロッパで学び、キリスト教の洗礼を受けて帰国しました。

そして、国内外の多くの人々の協力を得て、1875(明治8)年11月29日、京都の地に同志社大学のルーツとなる同志社英学校を設立しました。新島は、学問の探求とともにキリスト教を徳育の基本として人格を陶冶する教育機関を目指し、同志社においてキリスト教主義に基づき、自治自立の精神を涵養し、国際感覚豊かな人物を育成することを教育の理念としました。

同志社の教育理念

キリスト教主義

精神と品行を陶冶する
活力を身につけ、
知識の修得だけでなく、
良心の涵養を促す

自由主義

自ら行動する力を育み、
一人ひとりに
自分の可能性を
気づかせる

国際主義

外国語を話せるだけでなく、
異なる価値観を受け入れ、
そこから「何か」を
見出せる人を育む



02 研究科一覧

04 在学生インタビュー

06 神学研究科

08 文学研究科

12 社会学研究科

15 法学研究科

19 経済学研究科

22 商学研究科

25 総合政策科学研究科

29 文化情報学研究科

31 理工学研究科

37 生命医科学研究科

40 スポーツ健康科学研究科

43 心理学研究科

45 グローバル・スタディーズ研究科

48 脳科学研究科

50 司法研究科
(法科大学院)

53 ビジネス研究科
(ビジネススクール)

56 留学・国際交流

58 図書館/ICT

59 研究

63 学位の授与/教育職員免許状

64 進路・就職

66 奨学金

67 学費

69 出願の流れ

70 今出川校地・京田辺校地

71 アクセス

Message from president

宜しく晩成を期して
大工事をせられよ

学長 植木 朝子



同志社の創立者・新島襄は、かつて一学生を諭して言いました。
「かの木曾山中の大木を見よ。それは数百年間成長した後に伐られ、而して伐られたる後また蓄へられ、蓄へられたる後また世の需用に応じ、かくして始めて棟梁の材となるではないか。凡そ学を為すものも亦、宜しく斯くの如くあらねばならぬ。貴君願くば、決して小刀細工を為す勿れ。宜しく晩成を期して大工事をせられよ」(『片鱗集』)と。
学問の道は一朝一夕に成るものではありません。目先の成果を追って小さな細工をするのではなく、広い視野を持ち、時間をかけて大工事をしなければならぬという新島の言葉は、どのような領域においても通用するものでしょう。
大学院で学ぶ皆さんには、そのように、じっくりと腰を据えて研究に邁進していただきたいと思います。そして、その研究が、やがて「世の需用に応じて」「棟梁の材となる」よう、すなわち、いつかは世の中の役に立つように、常に意識してほしいと思います。役に立つというのは、もちろん経済的利益を生むといった実利的なことだけを言うわけではありません。精神的充実を含めた人々の幸福に寄与するということです。
同志社大学大学院のバラエティに富んだ研究科において、お一人お一人が豊かな学問的達成を遂げられますことを心から願っています。



研究科一覽

細分化する学術研究に対応し、高度な専門知識を修得するため、最先端の研究が可能な設備・環境を有する16研究科。同志社大学院は「真理の探究」を教養の根底に持つ専門的知識人・職業人の育成を通じて、文化・産業の発展に寄与していきます。

研究科	校 地	課程別専攻名	
		博士課程(前期課程)または修士課程	博士課程(後期課程)
神学研究科	今出川	●神学専攻	●神学専攻
文学研究科	今出川	●哲学専攻 ●英文学・英語学専攻 ●文化史学専攻 ●国文学専攻 ●美学芸術学専攻	●哲学専攻 ●英文学・英語学専攻 ●文化史学専攻 ●国文学専攻 ●美学芸術学専攻
社会学研究科	今出川	●社会福祉学専攻 ●メディア学専攻 ●教育文化学専攻 ●社会学専攻 ●産業関係学専攻	●社会福祉学専攻 ●メディア学専攻 ●教育文化学専攻 ●社会学専攻 ●産業関係学専攻
法学研究科	今出川	●政治学専攻 ●私法学専攻 ●公法学専攻	●政治学専攻 ●私法学専攻 ●公法学専攻
経済学研究科	今出川	●理論経済学専攻 ●応用経済学専攻	●経済政策専攻
商学研究科	今出川	●商学専攻	●商学専攻
総合政策科学研究科	今出川	●総合政策科学専攻	●総合政策科学専攻
文化情報学研究科	京田辺	●文化情報学専攻	●文化情報学専攻
理工学研究科	京田辺	●情報工学専攻 ●電気電子工学専攻 ●機械工学専攻 ●応用化学専攻 ●数理環境科学専攻	●情報工学専攻 ●電気電子工学専攻 ●機械工学専攻 ●応用化学専攻 ●数理環境科学専攻
生命医科学研究科	京田辺	●医工学・医情報学専攻 ●医生命システム専攻	●医工学・医情報学専攻 ●医生命システム専攻
スポーツ健康科学研究科	京田辺	●スポーツ健康科学専攻	●スポーツ健康科学専攻
心理学研究科	京田辺	●心理学専攻	●心理学専攻
グローバル・スタディーズ研究科	今出川	●グローバル・スタディーズ専攻	●グローバル・スタディーズ専攻
脳科学研究科	京田辺	●【一貫制博士課程】発達加齢脳専攻	
司法研究科(法科大学院)	今出川	●《専門職学位課程》法務専攻	
ビジネス研究科(ビジネススクール)	今出川	●《専門職学位課程》ビジネス専攻 ●《修士課程》グローバル経営研究専攻	

他研究科・専攻科目の履修促進について

同志社大学の大学院研究科で学ぶ皆さんには、多様で柔軟な思考・発想を持つ人物、自身とは異なる価値観や文化背景を有する環境の中でもタフに活躍できる人物として、社会から大きな期待が寄せられています。専攻する学問領域の知識に加え、隣接領域

	授与学位			掲載ページ
	修士	博士	専門職	
	●神学 ●一神教研究	●神学 ●一神教研究		P.06
	●哲学 ●英文学 ●英語学 ●文化史学 ●国文学 ●美学 ●芸術学	●哲学 ●英文学 ●英語学 ●文化史学 ●国文学 ●芸術学		P.08
	●社会福祉学 ●メディア学 ●教育文化学 ●社会学 ●産業関係学	●社会福祉学 ●メディア学 ●教育文化学 ●社会学 ●産業関係学		P.12
	●政治学 ●比較政治学 ●法学	●政治学 ●法学		P.15
	●経済学	●経済学		P.19
	●商学	●商学		P.22
	●政策科学 ●ソーシャル・イノベーション	●政策科学 ●ソーシャル・イノベーション		P.25
	●文化情報学	●文化情報学		P.29
	●工学 ●理学	●工学 ●理学		P.31
	●工学 ●理学	●工学 ●理学		P.37
	●スポーツ健康科学	●スポーツ健康科学		P.40
	●心理学	●心理学		P.43
	●アメリカ研究 ●現代アジア研究 ●グローバル社会研究	●アメリカ研究 ●現代アジア研究 ●グローバル社会研究		P.45
		●理学		P.48
			●法務博士	P.50
	●経営学		●ビジネス修士	P.53

や異分野についても積極的に学修し、学問的知識を相対化、統合した上で活用する力が身に付けば、その能力は今後ますます複雑化、高度化する社会において大きな強みとなり、皆さんの活躍の場はきっと広がっていくことでしょう。そこで本学は2018年度から、大学院

生として必要な実践的な研究能力が身に付く科目や隣接領域の知識を教授する科目など、所属の研究科・専攻を超えて履修することを推奨する科目を、一覧にご案内しています。

https://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/graduate_curriculum.html ▶





グローバル・スタディーズ研究科 現代アジア研究コース
博士課程(前期課程)2年次生

やまうち あや の
山内 綾乃

アジアで最も若い国、
東ティモールのこれからを
言語政策を通して考える

北京で出会った留学生に刺激され、大学院へ。

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部時代に中国・北京大学に留学したとき、そこで出会った世界各国の学生たちの「大学卒業後も勉強を続ける」という言葉に刺激され、大学院に進みました。所属する研究室では、世界銀行にお勤めだった指導教授のもとで発展途上国への開発援助などについて研究しています。修士論文は東ティモールの言語政策に関するもので、私自身が言語に関心があり、先行研究が少ないことにも引かれてこのテーマを選びました。

4つの言語を持つ国が抱える問題点を探る。

東ティモールは2002年にインドネシアから分離・独立した国です。それまで主にインドネシア語と現地語のテトゥン語が使われていたところに、かつての宗主国の言語であるポルトガル語による教育が始まり、さらに英語も公の場で使用されるようになりました。そのため教育現場の混乱を招いたり、世代間で使う言葉が異なることで国民同士のコミュニケーションに支障をきたしたりと、社会に多くの問題が生じています。東ティモールは発展途上の段階にあり、そういった問題は今後の国づくりの障害になりかねません。修士論文では、今後の言語政策を実際に考える立場にある東ティモール政府関係者の方や、20代から70代と幅広い年代の方へのインタビュー・アンケート調査を手掛かりに、分離・独立後の言語政策が抱える課題についての考察を様々な観点から深めていきました。

可能性に満ちた国の発展に役立ちたい。

大学院修了後は民間企業に就職するため、研究はひとまず終わりになりますが、東ティモールにはこれから先もずっと関心があると思うので、例えば私の論文が引用され、東ティモールの言語政策や開発に関する研究がさらに進めばうれしいです。そしていつか機会があれば、政府関係者の方など研究の中で知り合った人たちとタッグを組み、可能性に満ちた若い国、東ティモールの発展に何らかの形で貢献できればと考えています。



理系と文系の両方に興味があった自分にぴったり。

同志社大学文化情報学部在籍、当初は卒業後に就職を志望していました。3年次生のときに新型コロナウイルス感染症の流行が始まり授業がオンライン中心となり、もちろん授業の内容は充実していましたが、自分としてはもっと実験に取り組みたいという気持ちがあって大学院に進学しました。引き続き文化情報学を学ぼうと決めたのは、理系はもとよりマンガをはじめとする文系に興味があり、文化に関する幅広いことから数理的なアプローチによって調査・分析できる研究科の特徴が自分に合っていると思ったからです。

デフォルメされたキャラクターの使用効果を調べる。

現在は、テキスト内のキャラクターの効果的な使い方に関する研究の準備を進めているところです。教科書、各種説明書、プレゼンシートなど様々なテキストにデフォルメされたキャラクターのイラストが挿入されているのを見掛けます。そこには情報をより分かりやすく、より印象的に伝えたいという作り手の意図が込められているはずです。研究ではそれが受け手に伝わっているか、もしかして趣旨に合わないイラストを用いることで逆効果になっていないか、といったことについて多くの被験者を対象に統計的に調べるつもりです。

正確な情報伝達により「炎上」を未然に防ぐ。

この研究の目標は、正確かつ効果的な情報伝達の在り方を考察することであり、将来的にはその結果を広告やマーケティングの分野に生かすことができると考えています。最近、作り手の意図が受け手にうまく伝わらずに炎上してしまう広告が多々ありますが、例えばテキストの内容を適切に補うキャラクターを起用すれば、双方のコミュニケーションが円滑になり、炎上を未然に防ぐことができるかもしれません。まだ研究は始まったばかりですが、ぜひそんな事例を幾つも紹介できるような研究にしていきたいと思っています。



作り手の意図をしつかり伝え、
円滑なコミュニケーションを
支えるために

文化情報学研究科 行動データ科学コース
博士課程(前期課程)1年次生
いちみや

一宮ほのか

神学研究科

神学専攻

宗教の学術的分析を基軸に
知的洞察力と広い視野を養う。



神学研究科とは

本学神学部・神学研究科は日本で最も長い歴史を持つ神学の研究・教育機関です。宗教は「救済」の提供において個人の内面世界と密接に関わりますが、世界の言語・文化・社会・歴史とも影響を及ぼし合ってきました。神学研究科では宗教を研究対象として、私たちの生きる意味と世界の目指すべき方向を探求します。人類が作り上げ蓄積してきた、生きるための知恵である宗教を批判的・学際的に分析することを通じて、幅広い人間理解と深い知的洞察力を身に付けることができます。

3つの一神教(キリスト教、イスラーム、ユダヤ教)を学ぶこと

現在、80億人に迫る世界人口のうち、30パーセント以上の人々がキリスト教を、約25パーセントがイスラームを信じています。ユダヤ教は1パーセント未満ですが、キリスト教とイスラームの源流となった重要な宗教です。これら3つの一神教を知らずには、世界の現状や歴史を正しく理解することは不可能です。神学研究科生は5つの研究コース(聖書神学、歴史神学、組織神学、実践神学、一神教学際研究)から1つを選び、一神教に関する専門的な知識・技能を修得します。

京都・宗教系大学院連合(K-GURS)

神学研究科は、大谷大学、皇學館大学、高野山大学、花園大学、佛教大学、龍谷大学の各大学院と連携して「京都・宗教系大学院連合」を設立し、講演会やシンポジウムの開催をはじめとする学術交流を通じて宗教研究の領域を拡大・深化させています。神学研究科生は単位互換制度やチェーンレクチャーや院生発表会を活用して仏教や神道も学ぶことができます。3つの一神教を学ぶ者が日本の宗教も視野に入れることにより、新たな神学研究の可能性を開拓することが期待されています。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

Ada Taggar-COHEN 教授

- ①ユダヤ学・聖書学・古代近東の宗教と歴史
- ②古代近東の言語研究、聖書と古代近東の研究による宗教・歴史・法議論、古代近東の祭司制の比較研究
- ③①『現代ヘブライ語における前置詞の重要性—ヘブライ語の歴史と発展に関する一考察—』リトン、2018 ②共編 Current Issues in Priestly and Related Literature, Society of Biblical Literature, 2015

越後屋 朗 教授

- ①ヘブライ語聖書、古代イスラエルの社会と歴史
- ②ヘブライ語聖書を資料に、考古学的成果を加え、古代イスラエルの社会と歴史を解明する。
- ③『ヘブライ語聖書の史実性:テル・メギドでの発掘調査から』『基督教研究』2002. 64(2), 1-16.

勝又 悦子 教授

- ①ユダヤ学、ラビ・ユダヤ教研究、ユダヤ教の歴史と思想
- ②一神教の源流となり、「書物の民」として長く歴史に翻弄されてきたユダヤ教徒の歴史、思想を再構成する。特に、原始キリスト教の背景となり「律法主義」と批判されがちなラビ・ユダヤ教の多様な生活の諸相、理念、世界観を原典文献をもとに明らかにする。
- ③『モノの「穢れ」と輪郭—『ミシュナ』トホロート巻を中心に』『宗教研究』2022, 96(404), 79-102.

小原 克博 教授

- ①キリスト教思想、宗教倫理、一神教研究
- ②先端医療、環境問題、性差別などをめぐる倫理的課題や、宗教と政治およびビジネス(経済活動)との関係、一神教に焦点を当てた文明論、戦争論などに取り組む。
- ③①『一神教とは何か』平凡社新書、2018 ②『宗教のポリティクス』晃洋書房、2010

三宅 威仁 教授

- ①宗教社会学、宗教哲学
- ②神義論の思想史的研究。ペイズの定理による神の存在の帰納的論証。
- ③①「神義論の諸相—神と悪、または世界の不完全性の問題—」『基督教研究』2019, 81(2), 1-20. ②「哲学的有神論における神の存在の帰納的論証の方法論的考察」『基督教研究』2015, 77(2), 1-23.

森山 央朗 教授

- ①イスラーム史、「ハディースの徒」の社会文化史
- ②8~13世紀の西アジアにおいて、預言者ムハンマド(632年没)の言行に関する伝承(ハディース)の研究・教育に専心したウラマーたち(「ハディースの徒」)がハディースをめぐって実践した知的営為と、それによって形成された知識体系および社会的権威の歴史の変遷の研究。
- ③「ウラマーの出現とイスラーム諸学の成立」『岩波講座世界歴史8:西アジアとヨーロッパの形成』岩波書店、2022

村上 みか 教授

- ①近世キリスト教、宗教改革の歴史と神学
- ②宗教改革期の神学思想の歴史研究:ルターの教会論、終末論の歴史的展開に関する研究。宗教改革急進派の神学思想における近代的要素の解明。
- ③①共編著『キリスト教神学命題集』日本キリスト教団出版局、2022 ②共著『1冊でわかるキリスト教史』日本キリスト教団出版局、2018 ③共著『ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶』教文館、2009

村山 盛葦 教授

- ①史的イエス、新約聖書学
- ②聖書学(歴史批評)にもとづいて、聖書テキストや初期キリスト教とりわけ古代ギリシア・ローマ世界の背景を踏まえて考察する。
- ③「パウロの論理的思想に関する研究の概観と問題点について」『基督教研究』2018, 80(2), 1-14.

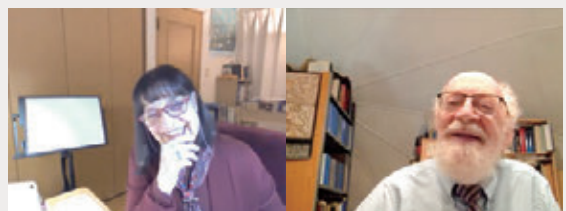
関谷 直人 教授

- ①臨床牧会学、説教とコミュニケーション
- ②キリスト教宣教における様々なコミュニケーション(教会カウンセリング、説教、音楽)の研究
- ③『牧会の羅針盤—メンタルヘルスの視点から—』キリスト新聞社、2015

TOPICS 世界の第一線で活躍する研究者から学ぶ

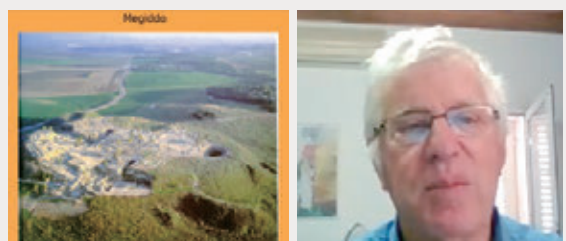
神学部・神学研究科及び一神教学際研究センターでは、世界中の先進的な宗教研究機関から卓越した研究者を招いて講演会やシンポジウムを数多く開催しています。2020-2021年度はエルサレムのヘブライ大学から2人の名誉教授をお迎えしました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、来日は願えませんでした。Zoomを活用してオンライン講演会を行いました。2020年秋学期にはモルデカイ・コーガン教授より、文学的・歴史的観点から見た『サムエル記』下と『列王記』上の成立過程について、2021年春学期にはアミハイ・マザール教授より、『ヨシュア記』と20世紀にイスラエルで発見された考古学的データとの関係について、最新の研究成果を伺いました。講演会以外にもワークショップや特別講義を開催し、世界の第一線で活躍する研究者から直接学ぶことのできる貴重な機会を提供しています。

(上)アダ・タガー・コヘン教授と談笑するモルデカイ・コーガン教授
(下)メギドの遺丘について語るアミハイ・マザール教授



アダ・タガー・コヘン教授

モルデカイ・コーガン教授



アミハイ・マザール教授

文学研究科

哲学専攻
英文学・英語学専攻
文化史学専攻
国文学専攻
美学芸術学専攻



浜誌遺跡(京都市京丹後市)
縄文時代(約4,000年前)

考古学実習室にて

文学研究科とは

同志社大学大学院文学研究科は、学制改編に伴う新制大学院の設置とともに1950年に開設されました。文学研究科には現在、哲学、英文学・英語学、文化史学、国文学、美学芸術学の5専攻が置かれています。各専攻には、博士課程(前期課程)と博士課程(後期課程)がそれぞれ設置されています。

本研究科は、「キリスト教主義・自由主義・国際主義に基づく人間形成を根本的な教育理念として、人文学の高度な理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与すること」を基底に置き、博士課程(前期課程)では、研究・教育職並びに高度に専門的な業務に必要な研究能力及び豊かな学識を養うことを、博士課程(後期課程)では、広い視野に立つ精深な学識と高度な研究能力を涵養することを目的としています。

これらの理念、目的を十分に踏まえた本研究科の目標と使命は、人間及びその言語・文化活動の全体を根源的、体系的に捉え、それらについての厳密かつ真摯な研究・教育を通じて、質的变化の激しい現代社会においても人間と文化の本質を洞察して新たな時代を切り開ける有能な人物を世に送り出すことです。

同志社大学が掲げる国際主義の伝統を活かし、海外の一流研究機関との連携を進めながら、広く世界で活躍できる研究者・高度専門職業人の育成に努めてまいります。

「人間とは何か？」を問う

ますます複雑・多様化する社会の中で、高度な知の再構築が求められています。大学院の研究・教育においても、学問を単に知識の体系的な集積体と捉えるばかりではなく、学ぶ者一人ひとりの中に各専門分野から広がる有機的な知的ネットワークを確立することが要求されるようになりました。またあらゆる分野でグローバル化が進む中で、ますます自文化に精通した上で他文化への理解を広げられる国際主義的教養も不可欠となっています。

このような状況で最も重要なのは、学問の核心にあり続けてきた「人間とは何か？」という根本問題に遡ることです。なぜなら、社会の変化は人間の様々な欲望や願望や理想が生み出すものであり、その根本を理解できなくては個別的対応も不可能だからです。そしてこれこそ、人文学を追求する文学研究科が常に追究してきた問いにほかなりません。本研究科の各専攻では、この同じ人間洞察という目標にそれぞれの切り口から取り組み、過去と現在の問題点を正確に解明するとともに、将来の豊かな人間性と社会の望ましいあり方を構想する本当の意味での学識と研究能力を、大学院生の一人ひとりに育みたいと考えています。

同志社大学大学院の各研究科は各々の専門分野において「世界的な教育・研究拠点」となるべく、努力を続けています。文学研究科でも、広義の人文学という専門分野において、また個々の専攻でより特殊化された個別専門分野において、同じ目標に向かって努力がなされています。文学研究科が探求してきた同じ1つの普遍的な問い、「人間とは何か？」という問い、それは、常に新しい問い方で問われ、新しい方法で探求されていかねばなりません。そうすることによってのみ、現代世界の変化を見据え、理解し、その上で、人間であることの普遍的な価値が今現在、どこに、どのような形であるのかを知ることができます。私たちが住む世界全体に即して、現代世界が求める価値の体系—知の総体—が再構築されなければなりません。この壮大な使命のための拠点の建設に、私たちとともに没頭してみようという人物を、文学研究科では待ち望んでいます。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

哲学専攻

新茂之 教授

- ① 経験主義的視点についての多面的理解
- ② 経験的事実に足場を置く経験主義の観点を、古典的経験主義、論理的経験主義、プラグマティズムという三つの主な哲学的動向の視角から多層的に把握する
- ③ 『パース「プラグマティズム」の研究—関係と進化と立論のカテゴリー論的整序の試み—』晃洋書房, 2011

服部 敬弘 准教授

- ① 19—20世紀フランス哲学
- ② ベルクソン哲学への批判とハイデガー存在論の継承発展によって構築されるレヴィナス哲学の生成史研究
- ③ ①『レヴィナス読本』法政大学出版局, 2022 ②『ミシェル・アンリ読本』法政大学出版局, 2022

林 克樹 教授

- ① カントの批判的形而上学
- ② 理性批判を経て知と非知の境界に接するところまで思考を導き、「宗教の防壁」たらんとするカントの批判的形而上学の意義を考察する。
- ③ 「カントにおける「自己自身に対する義務」—慮への問い—」『文化学年報』2022, (71), 1-24.

中川 明才 教授

- ① ドイツ古典哲学の歴史的体系的研究
- ② カント哲学の批判的継承という動向における、スピノザ論争・無神論論争といった思想的な諸論争、カント以後の体系構想の諸展開ならびに絶対的なものの不在という問題状況に関する研究。
- ③ 『フィヒテ知識学の根本構造』晃洋書房, 2004

中村 拓也 教授

- ① フッサールの超越論的現象学
- ② フッサールの超越論的現象学における自我論についての純粋自我と人格的自我、原自我と先自我の関係性を踏まえた体系的研究
- ③ 「純粋自我と原自我—『イデー』と『ベルナウ草稿』における自我の問題—」『人文』2021, (208), 1-35.

英文学・英語学専攻

赤松 信彦 教授

- ① 外国語学習における母語の影響。特に、語彙や文法の知識構築過程における概念形成の研究
- ② (1) 第一言語と言語学習環境が二言語心内辞書に与える影響、(2) 外国語学習における認知言語学アプローチの効果
- ③ The intertwining effects of first language and learning context on the bilingual mental lexicon. In H. Pae (Ed.), Writing systems, reading processes, and cross-linguistic influences: Reflections from the Chinese, Japanese and Korean languages, 2018, 7, 245-266.

David J.CHANDLER 教授

- ① The literature and culture of the British Romantic period (1780-1850).
- ② Particular interests include the "Lake poets," provincial writing, and musical theatre.
- ③ Creating The Lion King: Story Development, Authorship and Accreditation in the Disney Renaissance, Journal of Screenwriting, 2018, 9(3), 329-45.

圓月 勝博 教授

- ① 近代英語詩・キリスト教文学
- ② 17世紀イギリス文学・20世紀モダンイズム詩
- ③ ①共著 The Oxford Handbook of John Bunyan, Oxford University Press, 2018 ②共著 A Concise Companion to Milton, Blackwell, 2007 ③共著 The Cambridge Companion to John Dryden, Cambridge University Press, 2004

石塚 則子 教授

- ① 20世紀転換期のアメリカ文学研究
- ② 20世紀転換期の文学テキストを中心に、個として女性の内面世界と住空間の関係性を考察する。
- ③ ①『活字メディアとしての『ドメスティック・エコノミー論』』『アメリカ研究』2020, (54), 45-66. ②『Lily Bart の visibility と情動』『関西英文学研究』2020, 13(14), 25-33. ③共著『ヘンリー・ジェイムズ、いま—歿後百年記念論集—』英宝社, 2016

金津 和美 教授

- ① 18世紀からイギリス・ロマン主義時代の文学
- ② イギリス・ロマン主義文学にみられる自然観を18世紀の風景に関わる美意識や思想、および現代環境思想との関わりにおいて研究。
- ③ ①共著『スコットランド文学の深層—場所、言語、想像力』春風社, 2020 ②共著『トランスアトランティック・エコロジー—ロマン主義を語り直す』彩流社, 2019

金谷 益道 教授

- ① 19世紀・20世紀イギリス小説
- ② 19世紀・20世紀イギリス小説の創作理念と絵画・写真・映画等の視覚芸術との関係性、19世紀のイギリス小説家の表象観に対する認識論や生理学の影響
- ③ 『ヴァージニア・ウルフの映画体験—痕跡・偶然・無意識』『英国小説研究 第28冊』英宝社, 2021

勝山 貴之 教授

- ① シェイクスピア研究
- ② 16世紀・17世紀英国の政治・経済・社会と演劇研究。当時の政治や経済が演劇にどのように影響し、また演劇がどのように社会に語りかけたかを研究対象とする。当時に書かれた年代記、地誌、政治論考、旅行記、医学書、貿易書、地図など、様々な文献を解釈しながら、演劇との相互関係を探求する。
- ③ ①『「尺には尺を」と貨幣』『Shakespeare Journal』2022, (8), 23-33. ②『シェイクスピアと異教国への旅』英宝社, 2017 ③『英国地図製作とシェイクスピア演劇』英宝社, 2014

川島 健 教授

- ① 20世紀イギリス演劇、小説
- ② ジェンダーと政策の観点から考える1950年代以降の英国演劇 BBC (英国放送協会) ラジオにおける文学者たちの活動
- ③ ①『英国若者文学論—国家が拡張をきらめたとき、若者はどのように大人になっていくのか』小鳥遊書房, 2022 ②『演劇家の誕生—演劇の近代とその変遷』彩流社, 2016 ③『ベケットのイルランド』水声社, 2014

菊田 千春 教授

- ① 認知言語学、構文文法
- ② ことば(文法や構文)の変化に見られる法則性を捉え、そのメカニズムを理論的視点から明らかにする。
- ③ ①「複合構文としての係結び—通時的構文文法及び機能主義的類型論からの再考—」『認知言語学研究』2021, 6, 63-85. ② Complex Predicates in Japanese, Routledge, 2019/1994 ③ Development of conditional imperatives in Japanese: A diachronic constructional approach, Cognitive Linguistics, 2018, 29(2), 235-273.

桐山 恵子 教授

- ① 19世紀イギリス文学・文化
- ② ヴィクトリア朝小説、イギリス文学における舞踊表象
- ③ ①共著『ニンフの布—ニジンスキー「牧神の午後」と「ケルケ」挿話の比較考察』『百年目の「ユリシイズ」』松籟社, 2022 ②『英国詩でダンス—ページのなかのバレリーナ』小学館スクウェア, 2018 ③『境界への欲望あるいは変身—ヴィクトリア朝ファンタジー小説』世界思想社, 2009

能登原 祥之 教授

- ① 用法基盤に基づく第二言語習得と言語教育、コーパスに基づく言語研究と英語教育
- ② 言語学や第二言語習得論の理論(特に語彙・統語・意味・語用論)を様々なコーパス(言語データ)に基づき観察・検証し英語教育の指導内容や指導法を見直していく研究
- ③ Type/token frequency effects in L2 learners' canonical construction development, Doshisha Studies in English, 2021, (102), 141-178.

大沼 由布 教授

- ① 中世英文学における西洋古典の受容
- ② 旅行記・博物誌・百科事典等を中心に、10～15世紀の英文学で西洋古典の記述がどのように利用され、当時の世界観を形作っていたか
- ③ ①共編著『旅するナラティブ—西洋中世をめぐる移動の諸相』知泉書館, 2022 ② Otherness as an Ideal: The Tradition of the 'Virtuous' Indians, 'Otherness' in the Middle Ages. Ed. Hans-Werner Goetz and Ian Wood. Brepols, 2021, 319-338.

Mark RICHARDSON 教授

- ① American literature, poetry
- ② American literature with a focus or the American poet Robert Frost. Other interests: British poetry, African-American literature.
- ③ 共編 The Letters of Robert Frost, Volume 3: 1929-1936, Belknap Press of Harvard University Press, 2021

下楠 昌哉 教授

- ① アイルランド文学・幻想文学
- ② ジェイムズ・ジョイスを中心とした19世紀～現代にかけてのアイルランド・英国の小説の研究。および西洋を起源とした幻想性の文学における日本への移入について。
- ③ ①共編『百年目の『ユリシーズ』』松籟社, 2022 ②『妖精のアイルランド』平凡社新書, 2005

白川 恵子 教授

- ① アメリカ文学／文化における体制的想像力
- ② 初期アメリカにおける叛乱／陰謀事件－歴史記述と文学表象との脱／境界、奴隷制度と人種分離政策に対する文学的・文化的抵抗精神の露露と異人種間相互交渉、アメリカン・ナラティブの系譜とジャンルの準拠性に関する問テクスト
- ③ 『抵抗者の物語－初期アメリカの国家形成と犯罪者の無意識』小鳥遊書房, 2019

Stefanie Alexa STADLER 教授

- ① Sociolinguistics, Pragmatics, Intercultural Communication
- ② My focus lies predominantly in the dynamics of efficient communication between interactional partners of diverse backgrounds. In particular, I am interested in how parameters such as culture and gender impact shared understanding and the communicative process on the whole.
- ③ Conflict, Culture and Communication, Routledge, 2019

菅原 真理子 教授

- ① 音声学・音韻論、特に英語と日本語の韻律研究
- ② 英語の語強勢の発話・知覚研究を、英語母語話者と日本人英語学習者を対象に行っている。
- ③ 『英語における主強勢直後の語末完全母音音節の韻律的強さの評価－聴覚刺激を用いない内省判断タスクに基づく研究』『同志社大学英語英文学研究』2023, 104, 137-159.

瀧田 健介 教授

- ① 生成文法理論に基づく比較統語論
- ② 句構造構築とその線状化に関する基本原理の解明、日英語を中心とした移動現象および省略現象の言語間の普遍性と多様性の解明
- ③ ①Labeling for Linearization, The Linguistic Review, 2020, 37 ②共編『日本語研究から生成文法理論へ』開拓社, 2020

臼井 雅美 教授

- ① 文学にみる多様性(19世紀から21世紀の英米を含む英語圏文学と文化)
- ② 英語で書かれた文学におけるジェンダー、人種、民族の多様性を探求すること。
- ③ ①『ブラック・プリティッシュ・カルチャー』明石書店, 2022 ②『記憶と対峙する世界文化』英宝社, 2021 ③『カズオ・イシグロに恋して』英宝社, 2019 ④『記憶と共生するポーダレス文学』英宝社, 2018

山辺 省太 教授

- ① 20世紀アメリカ文学における宗教性
- ② 20世紀アメリカ文学において宗教性をまとった人間や光景はどのように表象されるか、というのが現在の研究テーマである。
- ③ 『フランシー・オコナーの受動性と暴力』彩流社, 2019

文化史学専攻

阿部 俊大 教授

- ① 西洋中世史、スペイン史
- ② 地中海におけるキリスト教圏とイスラーム世界の多角的関係とその歴史的影響
- ③ 『レコンキスタと国家形成：アラゴン連合王国における王権と教会』九州大学出版会, 2016

服部 伸 教授

- ① 非正統医療信奉者による医療・健康運動
- ② 近代ドイツ社会史。特に近代的な科学的医学が急激に発展し、医師の専門職としての地位と社会的な認知が確立した19世紀末から20世紀初頭の時期において、このような正統医学に批判的な非正統医療信奉者による医療・健康運動を、地域社会と関連付けて考察する。
- ③ ①編著『身体と環境をめぐる世界史：生政治からみた「幸せ」になるためのせめぎ合いとその技法』人文書院, 2021 ②『ドイツ「素人医師」団』講談社, 1997

堀井 優 教授

- ① 中世・近世の東地中海(レヴァント)における異文化接触の秩序構造
- ② 東西交通の要衝における中東・ヨーロッパ間秩序、とりわけオスマン条約体制とエジプト海港社会
- ③ 『近世東地中海の形成－マムルーク朝・オスマン帝国とヴェネツィア人－』名古屋大学出版会, 2022

井上 一稔 教授

- ① 日本宗教美術史
- ② 主としてわが国で祀られている仏像彫刻を、古代・中世文化を明らかにする視点で調査し、研究している。
- ③ ①『新出・福知山市観音寺不動明王立像について』『国華』2022, 1520, 7-22. ②『天台の中台八葉院形聖観音坐像について』『伝教大師一千二百年大遠忌記念出版 平安・鎌倉の天台』2021, 195-216.

城地 孝 准教授

- ① 中国明清時代の政治と社会
- ② 明清時代(1368～/～1911)中国の政治・社会における「理念」と「現実」との相互関係に関する研究。明清中国と周辺諸国との関係史。
- ③ ①分担執筆『北虜問題と明帝国』『1571年 銀の大流通と国家統合』山川出版社, 2019 ②『長城と北京の朝政－明代内閣政治の展開と変容－』京都大学学術出版会, 2012

岸本 廣大 准教授

- ① 古代ギリシア史
- ② 連邦の制度史／連邦を中心とした諸共同体の外交文化／ローマ支配下のギリシア世界における諸共同体の活動
- ③ 『古代ギリシアの連邦－ポリスを超えた共同体』京都大学学術出版会, 2021

北 康宏 教授

- ① 日本古代史・文化史の研究
- ② 日本古代王権の成立と展開、その支配の正当性の論理の研究。推古朝の国制と蘇我氏・聖徳太子。日本律令国家の君主制の構造とその展開。
- ③ ①分担執筆『平安宮－千年の都の形成』『古代史講義 宮都篇』筑摩書房, 2020 ②分担執筆『文献からみた天皇陵』『講座 畿内の古代学 古墳時代の畿内』雄山閣, 2018 ③共著『新版 史料で読む日本法史』法律文化社, 2016 ④分担執筆『大王とウヂ』『日本歴史 古代2』岩波書店, 2014

小林 丈広 教授

- ① 歴史学と地域社会
- ② 日本近代社会史、地域史、明治維新史、公共歴史学など幅広い視点からアプローチ
- ③ ①『近代日本と公衆衛生』雄山閣出版, 2001 ②『明治維新と京都』臨川書店, 1998

水ノ江 和同 教授

- ① 日本考古学と文化財保護
- ② 考古学に関しては、旧石器時代から現代まで全般であるが、その中でも縄文時代における日本列島と周辺地域との関係性について重点的に研究。文化財保護については、現代社会において文化財をどのように保護すべきか、その理念構築と具体的な実践を進めている。
- ③ ①『縄文人は海を越えたか?』朝日新聞出版, 2022 ②『実践 埋蔵文化財と考古学』同成社, 2021 ③『入門 埋蔵文化財と考古学』同成社, 2020

西岡 直樹 教授

- ① 日本近世(日常)史の構築
- ② 近世を生きた1人の人間が書き留めた日記をもとに、その記主の「まなざし」の奥にある「ありのままの(日常)」を掘り取る。
- ③ 『(日常)のなかの近世・夫婦の絆』『人文学』2019, (204), 1-46.

小野 直子 教授

- ① アメリカ社会史
- ② アメリカ合衆国における優生学運動を中心に、身体や医療に関する歴史。
- ③ 共編『医療化するアメリカ－身体管理の20世紀－』彩流社, 2017

佐野 静代 教授

- ① 日本の水辺に関する歴史地理学
- ② 琵琶湖・淀川水系を中心とした湖沼と海域沿岸などの生業史・景観史研究。
- ③ ①『外来植物が変えた江戸時代：里湖・里海の資源と都市消費』吉川弘文館, 2021 ②『中近世の生業と里湖の環境史』吉川弘文館, 2017

山田 徹 准教授

- ① 日本中世後期の社会
- ② とくに南北朝・室町時代(室町幕府・守護・荘園制・政治史)、畿内近国の地域史など。
- ③ ①『京都の中世史4 南北朝内乱と京都』吉川弘文館, 2021 ②『室町大名のライフサイクル』『生活と文化の歴史学7 生・成長・老い・死』2016, 61-95. ③『室町時代の支配体制と列島諸地域』『日本史研究』, 2015, (635), 1-25.

国文学専攻

藤井 俊博 教授

- ①日本語学(日本語史、文体・表記・語彙)
- ②日本語史の中でも、特に文章文体・表記・語彙を中心に、上代から中世を対象に研究している。
- ③①『院政鎌倉期説話の文章文体研究』和泉書院, 2016 ②『今昔物語集の表現形成』和泉書院, 2003

岩坪 健 教授

- ①中世・近世における『源氏物語』の享受
- ②『源氏物語』の注釈書・梗概書や、絵画・華道などにおける影響
- ③①『源氏物語の享受』和泉書院, 2013 ②『源氏物語古注釈の研究』和泉書院, 1999

垣見 修司 教授

- ①日本上代文学の研究
- ②『万葉集』の和歌、卷十三の歌群研究。記紀歌謡論、枕詞等の古代和歌修辭論、古代の倭語(やまとことば)と漢字の結びつき
- ③『万葉集卷十三の長歌文芸』和泉書院, 2021

西川 貴子 教授

- ①日本近現代文学の作品研究。怪奇幻想探偵小説の研究。メディアと文学
- ②幸田露伴、佐藤春夫などの文学作品の研究。怪奇幻想探偵小説の研究。メディアと文学との関わりについて(視覚メディアと文学、建築と文学、懸賞小説についてなど)。
- ③①「紙上映画という試みー懸賞映画小説「霊の審判」を読む」『人文科学』2022, (209), 35-66. ②共編著『建築の近代文学誌』勉誠出版, 2018 ③「〈言〉をめぐる物語ー幸田露伴「平将門」論」『藝文研究』2015, 109(109), 148-164.

瀬崎 圭二 教授

- ①日本近現代文学(消費社会における文学の様相)
- ②消費社会における表象文化、及び消費の対象となっている文学、文化現象の文化史的研究
- ③①『テレビドラマと戦後文学 芸術と大衆性のあいだ』森話社, 2020 ②『海辺の恋と日本人 ひと夏の物語と近代』青弓社, 2013 ③『流行と虚栄の生成 消費文化を映す日本近代文学』世界思想社, 2008

植木 朝子 教授

- ①日本中世における歌謡および芸能の研究
- ②今様や室町小歌、能・狂言など、中世の流行歌謡や芸能の背景にある信仰や風俗を明らかにし、表現の特質を探る。
- ③①『風雅と官能の室町歌謡』角川選書, 2013、②『今様』笠間書院, 2011 ③『梁塵秘抄の世界』角川選書, 2009 ④『梁塵秘抄とその周縁』三省堂, 2001

美学芸術学専攻

伊達 立晶 教授

- ①文芸学に基づく西洋芸術研究
- ②詩、絵画の制作論史
- ③『詩画制作論の系譜』三元社, 2019

越前 俊也 教授

- ①美術と公共性
- ②1) 美術館及び博物館の成立と機能と使命に関する研究。とりわけそれらの施設における展示の役割に関する分析と解釈。
2) 記念碑、公園、庭園など公共空間における美術作品の成立と機能と使命に関する研究。
- ③「平和記念の造営と展示1915-1964-広島-陳列館/資料館/公園の50年-(同志社大学文学研究科学位授与博士論文)」2020

清瀬 みさを 教授

- ①ルネサンス以降19世紀までの西洋美術における-人文主義思想の展開-
- ②ルネサンスにおける諸学芸比較論争(パラゴーネ)研究は、イタリア15世紀初頭から16世紀半ばを中心に展開し「素描」概念の成立により美術分野間の相克が調停された。そのパラゴーネ研究は従来15-16世紀を中心に論じられてきたが、本研究の目的は、イタリアの中世末期、14世紀の前期人文主義、とりわけペトルルカにおけるプリニウス受容と古典および同時代の美術作品の評価が諸学芸比較論争の言説の方向付になったことを検証することである。
- ③共訳「美術と学芸の相克」『パラゴーネ 諸学芸の位階論争』中央公論美術出版, 2021

河野 道房 教授

- ①中国山水画における奥行き表現
- ②中国においては、8世紀にすでに透視図法的奥行き表現が成立するが、それはいつ、どのようにして始まり発展したかを考察する。
- ③『中国山水画史研究-奥行き表現を中心に-』中央公論美術出版, 2018

森田 團 教授

- ①カント以降の19世紀ドイツ美学、20世紀初頭のドイツ美学
- ②20世紀の初頭のドイツにおける芸術をめぐる哲学的思考(とりわけルカーチ、プロットフ、ローゼンツヴァイク、ベンヤミン)の研究
- ③『ベンヤミン-媒質の哲学』水声社, 2011

大愛 崇晴 教授

- ①16~18世紀イタリアを中心とする西洋音楽とその理論の研究
- ②17世紀科学革命期における科学と音楽理論の関係の研究、ジュゼッペ・タルティーニの音楽理論研究
- ③『16・17世紀の数学的音楽理論-音楽の数量化と感性的判断をめぐる-』晃洋書房, 2021

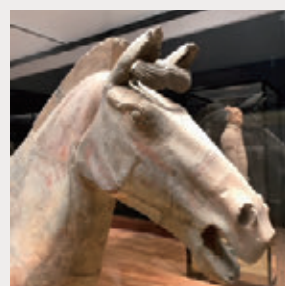
佐藤 守弘 教授

- ①視覚文化/メディア研究
- ②写真を中心とした複製によって流通する視覚メディアの歴史や理論を、主に近現代日本のポピュラー/ヴァンキュラー文化をフィールドとして研究
- ③①共編『学校で地域を紡ぐー『北白川こども風土記』から』小さ子社, 2020 ②『トポグラフィの日本近代-江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』青弓社, 2011

TOPICS

美、芸術、感性を考えるー美学芸術学専攻

美学芸術学専攻では、美学・芸術学・美術史を中心領域として、様々な芸術ジャンルや視覚文化を研究対象としています。「美学」研究の原点は、「美的感覚」とは何かを問うことにあります。「芸術学」は、具体的な芸術作品の分析を通じて、美とは違った芸術の意味の解明をめざします。「美術史」は、個々の美術作品の「形」や「内容」を時系列的展開のなかで捉え、考察する研究です。これら三領域について、美や芸術の本質や多様性、様々な芸術ジャンルの原理、及び作品の歴史を総合的に研究することによって、社会や学会で活躍しうる人物を養成しています。こうして、感性の陶冶、論理の錬成を重ねれば、芸術にとどまらない、対象への透徹した見識、すなわち「眼」を養うことができるでしょう。



社会学研究科



変動する
社会と人間のあり方を
専門的かつ
人間的視点から究明する。

社会学研究科とは

今、人間のあり方が大きく変わろうとしています。例えばグローバル化と情報化、地域対立やテロ、仕事の疎外と失業、少子・高齢化と家族システムの揺らぎ、あるいは次世代の教育・人間形成のあり方の変化など、大きな社会変動によって人間のあり方が根本的な影響を受けています。

これらの社会変動に対応しつつ、人間にまつわる社会問題を解明するために、社会科学の人間化あるいは人間の視点から社会変動をトータルに究明する社会科学が求められています。また、社会を構成する諸活動の内的な構造特性に応じて体系化しつつ、それぞれの専門的対応が迫られています。こうした要請に応じて、2005年4月に従来の文学研究科から独立し、生活福祉の問題、社会の自己認識としてのマスメディア過程、人間形成における文化と教育の課題、人間と社会の諸関係、産業活動における人間関係などを人間的視点から究明する社会学研究科が発足しました。社会学研究科は、人間主義的な社会科学の一大拠点を目指します。

社会福祉学専攻

1950年4月に日本最初の社会福祉学専攻大学院修士課程として設置された歴史と伝統を有します。1986年には博士課程(後期課程)が設置され、学部教育から博士課程(前期・後期課程)を有しています。精深な学識を授け、高度な研究能力と専門性を有する職業能力を養うことに専念し、多くの人材(研究者や高度専門職業人)を輩出しています。

メディア学専攻

日本のファシズム化とアジア太平洋戦争を阻止できなかった主な原因の1つが、ジャーナリズムの貧困にあったという反省から、1948年の新制大学の発足とともに本専攻はスタートしました。1998年からは博士課程(後期課程)も設置し、日本のメディア研究の中心の1つとなっています。今後も、電子メディアを含む21世紀のメディアを研究対象とし、メディア状況の発展に寄与し、理論と実践の両面でリードできる教育・研究を推進していきます。

教育文化学専攻

多文化共生が現実のものとなっている現代社会における人間形成のあり方を、教育文化という独自の視点から研究することが本専攻の課題です。教育文化学とは、社会や文化の中に埋め込まれている人間形成の事象を広く研究対象とし、その構造や意味を問うものです。教育文化学研究には、理論研究、歴史研究、フィールド研究や調査などの方法を用いて、日本や世界の他の地域の教育文化を解明することが含まれます。本専攻が目指しているのは、教育文化の学際的研究を通して、多文化間の相互理解を促進し、問題解決に貢献することができる研究者や教育者、高度職業人を育成することです。

社会学専攻

激動し錯綜する世界社会をリアルに理解・分析するために、生活世界、現代社会、国際社会・国際関係という3つの分野から重層的に社会学研究を深化させることを課題としています。また、理論的・文献的研究能力の陶冶だけでなく、国際的なフィールド・ワークや社会調査の経験を積むことによって実証的な研究能力を持った専門家、研究者の養成を目的としています。

産業関係学専攻

雇用・労働研究の研究者養成を目指して設置された最も新しい専攻です。産業社会が大きく変貌する中で、企業組織の变革、雇用形態の多様化、グローバル化に伴う海外展開と海外勤務者の増加、不透明さを増す新卒労働市場、職業生活に伴う精神的ストレスの増大などに注目します。雇用・労働現場に密着した職場、企業、社会レベルで事例研究と統計解析の能力を養成し、実際の問題の分析と、それに対する解決の方策を研究します。

社会福祉学専攻
メディア学専攻
教育文化学専攻
社会学専攻
産業関係学専攻



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

社会福祉学専攻

木原 活信 教授

- ①福祉思想史・福祉哲学、ソーシャルワークのナラティブ論、キリスト教社会福祉論
- ②社会福祉の根源にある価値、実践思想、哲学についての研究
- ③①『ジョージ・ミューラーとキリスト教社会福祉の源泉』教文館、2023 ②『対人援助の福祉エートス』ミネルヴァ書房、2003 ③『J. アダムズの社会福祉実践思想の研究』川島書店、1998

小山 隆 教授

- ①社会福祉学、ソーシャルワーク
- ②対人援助の構造に関する研究—ソーシャルワークの固有性と他専門職との共通性。
- ③①共著『ソーシャルワークの理論と実践—その循環的發展を目指して—』中央法規出版、2016 ②分担執筆『援助専門職としての社会福祉援助』『ソーシャルワーク論』ミネルヴァ書房、2012、44-60。

空閑 浩人 教授

- ①ソーシャルワークおよびソーシャルワーカー養成に関する研究
- ②今日の社会状況のなかで求められる社会福祉実践としてのソーシャルワークの理論や方法、そしてそれを担う社会福祉専門職としてのソーシャルワーカーの養成のあり方に関する研究
- ③①共著『ソーシャルワークの基盤と専門職』ミネルヴァ書房、2021 ②共著『ソーシャルワークの理論と方法』ミネルヴァ書房、2021

永田 祐 教授

- ①市町村福祉行政におけるガバナンスの研究
- ②市町村福祉行政におけるガバナンスという視点から、包括的な支援体制、高齢者虐待や成年後見制度利用促進といった権利擁護支援体制の体制整備のプロセスを研究している。
- ③①『包括的な支援体制のガバナンス 実践と政策をつなぐ市町村福祉行政の展開』有斐閣、2021 ②『住民と創る地域包括ケアシステム：名張式自治とケアをつなぐ総合相談の展開』ミネルヴァ書房、2013

野村 裕美 教授

- ①保健医療分野におけるソーシャルワーク
- ②精神保健分野の周縁で活動するソーシャルワーカーの依存症回復支援
- ③共著『医療ソーシャルワーカーの依存症への関わり方の積極性に対する規定要因—自己責任論に着目して—』『社会福祉学』2022、63(3)、28-40。

鈴木 良 教授

- ①障害者の脱施設化とパーソナルアシスタンスの研究
- ②海外と日本における障害者の入所施設から地域の自立生活への移行、とりわけ、パーソナルアシスタンス制度を活用した移行について当事者や関係者へのインタビュー及びフィールドワークを通して研究をしている。
- ③『脱施設化と個別化給付—カナダにおける知的障害福祉の変革過程』現代書館、2019

メディア学専攻

池田 謙一 教授

- ①コミュニケーション文化の国際比較
- ②特に政治コミュニケーションに力を入れ、アジアンパロメータ調査や世界価値観調査など国際比較調査に力を入れている。
- ③①Contemporary Japanese Politics & Anxiety Over Governance, Routledge, 2023 ②編著『日本とアジアの民主主義を測る』勁草書房、2021

伊藤 高史 教授

- ①社会学理論とジャーナリズムおよびメディア文化
- ②ジャーナリズムの影響力を社会学理論、特に権力理論の観点から考察。また大衆文化について社会システム論の観点から考察。
- ③①『ジャーナリズムの政治社会学：報道が社会を動かすメカニズム』世界思想社、2010 ②『「表現の自由」の社会学：差別的表現と管理社会を巡る分析』八千代出版、2006

河崎 吉紀 教授

- ①メディア・ジャーナリズム・コミュニケーションの歴史研究
- ②新聞記者の学歴を調査、イギリスのジャーナリスト養成の歴史、メディア出身の政治家について研究
- ③①『ジャーナリストの誕生：日本が理想としたイギリスの実像』岩波書店、2018 ②『制度化される新聞記者：その学歴・採用・資格』柏書房、2006

小黒 純 教授

- ①ジャーナリズム
- ②とりわけ、調査報道、テレビ・ドキュメンタリー、ファクトチェック、情報公開制度など、権力とメディアの研究を、ジャーナリズムの実践的な立場から考察している。オーラル・ヒストリーにも関心があり、市井の人々の証言を記録していきたい。
- ③編著『テレビ・ドキュメンタリーの真顔—制作者16人の証言』藤原書店、2021

佐伯 順子 教授

- ①メディアとジェンダーの学際的、国際的観点からの研究
- ②メディアにおけるジェンダー表象をその歴史的、社会的背景とともに、国際比較の観点から学際的に研究する
- ③①『明治<美人>論—メディアは女性をどう変えたか』NHK出版、2012 ②『「女装と男装」の文化史』講談社(kindle版あり)、2009

竹内 幸絵 教授

- ①広告史、デザイン史、歴史社会学
- ②近現代日本社会におけるデザインと視覚文化、広告表象をメディアとして捉えた、実証的な広告史研究
- ③①共編『開封・戦後日本の印刷広告：『プレスアルト』同梱広告傑作選：1949-1977』創元社、2020 ②『近代広告の誕生—ポスターがニューメディアだった頃』青土社、2011

教育文化学専攻

兒島 明 教授

- ①人の移動と教育
- ②移民第二世代の移行経験に関する研究
- ③①共著『日本社会の移民第二世代—エスニシティ間比較でとらえる「ニューカマー」の子どもの今—』明石書店、2021 ②『ニューカマーの子どもと学校文化—日系ブラジル人生徒の教育エスノグラフィ—』勁草書房、2006

越水 雄二 准教授

- ①フランス近代教育史
- ②17～19世紀フランスにおける近代教育システムの形成過程
- ③①『フランス18世紀前半における女子教育思想の展開—シャル・ロランの女子教育論を中心に—』『教育文化』2020、(29)、1-24. ②『プロワイヤールの公教育論—フランス近代公教育の形成過程を解明するために—』『京都大学教育学部紀要』1996、(42)、123-132。

中川 吉晴 教授

- ①ホリスティックな観点から見た人間形成
- ②ホリスティック教育の理論・実践研究、アジアの教育観と実践の研究
- ③①『ホリスティック教育講義』出版館ブッククラブ、2020 ②『ホリスティック臨床教育学』せせらぎ出版、2005 ③Education for Awakening: An Eastern Approach to Holistic Education, Foundation for Educational Renewal, 2000

奥井 遼 准教授

- ①現象学的教育学、わが研究
- ②わがの習得や創造に関する身体論、対話・学び・コミュニケーションをめぐる現象学的記述
- ③『「わが」を生きる身体—人形遣いと稽古の臨床教育学』ミネルヴァ書房、2015

William Robert STEVENSON III 准教授

- ①The history and practice of education around the world.
- ②The impact of nature on character formation using these methods: surveys, historical literature, and fieldwork.
- ③①From Total Environment to Sustainable Development, Transformation of Higher Education in the Age of Society 5.0, Springer, 2023, 67-78. ②Garden-Based Learning and Environmental Education: A Bird's-Eye View, Journal of Education and Culture, 2021, 30, 292-299.

山田 礼子 教授

- ①With/after コロナ時代における学生のグローバル・コンピテンスの習得の国際比較研究
- ②コロナ禍を通じて世界の大学生のグローバル・コンピテンスの習得状況の比較をアンケート調査で実施
- ③①編著 Assessing Change in Asia-Pacific Higher Education on the Threshold of the 4th Industrial Revolution: Facing the Challenges of the COVID-19 Era, PalgraveMacmillan, 2023, 170. ②『2040年 大学教育の展望—21世紀型学習成果をベースに—』東信堂、2019

吉田 亮 教授

- ①日米キリスト教文化交流史
- ②日米人による異文化理解のメカニズムを解明する。特に、米国「キリスト教文化」の日本への受容、日本文化の米国への受容の特質を史的に検討する。
- ③①『アメリカ日本人移民キリスト教と人種主義』教文館、2022 ②『ハワイ日系2世とキリスト教移民教育』日本図書センター、2008 ③編著『アメリカ日本人移民の越境教育史』日本図書センター、2005

社会学専攻

藤本 昌代 教授

- ①働く場(集団・組織)と社会構造、制度との関係分析
- ②専門職・高学歴者のキャリア研究、AIと労働に関する事象(地域・世代・学歴・職業等の格差、働き方の変化、労働倫理等々)
- ③共編『欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成:国境を越えた人材流動化と国際化への指針』白桃書房, 2019

板垣 竜太 教授

- ①朝鮮半島および在日コリアンの近現代社会史・文化史、文化人類学
- ②植民地主義、冷戦、レイシズムをキーワードに、人々の行為主体性を重視しながら研究している
- ③①『北に渡った言語学者』人文書院, 2021 ②共編『東アジアの記憶の場』河出書房新社, 2011 ③『朝鮮近代の歴史民族誌』明石書店, 2008

小林 久高 教授

- ①現代日本の社会意識
- ②政治、経済、地域社会、家族などに対する意識は相互に関連しており、その元には深層の社会意識ともいべきものが存在する。この基層的な社会意識を理論的な観点から整理するとともに、経験的データをもとに、現代日本人々の基礎にある社会意識の姿を明らかにする。
- ③①『公共性の精神的基盤』『社会分析』日本社会分析学会, 2012, 39. ②『共同性の精神的基盤と社会階層』『評論社会科学』2009, 87, 1-28.

森 千香子 教授

- ①国際社会学、都市社会学
- ②都市空間とレイシズムの関係、多文化都市における共生と排除、セグリゲーション、ジェントリフィケーション
- ③①『ブルックリン化する世界:NYのジェントリフィケーションと多文化共生』東京大学出版会, 2023 ②編著『移民現象の新展開』岩波書店, 2020 ③『排除と抵抗の郊外:フランス(移民)集住地域の形成と変容』東京大学出版会, 2016

尾嶋 史章 教授

- ①社会階層と社会移動、教育社会学、社会調査法
- ②教育機会や所得の不平等に関する計量的研究、Webを用いた社会調査の方法
- ③①共編『高校生たちのゆくえ』世界思想社, 2018 ②共編『現代の階層社会1 格差と多様性』東京大学出版会, 2011 ③共著Quality and Inequality of Education: Cross-National Perspectives, Springer, 2010, 229-253, 275-297.

立木 茂雄 教授

- ①平時の専門職主体の福祉サービスと災害時の地域住民主導の防災対策の分断が、災害時に在宅で暮らす高齢者や障がい者に被害が集中する根本原因であることを踏まえた、福祉専門職と共に進める「誰一人取り残さない」防災の基本技術の開発と、国内外での社会実装
- ②平時の専門職によるケアプランに加えて、災害時に備えて近隣住民による個別避難計画を予め災害時ケアプランとして福祉専門職も作成に業務として関与する対策を開発した。2021年度の災害対策基本法改正では、このような取り組みがすべての自治体で努力義務化された。
- ③①Longitudinal Impacts of Pre-existing Inequalities and Social Environmental Changes on Life Recovery: Results of the 1995 Kobe Earthquake and the 2011 Great East Japan Earthquake Recovery Studies, International Journal of Mass Emergency and Disaster.(in press) ②『災害と復興の社会学(増補版)』萌書房, 2022

鶴飼 孝造 教授

- ①ネットワーク社会と資本主義
- ②グローバル化や情報社会が深化する世界の中で、環境と人の関係はどのように変化するのか? 「ネットワーク」と「資本主義」をキーワードに研究している。
- ③共著『社会ネットワークのリーサー・メソッド』ミネルヴァ書房, 2010

産業関係学専攻

阿形 健司 教授

- ①職業の社会学
- ②労働市場における職業資格の効用や役割がどのようなものかを調査データを用いて実証的に明らかにする。
- ③①『生涯学習における職業資格の二側面』『日本生涯教育学会年報』2014, (35), 33-44. ②『職業資格の効用をどう捉えるか』『日本労働研究雑誌』2009, 52(1), 20-27.

松山 一紀 教授

- ①フォロワーシップ論、組織行動論、戦略的人的資源管理論
- ②「こと・ば」=事業・共同体に従うことをフォロワーシップとして捉えることによって、組織における人間行動の発生メカニズムと、HRMへの応用および実装について研究している。
- ③①『フォロワーシップ行動論:「こと・ば」と言葉』中央経済社, 2023 ②『戦略的人的資源管理論』白桃書房, 2015 ③『日本人労働者の帰属意識』ミネルヴァ書房, 2014

三山 雅子 教授

- ①日本における非正社員労働問題
- ②日本企業の雇用形態管理とそれが労働者にもたらすもの、つまり日本における非正社員労働問題を研究
- ③『働き方改革とジェンダー・日本の雇用システム〜カイゼン・原価低減モデルの失速〜』『経済社会とジェンダー』2018, 3, 23-42.

寺井 基博 准教授

- ①労働の法と政策
- ②ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた法政策、産業関係学と労働法学の融合
- ③①『日本のジョブ型雇用の行方』『評論・社会科学』2022, (142), 21-37. ②『雇用におけるダイバーシティ&インクルージョンの意義ー女性活躍推進を分析の起点としてー』『評論・社会科学』2022, (140), 79-107.

富田 安信 教授

- ①多様な人々が活躍する職場づくり
- ②壮年期の男性だけでなく、女性、若年者、高齢者、そして、障害者、外国人も活躍できる職場の雇用管理のあり方について研究する。
- ③『高齢者が活躍する職場づくり』『じんけん』2018

上田 眞士 教授

- ①日本における雇用関係の制度的構築様式
- ②仕事管理の制度的機構の記述と報酬管理の制度的機構の記述、その両者の論理的整合を通じて、日本における雇用関係のガバナンス様式の概念的な把握に、事例研究の方法で接近すること。
- ③共編著『パナソニックのグローバル経営ー仕事と報酬のガバナンス』ミネルヴァ書房, 2022

浦坂 純子 教授

- ①多様化する就業とキャリア
- ②労働者が生涯にわたって様々な移動を繰り返しつつ持続的にキャリアを形成する過程を分析し、社会における適材適所の達成を考究する
- ③①『あなたのキャリアのつくり方ーNPOを手がかりにー』筑摩書房, 2017 ②『なぜ「大学は出ておきなさい」と言われるのかーキャリアにつながる学び方ー』ちくまプリマー新書, 2009

TOPICS 「グローバル・リソース」の視点から多文化共生の課題に挑む

博士課程教育リーディングプログラムとは、文部科学省が推進する、世界的に質の高い大学院教育を提供するための事業です。本学からはグローバル・リソース・マネジメント・プログラムが採択されました。

本プログラムに、社会学研究科からは、「社会保障研究」を提供しています。

前期・後期課程を一貫した本教育プログラムを学ぶことにより、「グローバル・リソース・マネジメント」という文理融合の視点で、今日、最も困難な状況にある国から新興国までを対象に、強靱な精神と高度な倫理観を持って活躍していくグローバル・リーダーの養成を目指します。

法学研究科

政治学専攻
私法学専攻
公法学専攻



リーガルマインドと法学・
政治学的知識を身に付けた、
多彩な人材を育成する。

法学研究科とは

21世紀の社会は、法曹以外にも、法律や政治に関する高度の専門的素養を備えた人材を必要としています。例えば、司法書士や税理士、弁理士などの各種の資格試験合格者、公務員、民間企業法務セクションのスタッフ、国際機関の職員などです。こうした社会のニーズに応えるため、法学研究科博士前期課程では、多様なキャリア設計に対応する充実した教育体制を整えて、リーガルマインドとバランス感覚を兼ね備えたプロフェッショナルを養成しています。また、博士後期課程を経て、研究者として活躍する人材も輩出しています。

将来のキャリアに直結する3つの専攻

法学研究科が目指すのは、高度な知識を持ちながら、豊かな総合力を有する人材の育成です。そのため、「政治学」「私法学」「公法学」の3つの専攻において、専門的な知識と能力を修得できるカリキュラムを導入するとともに、例えば実務家を交えたディスカッションを行う科目や、判例研究を行う科目、ビジネス関連科目など、判断力や表現力を含む実践的な能力を養う科目も設置しています。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

政治学専攻

浅野 亮 教授

- ①現代中国政治、中国の国際的役割
- ②現代中国の政治、経済、軍事のダイナミクスを巨視的に分析する。
- ③分担執筆「中国の「知能化戦争」: 「パンデミック」以後、種としての人類の未来とディストピア」『文明と覇権から見る中国』ウェッジ, 2022, 231-273

長谷川 一年 教授

- ①西洋政治思想史・政治理論
- ②ナショナリズムの思想史的研究、レイシズムの比較研究、フランス共和主義研究
- ③①翻訳『国民とは何か』講談社学術文庫, 2022 ②共著『混沌の共和国—「文明化の使命」の時代における渡世のディスクール』ナカニシヤ出版, 2019 ③共著『知的公共圏の復権の試み』行路社, 2016

市川 喜崇 教授

- ①行政学、地方自治、日本の中央—地方関係(国と自治体の関係)
- ②日本の中央—地方関係の歴史的な形成過程、地方分権改革と平成の大合併の政治過程、道州制、福祉国家における中央—地方関係など
- ③『日本の中央—地方関係—現代型集権体制の起源と福祉国家』法律文化社, 2012

飯田 健 教授

- ①政治行動論、政治学方法論
- ②日米を中心とする有権者の投票行動、政治意識、世論の計量分析。
- ③①『有権者のリスク態度と投票行動』木鐸社, 2016 ②『計量政治分析』共立出版, 2013

兼原 信克 特別客員教授

- ①安全保障政策決定過程の研究
- ②日本を取り巻く国際環境の変化(中国の台頭、北朝鮮の核武装、ロシアのウクライナ侵攻等)に対応して、日本がどのように安全保障政策を形成実施しているかを研究する。
- ③①『安全保障戦略』日本経済新聞出版社, 2021 ②『歴史の教訓』新潮新書, 2020

森 裕城 教授

- ①現代日本の政治過程
- ②現代日本の政治過程(選挙・政党・利益団体)に関する調査と分析
- ③①『日本の政治過程—選挙・政党・利益団体研究編』木鐸社, 2022 ②共著『総選挙の得票分析 1958-2005』木鐸社, 2007 ③『日本社会党の研究—路線転換の政治過程』木鐸社, 2001

森 靖夫 教授

- ①日本政治史、政軍関係、総力戦体制論
- ②国際比較に基づく日本の総力戦体制の再検討。戦間期日本の産業政策・資源戦略の研究。
- ③①『「国家総動員」の時代: 比較の視座から』名古屋大学出版会, 2020 ②『永田鉄山』ミネルヴァ書房, 2011 ③『日本陸軍と日中戦争への道—軍事統制システムをめぐる攻防』ミネルヴァ書房, 2010

村田 晃嗣 教授

- ①戦後アメリカの外交政策、日米同盟の歴史と課題
- ②戦後アメリカ外交を大統領のリーダーシップや大衆文化(映画など)との関連から分析する。
- ③『トランプvsバイデン』PHP新書, 2021

西澤 由隆 教授

- ①民主主義・選挙・世論
- ②世論調査データによる政治文化の国際比較・統計分析
- ③Electoral Survey Methodology: Insight from Japan on using computer-assisted personal interviews, Routledge, 2016, 1-134.

大矢根 聡 教授

- ①国際関係の理論と国際政治経済の分析
- ②グローバルな課題をめぐる国際交渉を理論的に分析しており、米中対立、サミット、アジアの地域制度などを対象にしている。
- ③①編著『国際関係理論と日本外交史』勁草書房, 2020 ②『国際レゾームと日米の外交構想』有斐閣, 2012 ③共著『Trade Liberalization and APEC』Routledge, 2012

力久 昌幸 教授

- ①EU離脱に伴うイギリスの対外関係と領域政治の変化
- ②EU離脱(ブレグジット)後のイギリスのグローバル・ブリテン戦略、スコットランド独立およびアイルランド南北統一による国家解体リスクに関する研究
- ③共著『ブレグジットという激震: 混乱するイギリス政治』ミネルヴァ書房, 2021

寺田 貴 教授

- ①米中経済覇権競争の要因とインド太平洋秩序形成への影響
- ②米中覇権競争に関して、通商、開発、金融におけるルール・メイキング、それを支える国際制度・地域制度において、特に両国の行動、意思、その影響力を比較し、分析する。
- ③『東アジアとアジア太平洋: 競合する地域統合』東京大学出版会, 2013

鷺江 義勝 教授

- ①地域研究(欧州)、欧州同盟の政治
- ②第2次世界大戦後、欧州で組織された欧州同盟(EU)は、従来の国際組織とは全く異なる試みであり、この研究は新たな国際社会の可能性を追求するものである。
- ③編著『EU—欧州統合の現在(第4版)』創元社, 2020

私法学専攻

深谷 格 教授

- ①債権法、フランス民法史
- ②日仏の相続制度の比較研究。フランス民法起草委員ポルタリスの法思想の研究。
- ③①共編著『生と死の民法学』成文堂, 2022 ②共編著『大改正時代の民法学』成文堂, 2017 ③『相続の構造と機能』成文堂, 2013

船津 浩司 教授

- ①会社法、金融・資本市場法
- ②グループ企業に対する会社法的規制のあり方、金融分野における技術革新に対する法規制のあり方
- ③①「上場子会社をめぐる会社法的規律のあり方」『NBL』, 2020, 1166, 40-48. ②「ドイツの支払サービス監督法制の概要」『同志社法学』, 2019, 71(1), 519-544. ③「会議体としての株主総会の未来を考える」『商事法務』, 2018, 2186, 4-13.

林 昭一 教授

- ①民事訴訟における証拠法に関する研究
- ②証拠収集・提出過程における当事者行為の規律
- ③「戦前期ドイツ法における証明妨害論の生成と展開—訴訟法的規制と実体的規制の交錯という視点から—(一)(二・完)」『民商法雑誌』2002, 126(3), 58-100. (4/5), 216-246.

林 貴美 教授

- ①家族の変容と国際私法
- ②国境を越えて移動する家族・子の保護やグローバル化社会における家族をめぐる新たな問題に対する抵触法的観点からの比較法的検討
- ③共著『国際私法(第3版)』有斐閣, 2022

廣田 浩 教授

- ①日本のグローバル企業の法務実務
- ②関心のあるテーマとしては、ビジネスにおいてなぜ紛争が起こるのか(その原因とメカニズム)、負け筋の紛争を勝利に導く実務上の「奇跡」を起こすために必要なものは何か、米国の stare decisis の虚構性(判例集に載らない判例には事実上先例拘束性がないこと)

井関 涼子 教授

- ①特許法・商標法と公益
- ②特許権の存続期間延長制度における特許権と特許発明の自由利用との調整・商標登録における公益の考慮
- ③①「特許権の存続期間延長登録要件と延長特許権の効力の実質的判断—ナルフラフィン特許訴訟を契機として」『特許研究』, 2021, (72), 6-25. ②「公序良俗違反に基づく商標の不登録事由—米国「REDSKINS」商標登録取消審決を題材に」編著『中山信弘先生古稀記念論文集』弘文堂, 2015, 812-835.

伊藤 靖史 教授

- ①株式会社の経営機構・財務・M&Aに関する法的諸問題
- ②株式会社に関する法規制の問題として特に重要な、経営機構、財務、M&Aに関する法解釈論・立法論的な研究をしている。
- ③『経営者の報酬の法的規律』有斐閣, 2013

梶山 玉香 教授

- ①債権回収をめぐる諸問題の研究
- ②債務者の生活・経済活動の保障と、「与信」の前提・債権回収の「抛り所」としての債務者財産や担保目的財産の価値の維持、債権者による関与の在り方に関する研究。
- ③共著『ユリカ民法2 物権・担保物権』法律文化社, 2018

釜田 薫子 教授

- ①株式会社におけるコーポレート・ガバナンス
- ②企業組織の運営における取締役の義務と責任、内部統制システムの日米比較研究
- ③「内部統制における取締役会の役割—ALI『コンプライアンスおよびリスク管理の実施についての原理』第1試案の検討を中心に」『川瀨昇先生・前田雅弘先生・洲崎博史先生・北村雅史先生選集記念—企業と法をめぐる現代的課題』商事法務, 2021

神谷 遊 教授

- ①現代社会における家族法の機能
- ②離婚法における破綻主義の機能とその限界、成年後見制度の新展開
- ③①共著『新注釈民法(17) 親族(1)』有斐閣, 2017 ②『ドイツ離婚法における苛酷条項の生成』『家族と社会と法』, 1992, (8), 49-68.

川口 恭弘 教授

- ①会社法・金融商品取引法・銀行規制法
- ②金融機関に関する法的諸問題、特に会社法と交錯する問題についての検討
- ③①『金融機関の私企業性と公益性—銀行規制法と会社法の交錯』有斐閣、2022 ②『アメリカ銀行法』弘文堂、2020

川嶋 四郎 教授

- ①民事訴訟法、民事執行・保全法、倒産法、ADR、裁判制度論等の民事救済手続システムについての総合的な研究
- ②民事訴訟法を中核とする民事手続法領域で、紛争当事者が民事手続過程を通じてどのように公正な救済を獲得することができるかに関して、歴史や法比較を交えて理論的かつ実践的な研究を実施している
- ③①『日本史のなかの裁判』法律文化社、2022 ②『民事訴訟の簡易救済法理』弘文堂、2020 ③『民事訴訟法概説(第3版)』弘文堂、2019

川和 功子 教授

- ①契約法、不法行為法、消費者法、デジタル化社会における法制度にかかわる比較法的研究
- ②デジタル化社会における多様化した消費者取引に対応した法制度についての比較法的研究、デジタル取引に係る契約法及び消費者法の再構築に向けた比較法的研究
- ③①『デジタル社会における消費者の脆弱性:「デジタル脆弱性」に向けて—特集 デジタル社会における消費者法の課題:日本消費者法学会第15回大会資料』『現代消費者法』2022, (56), 5-14. ②『デジタル・コンテンツ及びデジタル・サービスの供給契約における契約適合性について』『比較法研究』2021, (82), 174-182.

金 春 教授

- ①倒産処理法についての比較研究
- ②日本法、アメリカ法、オーストラリア法、韓国法、中国法などを対象に倒産処理法の現代的課題(同法と民商法、金融取引法、労働法、国際私法等との関係をも含む)について比較研究を行う。
- ③①『オーストラリア倒産法』弘文堂、2022 ②『中国倒産法の実務と概要』商事法務、2011

木下 孝治 教授

- ①保険契約法及び保険業に対する監督規制
- ②保険契約の募集行為規制、行為規制のあり方に応じた募集主体規制、保険の販売方針を加味した保険約款条項の解釈のあり方
- ③①『顧客の意向の把握義務』『ジュリスト』2016, 1490, 20-26. ②『国際保険監督規制の現状と課題』『保険学雑誌』2016, 632, 65-79.

中西 正 教授

- ①民事手続法、私的整理、事業再生
- ②民事手続法全般を研究していますが、中心は、倒産実体法と、事業再生です。
- ③『ポストコロナの事業再生—地域金融機関の現場から見る論点と課題—』『事業再生と債権管理』2022, (175), 4-28.

萩野 奈緒 教授

- ①民法、フランス法
- ②契約不履行に関する日仏比較法研究
- ③①『フランス民事責任法における損害軽減義務をめぐる議論の動向』『現代独仏民事責任法の諸相』商事法務、2020, 57-79. ②共著『債権総論』日本評論社、2018

岡田 幸宏 教授

- ①民事判決の効力に関する研究
- ②民事訴訟法学の主要テーマである判決効(とくに既判力)について、その要件や内容(何に対して、あるいは誰に対して生じるのか)、不利益を受ける場合の救済方法などの研究。
- ③『既判力とその標準時』『民事訴訟法雑誌』2020, (66), 35-58.

大中 有信 教授

- ①契約の効力、日本における法律学の誕生とドイツ法との関係
- ②法律行為の成立と錯誤の影響、契約の効力と原因概念、日本の西洋法学の継受とドイツ法の果たした役割についての歴史的分析
- ③①共著『改正債権法:コンメンタール』法律文化社、2020 ②編著『ユーリカ 民法1 民法入門・総則』法律文化社、2019

佐々木 典子 教授

- ①法律行為と処分権との関係
- ②処分権の権利における位置づけ、及び、法律行為との関係
- ③分担執筆『授権概念の有用性についての検討—処分権を中心として』『債権法改正と民法学I』商事法務、2018

瀬領 真悟 教授

- ①市場経済下での企業・国家への法的規律研究(日米欧競争法比較、貿易紛争処理研究)
- ②競争法による企業活動規律や、国家による市場介入・貿易制限規律の研究。プラットフォーム・AI・技術革新についての取り組みが最先端。
- ③①共著 Competition Law and Policy in the Japanese Pharmaceutical Sector, Springer, 2022, 109-126 ②共著『ベーシック経済法(第5版)』有斐閣、2020

高橋 宏司 教授

- ①国際私法、国際民事訴訟法、国際取引法、ブロックチェーン・暗号資産法
- ②私法問題の国際的局から生ずる諸問題のほか、ブロックチェーン(分散台帳)や暗号資産が引き起こしている最先端の法律問題の検討
- ③Law Applicable to Proprietary Issues of Crypto-Assets, Journal of Private International Law, 2022, 18(3), 339-362.

高杉 直 教授

- ①国際関係私法(国際私法・国際取引法・国際民事手続法)
- ②国境を越える民間人・民間企業との関係(例えば、国際結婚や国際ビジネス)から生ずる法律問題や紛争の解決方法に関する研究
- ③①共編『国際民事手続法』勁草書房、2022 ②共編『新・ケースで学ぶ国際私法』法律文化社、2020

土田 道夫 教授

- ①労働法全般。特に、労働法の中心を成す労働契約の解釈論および隣接企業法との交錯領域に関する研究
- ②労働契約法、労使関係法、労働法政策論、隣接企業法(会社法・知的財産法・国際私法・競争法など)との交錯領域における最先端のテーマに取り組んで研究している
- ③①『労働法概説(第4版)』弘文堂、2019 ②『労働契約法(第2版)』有斐閣、2016

上田 誠一郎 教授

- ①法律行為・契約の基礎理論の比較法的研究
- ②契約・遺言における当事者・遺言者の意思の実現過程における基本的な諸問題について、日本法とドイツ法・フランス法・英米法などの比較法的研究を行う
- ③①『遺言事項法定主義再考』『同志社法学』2021, 72(7), 65-100. ②共著『松岡・中田編・新コンメンタール民法(財産法)(第2版)』日本評論社、2020 ③編著『債権総論・契約総論』法律文化社、2018 ④『契約解釈の限界と不明確条項解釈準則』日本評論社、2003

上田 達子 教授

- ①労働法・社会保障法。とくに労働災害の補償と予防に関する研究
- ②日本における労働災害の補償と予防に関する法制度について、比較法的研究による成果も踏まえながら考察する。
- ③『労働安全衛生法に基づく職場における健康確保・傷病予防の推進』『同志社法学』2018, (396), 371-394.

渡邊 義広 教授

- ①労働法
- ②使用者側の立場からの考察。特に、労働立法、紛争解決機関についての検討
- ③『経済界から見た労働基準法の改正の評価と課題』『ジュリスト』2003, 1255, 58-59.

山根 崇邦 教授

- ①営業秘密・限定提供データの保護
- ②営業秘密・データ保護の裁判例分析および比較法的研究
- ③①『営業秘密侵害と差止請求』『別冊パテント』2022, (27), 229-262. ②『営業秘密侵害と損害賠償』『特許研究』2020, (70), 51-70. ③『アメリカにおける営業秘密の保護(1)-(3-完)』『知的財産法政策学研究』2019, (53), 1-44. 2020, (55), 1-30. 2021, (59), 7-92.

公法学専攻

新井 京 教授

- ①国際人道法
- ②正規軍間の紛争を規律するため発展した国際人道法が、武力紛争の多様化、戦闘手段の変質、社会の戦争観の変遷、国際法の発展等にどう適応しているかの研究
- ③①『沖繩の引き延ばされた占領:アメリカ世の法的基盤』有斐閣、2023 ②Between Consented and Un-Contested Occupation, Israel Law Review, 2018, 51(3), 365-388.

浅田 正彦 教授

- ①国際安全保障法を中心とする国際法一般
- ②武力行使、国連の集団安全保障、経済制裁、核軍縮・不拡散などを素材にした国際法の一般理論の研究
- ③①Economic Sanctions in International Law and Practice, Routledge, 2020 ②『日中戦後賠償と国際法』東信堂、2015

浅野 有紀 教授

- ①法哲学、私法の基礎理論、法多元主義
- ②私法や非国家法の理論における法概念、法的性質、事例の研究
- ③①『法多元主義』弘文堂、2018
②Self-regulations and Constitutional Law in Japan as Seen from the Perspective of Legal Pluralism, Journal of Japanese Law, Special Issue, 2018, 10, 147-156.

濱 真一郎 教授

- ①現代正義論と価値多元論の可能性
- ②アイザイア・バーリンの価値多元論の研究、法の一般理論としての法概念論
- ③①『ハート対ドゥオーキン論争のコンテクスト』成文堂、2020
②『バーリンとロマン主義』成文堂、2017
③『法実証主義の現代的展開』成文堂、2014
④『バーリンの自由論—多元論的リベラリズムの系譜』勁草書房、2008

濱田 毅 教授

- ①刑事訴訟における捜査法、訴因論及び証拠法
- ②捜査差押、取調べ、訴因構成の在り方、実務における違法収集証拠、英米法の知見を生かした伝聞法則
- ③①『新たな取調べ受忍義務肯定説』について『同志社法学』2022, 74(1), 25-142. ②『非伝聞の許容性と『衡量基準』』『同志社法学』2021, 73(6), 1149-1245.

戒能 通弘 博士後期課程教授

- ①近代イギリス・アメリカの法思想史
- ②17世紀から19世紀までの近代英米の裁判や立法をめぐる法思想の研究
- ③①共著 Bentham on Democracy, Courts, and Codification, Cambridge UP, 2022 ②Bentham as a Theorist of the Rule of Law and His Idea of Universal Interest, Ratio Juris, 2022, 35(1), 55-70.

勝山 教子 教授

- ①憲法と議会制度—日仏比較を中心として—
- ②フランス議会の憲法構造、統治制度の規範構造と政治実践、政府の議会的統制、議会改革に関する研究
- ③共著『国会を考える』三省堂、2017

川崎 友巳 教授

- ①経済犯罪への刑法上の対応
- ②企業犯罪への刑事法上の対応について、英米を中心とした海外との比較を踏まえつつ、多角的に検討
- ③①『犯罪タイポロジー(第2版)』成文堂、2014 ②『企業の刑事責任』成文堂、2004

木下 麻奈子 教授

- ①規範の生成・構造・伝達に関する研究
- ②法の生成過程、社会的機能、および構造に関する実証研究を行っている。
- ③①共編著『日本人から見た裁判員制度』勁草書房、2015 ②共著『法意識と紛争行動』東京大学出版会、2010

倉見 智亮 教授

- ①税法の基礎理論の再構成
- ②租税実体法・租税手続法の実証的研究・比較法研究
- ③①『課税所得計算調整制度の研究』成文堂、2021 ②『高校生のための税金入門』三省堂、2020 ③『基本原理から読み解く租税法入門』成文堂、2014

黒坂 則子 教授

- ①日米における環境規制の比較
- ②土壌汚染問題をはじめとして、様々な環境問題について、行政的アプローチから検討し、環境規制のあり方を研究している。
- ③『米国外スーパーファンド法上の潜在的責任当事者該当性に関する一考察—Atlantic Richfield判決を中心として—』『同志社法学』2022, 74(3), 539-577.

松原 久利 教授

- ①企業犯罪と刑事責任
- ②企業犯罪について、新たに立法的解決をしようとする場合に、正面から処罰規定を持たない現行法の下で提起された課題をいかにして克服すべきかという問題を解決し、妥当な立法の選択肢を明らかにする。
- ③『ドイツにおける団体制裁立法の動向—政府草案の実体法規定を中心に—』『高橋則夫先生古稀祝賀論文集(上)』成文堂、2022, 179-205.

松本 哲治 教授

- ①経済的自由権、自己決定権などに関する解釈論
- ②判例法理を批判的に分析するとともに、とくに救済の観点から、憲法訴訟論について研究を進めている。
- ③『不作為の違憲確認—在外日本国民最高裁判所裁判官国民審査権訴訟大法廷判決について』『憲法研究』2022, (11), 215.

西村 安博 教授

- ①日本法制史・日本法文化論
- ②日本法制史及び日本法文化論の研究—前近代社会の裁判規範及び裁判手続過程の研究—
- ③①共編著『新版 史料で読む日本法史』法律文化社、2016 ②共著『日本法制史』青林書院、2010

佐伯 祐二 教授

- ①行政手続法・行政争訟法の研究
- ②アメリカ行政法との比較の見地を踏まえた、行政手続法、行政不服審査法の検討
- ③『政府給付(Government Benefits)と適正手続(一)~(三・完)』『広島法学』1998, 21(4), 165-191. 22(2)59-78. 1999, 22(3), 23-35.

佐伯 彰洋 教授

- ①情報公開と個人情報保護
- ②情報公開法や個人情報保護法などの情報法制について、現在、SNS時代に対応できる情報法制の構築という課題に取り組んでおり、将来的には「情報」というモメントを通して行政法理論の再構築を試みたいと思っている。
- ③『情報公開制度における電子メールの公文書該当性』『立命館法学』2021, 393-394, 351-377.

洲見 光男 教授

- ①日米独自の刑事手続の比較研究
- ②研究対象国の刑事手続を支える基本原理の具体的な発現形態と各原理が提起している問題を考察する。
- ③『アメリカにおける取調べの規制—自白の証拠能力の制限—』『同志社法学』2018, 69(7), 889-915.

十河 太朗 教授

- ①共犯論
- ②複数の人が犯罪に関与した場合における各自の刑事責任
- ③①『共謀の射程について』『理論刑法学の探求 3』成文堂、2010 ②『身分犯の共犯』成文堂、2009

横田 光平 教授

- ①子どもに関する法の総合的理解
- ②子どもに関する法の総合的理解に向けた憲法、民法(家族法)、行政法(学校法、児童福祉法)、刑事法(少年法)の分野横断的研究
- ③『子ども法の基本構造』信山社、2010

TOPICS 次世代リーダー養成プログラム

法学研究科では、国境を越えて地球規模で発生する様々な問題に多面的に取り組み、その解決に貢献できる人材の養成を目指し、独自の海外大学留学(ダブル・ディグリー/単位互換)プログラムを実施しています。このプログラムでは、国内学生が海外の大学で学び、海外からの留学生が本学で学ぶ機会を提供するとともに、英語のみで実施する科目を設置するなど、国内学生と留学生が共修する場を設けています。これにより、異文化間の相互理解を前提とした法学・政治学研究の促進も期待できます。

企業法務プロフェッショナル育成プログラム

事業環境が変化し、コンプライアンス(法令遵守)の重要性が増す中で、企業内で法的知識や技能を有する人材がますます必要とされています。法学研究科では、民間企業の法務セクションで働くプロフェッショナルを育成するためのプログラムを実施し、企業人が具体的問題を紹介・解説する「企業法務ベーシック」や、法務・知的財産部門に特化したインターンシップ「リーガル・フィールドワーク」といった独自の科目を展開しています。こうした科目の履修を通じて、企業内で法的問題がどのように議論され、解決されているのかを見聞し、「生きた法律」を体験することができます。

経済学研究科

理論経済学専攻
(前期課程)

応用経済学専攻
(前期課程)

経済政策専攻
(後期課程)



専門知識と分析力、応用力を備えた
経世済民に貢献し得る人物を育てる。

経済学研究科とは

同志社大学大学院経済学研究科は、同志社における教育理念である“キリスト教主義”“自由主義”“国際主義”の下、最新の学問と、歴史の中で培われてきた伝統と文化をバックボーンに、現代社会に求められる能力を養成するインキュベータとしての社会的機能を担っています。ここでいう能力とは、新しい学術的発見を生み出す力、新しいビジネスモデルを提案する力、新しい社会システムを提唱する力、新しい政策プログラムを構築する力であり、これらのクリエイティブな能力こそが、21世紀の国際競争力の源泉となり、グローバル経済を支える力となります。グローバル化が進む社会において、専門的能力だけでなく、経済・社会環境の変化に対して的確に対応できる能力、語学力を含めた国際感覚を有したグローバルist&スペシャリストの重要性はますます高まっています。本経済学研究科は、研究者の養成はもちろん、計量分析能力、数理分析能力、歴史分析能力、政策分析能力、文化マネジメント能力、環境マネジメント能力を有し、社会の中で政策立案者や専門職業人などにもなり得る人物を養成します。

前期課程の理論経済学専攻と応用経済学専攻に特色ある4つのコースを開設

理論経済学専攻

理論分析コース

経済社会のメカニズムを探る「理論経済学」、それを国際経済に適用する「国際経済学」、現実経済から将来を予測する手法を研究する「計量経済学」など経済学の根幹的な教育・研究を行います。

政治経済学・経済史コース

社会を「時間」と「空間」の軸で捉え、政治経済学的手法を使って、制度(慣習)、文化、歴史の分析を含め、日本、アジア、ヨーロッパ、アメリカなどをカバーした教育・研究を行います。

応用経済学専攻

アブライド・エコノミクスコース

日本経済を切り拓くためには、理論的基盤に立った経済システムの理解と政策立案・遂行能力を持つ専門家の育成が必要と考え、公共経済や金融、経済政策などの応用分野の教育・研究を行います。

クリエイティブ・エコノミーコース

「家族」「文化」「環境」を柱に人間が継続的に安定した生活を送る上で必要な理論の再構築とその実践を目標に、社会保障論や文化経済学、資源環境経済学などの経済学的手法を基礎とした教育・研究を行います。



アドミッション・ポリシー



詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

理論経済学専攻

理論分析コース

荒渡 良 准教授

- ①マクロ経済学
- ②財政政策や金融政策に関するマクロ経済理論分析
- ③ On the Nonlinear Relationship between Inflation and Growth: A Theoretical Exposition, Journal of Monetary Economics, 2018, 94, 79-93.

本領 崇一 准教授

- ①情報の政治学/情報の経済学
- ②不完備情報のゲーム理論、あるいはメカニズムデザインの理論に基づいて、政治・経済問題における、情報の発信/隠匿に関する諸問題を分析する
- ③① Idiosyncratic Information and Vague Communication, American Political Science Review, 2021, 115(1), 165-178. ② Dynamic Persuasion, Journal of Economic Theory, 2018, 178, 36-58.

茂見 岳志 教授

- ①一般均衡理論/メカニズムデザイン
- ②不完備市場が引き起こす一般均衡理論の諸問題の分析/多数の消費者が存在する交換経済における財配分メカニズムの分析
- ③ Locally efficient and strategy-proof allocation mechanisms in exchange economies, Review of Economic Design, 2022

落合 仁司 教授

- ①美と芸術の経済学
- ②美の享楽と芸術表現への数理的アプローチ
- ③『美学の数理—美の消費と芸術の生産—』晃洋書房, 2022

田中 靖人 教授

- ①市場、企業、消費者を対象とした純粋および応用ミクロ経済学
- ②寡占理論、ゲーム理論とその応用、貿易政策の理論
- ③『ゲーム理論と寡占』中央大学出版部, 2001

岩澤 政宗 准教授

- ①統計学・計量経済学
- ②統計学・計量経済学の理論研究とその応用
- ③① 共著 Tying Maximum Likelihood Estimation for Dependent Data, Electronic Journal, 2022 ② 共著 Optimal Minimax Rates of Specification Testing with Data-driven Bandwidth, KIER Discussion Paper Series, 2021, 1053.

政治経済学・経済史コース

福岡 正章 教授

- ①近現代東アジアの工業化史
- ②日系商社の投融資活動と東アジア工業化の歴史的展開に関する研究、植民地期における朝鮮半島の工業化史に関する研究、解放から1960年代にかけての韓国繊維産業に関する研究、植民地における日本帝国の戦時動員に関する研究
- ③「朝鮮における繊維製品取引の一特徴—繊維専門商社と卸売商を中心に」『歴史と経済』2019, (243), 44-59.

西岡 幹雄 教授

- ①英米日における比較経済社会とその経済思想
- ②直面するリスクを克服して、政治・経済・文化・社会を安定的に発展させるための枠組みの革新と伝統について、英米・西ヨーロッパおよび日本における比較経済とその経済思想からアプローチする。とくに企業家・産業・都市などのテーマに関心を寄せている。
- ③ Ideas and Economy in Japan: Innovation and Tradition, 有斐閣, 2022

大野 隆 教授

- ①政治経済学
- ②資本主義経済システムの特徴の一つである資本家と労働者の労使コンフリクトが、マクロ経済に与える影響を多面的に考察。
- ③ Models of competition between firms: Endogenous market structure in the Kaleckian model, Metroeconomica, 2013, 64(1), 103-124.

小野塚 佳光 教授

- ①国際秩序の歴史的変容
- ②通貨危機や移民問題に見る各地の政策論争とそれが意味する政治経済秩序の歴史的変容、特に、国際通貨システムの改革論
- ③①『プレグジット×トランプの時代—金融危機と民主主義の溶解』朝野書房, 2020 ②「国際通貨体制における危機：政治的視点」『経済学論叢』2003, 54(4), 822-845.

菅 一城 教授

- ①近現代イギリス社会経済史・都市史
- ②19世紀南ウェールズの製鉄業、19世紀～20世紀南ウェールズの都市開発、20世紀後半イングランドのニュータウン開発
- ③ The nature of decision-making in the post-war New Towns policy: the case of Basildon, c.1945-70, 20th Century British History, 2005, 16(2), 146-169.

谷村 智輝 教授

- ①現代資本主義論、政治経済学
- ②企業利潤率の長期的変動に関する研究による現代資本主義の構造変化と長期停滞論、政治経済学にもとづく資本の再生産過程と恐慌の理論研究
- ③ 共著「再生産と恐慌論」『恐慌論の論点と分析』創風社, 2014

角井 正幸 教授

- ①アメリカ合衆国における農業部門の史的展開に関する実証分析
- ②19世紀のアメリカ合衆国における農業および農村の発展、計量経済史(クリオメトリクス)
- ③「開拓期西部農村における農家世帯の存続と世帯規模—アイオワ州ビレッジ村の事例—」『経済学論叢』2020, 71(4) 261-279.

山森 亮 教授

- ①社会政策、経済哲学、連帯経済
- ②経済理論における必要概念の再検討、女性解放運動の経済思想と社会政策など
- ③ The concept of need in Adam Smith, Cambridge Journal of Economics, 2017, 41(2), 327-347.

横井 和彦 教授

- ①経済のグローバル化と中国経済
- ②新型コロナウイルス感染症のパンデミックとそれに伴う景気低迷、米中関係悪化等から、これまで中国に進出した多くの国の企業が生産体制の見直しを迫られ、各国政府もそれを後押ししている。世界経済の構図の変化を中国経済のグローバル化を焦点に検討する。
- ③ 編者「米中貿易『戦争』の本質：中国経済の『グローバル化』」『現代中国の経済と社会』中央経済社, 2022

応用経済学専攻

アプライド・エコノミクスコース

東 良彰 教授

- ①生産、分配、貯蓄および資本蓄積に関する研究
- ②日本のマクロ経済を主な研究の対象として、民間の貯蓄過剰を解消するために必要な政策や自然利子率の低下要因について考察している。
- ③「日本の長期停滞に関する考察—人口動態の影響を中心に—」『経済学論叢』2018, 69(4), 197-234.

北川 雅章 教授

- ①日本経済とマクロ経済学の理論的・計量的研究—金融政策の効果波及経路を中心に—
- ②金融政策の有効性と限界に関して、効果波及経路や範囲・程度を研究
- ③「ゼロ金利政策、量的金融緩和政策と名目GDP目標政策、物価水準目標政策—シミュレーション分析による評価—」『龍谷大学経済学論集』2005, 45(2), 77-97.

北坂 真一 教授

- ①日本経済論、マクロ経済学、計量経済学
- ②日本経済について、主にマクロ経済学の視点から実証分析を行う
- ③「アベノミクスと金融政策：2012年秋から2018年夏まで」『アベノミクスの成否』勁草書房, 2019

小林 千春 教授

- ①ネットワーク産業に関する経済分析
- ②電気事業、水道事業などのネットワーク産業に関する実証分析
- ③ Productivity Growth in the Electric Power Industry: A Comparative Study of Japan, the United States, and Korea, Public Finance and Management, 2005, 5(3), 421-438.

小藤 弘樹 教授

- ①地域・都市経済研究
- ②経済活動の空間的分布を軸に据えた、地域と都市が抱える経済に関する諸問題についての研究
- ③『社会的共通資本と経済活動の集積』同志社大学経済学会, 2002

久保 徳次郎 教授

- ①金融派生商品のプライシングのための数値計算法の研究
- ②確率的ボラティリティ・モデルを使って、先物やオプションなどのデリバティブの理論値を数値計算するためのプログラムの研究
- ③「ダブルHestonモデルのパラメータ推定と微分進化アルゴリズム-C#によるプログラム」『経済学論叢』2022, 73(4), 577-635.

宮本 大 教授

- ①労働経済、人的資源管理、数量データによる実証分析
- ②労働経済学やHRMの分析枠組みを利用して日本企業の人材マネジメント、とりわけ能力開発に焦点をあて、その効果を明らかにする研究
- ③共著『グローバル研究開発人材の育成とマネジメント』中央経済社, 2019

新関 三希代 教授

- ①金融市場の事象についての実証分析
- ②金融市場において確認されているアノマリー等を実際のデータを用いて実証分析し、経済理論(ファイナンス理論や行動ファイナンス理論)を用いて説明する研究
- ③共著『マクロ経済学の視点(第3版)』八千代出版, 2022

鹿野 嘉昭 教授

- ①日本経済と金融
- ②主として金融面での動きを中心として日本経済の特色や政策課題について分析する
- ③『日本の金融制度(第3版)』東洋経済新報社, 2013

竹廣 良司 教授

- ①企業の組織と行動に関する分析
- ②企業の組織や戦略的行動、企業間関係、およびそれらの相互関係についての企業データを用いた計量分析
- ③共著 Total Labor Cost and Employment Adjustment Behavior of Large Japanese Firms, The University of Chicago Press, 2003, 135-155

和田 美憲 准教授

- ①宗教経済学
- ②宗教教団の経営や戦略および信者の信仰行動や心理に関する理論的・実証的研究
- ③The Macro-Economic Influences on a New Religious Group in Japan, Journal of Economics, Management and Religion, 2021, 2(2), 1-18.

原田 禎夫 准教授

- ①地域社会と市民参加に関する政策的な研究
- ②環境保全や公共交通の維持など、地域社会を支える市民参加のあり方に関する研究
- ③①「プラスチック汚染にどう立ち向かうのかー社会的営業免許(SLO)の可能性をさぐる」『環境経済・政策研究』2020, 13(1), 12-26. ②共編著『京の筏: コモンズとしての保津川』ナカニシヤ出版, 2016

クリエイティブ・エコノミーコース

船橋 恒裕 教授

- ①少子高齢社会における経済と福祉問題
- ②我が国における社会の少子高齢化に伴う経済的、社会福祉学的問題についての研究および欧米諸国等との比較分析
- ③「介護費用支出の地域特性の分析」『経済学論叢』2009, 61(2), 249-273.

石田 葉月 教授

- ①資源・エネルギー経済学
- ②エネルギー及び天然資源と経済活動との関わりについての進化論的研究
- ③①『エネルギーと経済、そして人間』大学教育出版, 2017 ②The Effect of ICT Development on Economic Growth and Energy Consumption in Japan, Telematics and Informatics, 2015, 32(1), 79-88.

河島 伸子 教授

- ①文化経済学、文化政策論
- ②芸術文化、商業的文化を支える経済基盤と政策のあり方
- ③①『コンテンツ産業論(第二版)』ミネルヴァ書房, 2020 ②『新時代のミュージアム』ミネルヴァ書房, 2020 ③共編著 Asian Cultural Flows, Springer, 2018

三俣 学 教授

- ①エコロジー経済学、コモンズ論、環境ガバナンス論、自然アクセス制
- ②コモンズ論の視点から、森・川・海の地域共同の利用や管理の仕組みをどう構築しうるか
- ③①共著『森の経済学ー森が森らしく、人が人らしくある経済』日本評論社, 2022 ②「自然とのかかわりをどのように取り戻せるかー現代日本社会への自然アクセス制の示唆」『日経研月報』2022, 533, 32-37.

宮崎 耕 教授

- ①情報システムの研究
- ②応用情報学、情報システムの応用、情報通信技術による教育の高度化に関する研究
- ③①「マルチスクリーンを活用した高効率で効果的なアクティブラーニングの実践」『大学ICT推進協議会論文集』2013, 94-97. ②「激甚災害被災地における情報環境」『日本情報経営学会誌』1995, 16(2), 122-125.

宮澤 和俊 教授

- ①人口経済学、公共経済学、家族の経済学
- ②少子高齢化のマクロ経済効果を分析する。社会保障制度が経済成長や所得分配にどのような影響を与えるのかを分析する。
- ③①Elderly Empowerment, Fertility, and Public Pensions, ITPF, 2021 ②Capital Market Integration and Fiscal Sustainability, EER, 2019

太下 義之 教授

- ①文化政策全般
- ②アーツカウンシル(文化支援の専門組織)、表現の自由と検閲、超高齢社会とアート、食文化、ミュージアムの経営、オリンピックの文化プログラム等
- ③①分担執筆「デジタルアーカイブはどのようにしてアートの振興に貢献するか?」『デジタルアーカイブ・ベーシックス 4 アートシーンを支える』勉強出版, 2020 ②『アーツカウンシル アームズ・レンガスの現実を超えて』水曜社, 2017

和田 喜彦 教授

- ①エコロジー経済学、エコロジカル・フットプリント指標、鉱山・核開発等による公害と良心学
- ②「持続可能な開発」へのエコロジー経済学からの批判的検討、エコロジカル・フットプリント計算による生態学的観点からの持続可能性評価、鉱物資源・核開発、その他の公害の社会環境影響を良心学や建学の精神の観点から考察する。
- ③分担執筆「アメリカ合衆国のウラン鉱山・製錬所の社会環境影響: ナバホ先住民(ディネ)居留地の過去の負の遺産を中心に」『核開発時代の遺産: 未来責任を問う』昭和堂, 2017

八木 匡 教授

- ①知識創造のメカニズムを中心とした創造経済の解明と創造性向上のための政策研究
- ②創造性は、単に経済競争力の源泉のみではなく、様々なチャネルを通じて、幸福感の向上に寄与している。どのような知識創造のメカニズムが、どのように経済成長と幸福感の向上に影響するかを解明する。
- ③共著 Polyphony as a System for Delivering Co-Creation and the Empowerment of Individuals, The Kyoto Post-COVID Manifesto for Global Economics-Confronting our shattered society, Springer, 2022

四谷 晃一 教授

- ①経済成長理論、教育の経済分析
- ②段階、種類、動機の異なる教育がマクロ経済に及ぼす影響の理論分析
- ③①共著『メコン地域の経済ー観光・環境・教育ー』大学教育出版センター, 2006 ②Economic Growth and the Riskiness of Investment in Firm-specific Skills, EUROPEAN ECONOMIC REVIEW, ELSEVIER SCIENCE BV, 2005, 49(4), 1033-1049.

TOPICS 今日的な課題にタイムリーに取り組む「コンテンツラリー・スタディーズ」

「コンテンツラリー・スタディーズ」とは、それぞれの学問領域における現代的課題にトライし、新たなフロンティアを切り拓く科目です。これまでの大学院教育になかった経済・産業の現場の動きを実践的に体感できるチャレンジ精神あふれる科目です。

「コンテンツラリー・スタディーズ」の科目例

- 経済学のフロンティア
- ツーリズムと環境
- 社会包摂とレジリエントシステム
- 文化観光の現在と今後の課題
- 事業承継の理論と実践
- グローバル・ヒストリーとの対話

激変する不確実な産業社会を分析し、
現実の諸問題に対処する能力を養う。



商学研究科とは

国際化、情報化の進展は、従来の経済システムの急速な変容を促し、新たなビジネスモデルを生み出しています。本研究科では、激変する不確実な産業社会を、高度な専門的知識を持って精緻に分析し、変化する経済環境から生じる諸問題に対処していくことができる人材の育成を目指しています。

本研究科には、博士課程の前期課程と後期課程が設置されています。学部での教育課程で「ビジネスについての基礎的な専門知識を持つとともに幅広い見識を持った」学生を育成していますが、さらに自らの興味を抱いたテーマについて深く研究したいという学生の要求に応じてきました。

データサイエンス コース

データサイエンスコースは、社会科学の専門知識に基づき、データの分析と活用を通じて、ビジネス課題を解決できる人材の育成を目的とし、そのために必要とされる実証・理論分析を基礎とした研究指導を行います。

マーケティング コース

マーケティングコースでは、現代企業の成長発展に必要不可欠なマーケティングや物流そして商取引などに関する理論を学ぶだけではなく、企業が社会に提供する様々な財やサービスなどの仕組みなどについても学びます。

マネジメント コース

マネジメントコースは、経営に関わる諸問題について、組織、戦略、制度、歴史などの分野を中心に、文献、資料、フィールドワーク、統計解析などを用いて調査・分析する能力を養成し、研究者や高度専門職従事者を輩出します。

アカウンティング コース

現代において、会計情報は不可欠な経済的インフラです。アカウンティング・コースでは、理論、実証、実験などの様々な方法論を用いて、会計情報の作成とその利用について研究指導を行います。

カリキュラムの一例

<p>ファイナンス データ・アナリシス コーポレート・ファイナンス 地理情報システム ビジネス・エコノミクス インターナショナル・エコノミクス ビジネス・プログラミング 市場と人間</p> <p>など</p>	<p>マーケティング マーケティング戦略論 サービスマーケティング デジタルマーケティング 流通論 物流論 電子商取引論 国際商取引論 商業史</p> <p>など</p>	<p>戦略論 組織論 企業論 中小企業経営論 経営分析論 経営管理論 アントレプレナー論 イノベーション論</p> <p>など</p>	<p>財務会計論 管理会計論 監査論 財務諸表論 国際会計論 原価計算論 財務諸表分析 実験会计学</p> <p>など</p>
--	---	---	---



アドミッション・ポリシー



詳細は Web へ

崔 容薫 教授

- ①マーケティング・チャネル戦略、B2Bマーケティング
- ②マーケティング・チャネルの設計や管理行動と企業成果との関連性について、多様な理論的レンズを通じて実証的に分析しています。
- ③ Vertical and horizontal governance in multiple-channel systems, Journal of Business Research, 2023, 156, 113529-113529.

服部 茂幸 教授

- ①日本とアメリカの経済と経済政策に関する研究
- ②世界金融危機と黒田日銀の失敗を通じて経済学を問い直す。
- ③①『偽りの金融政策—格差と停滞のアベノミクス』岩波新書, 2017 ②『危機・不安定性・資本主義—金融不安定性の経済学』ミネルヴァ書房, 2012

久松 太郎 教授

- ①理論と歴史で分析する国際貿易
- ②米中貿易戦争として記憶に新しい報復関税論は、19世紀半ばの英国でもよく問題となった議論です。私はこのような貿易政策の学説史について研究しています。また、国際貿易の主要理論の出現から完成に至るまでの歴史的過程を考察することも私の研究の一部です。
- ③ Ricardo and the Construction of the 'Ricardian' Trade Model of Comparative Advantage, History of Economic Ideas, 2022, 30(3), 11-30.

今西 宏次 教授

- ①現代社会における企業の役割についての研究
- ②企業は、現代社会において極めて大きな影響力を有している。企業とはどのようなものであり、どのような役割を果たし、また果たすよう期待されているのか。私はこの問題を、コーポレート・ガバナンスや「企業と社会」に関する研究を通じて日々考えている。
- ③『株式会社の権力とコーポレート・ガバナンス』文真堂, 2006

稲見 亨 教授

- ①会計基準の国際的調和化に関する研究
- ②“世界各国共通の会計ルール”として、日本でも適用が開始されているIFRS(国際財務報告基準)の導入問題について、EU(欧州連合)、特にドイツにおける対応を中心に研究を進めている。
- ③①『国際的会計基準論』森山書店, 2020 ②監訳『ドイツ会計論』森山書店, 2018 ③『ドイツ会計国際化論』森山書店, 2004

河合 隆治 教授

- ①業績管理システムを中心とした管理会計に関する研究
- ②財務情報と非財務情報を併用した多面的な業績管理システムの設計および運用に関する実証研究
- ③「業績管理システム設計の決定要因:財務情報・非財務情報の整備に焦点を当てて」『原価計算研究』2020, 44(1), 61-74.

川満 直樹 教授

- ①商品史研究:商品が社会に与えた影響に関する史的研究
- ②洗濯機や自動車、そしてテレビなどの商品が人々のライフスタイルや価値観に、また社会に与えた影響について史的観点から研究を行っています。
- ③①『パキスタン財閥のファミリービジネス—後発国における工業化の発展動力—』ミネルヴァ書房, 2017 ②編著『商品と社会—ランドマーク商品の研究—』同文館出版, 2015

小島 秀信 准教授

- ①市場と制度の社会思想史的研究
- ②市場経済を基底的に支える社会的要素を思想史的に討究する。
- ③①『市場と共同性の政治経済思想』ミネルヴァ書房, 2022 ②『伝統主義と文明社会—エドモンド・パークの政治経済哲学』京都大学学術出版会, 2016

丸茂 俊彦 教授

- ①金融危機と金融システムの安定性に関する理論的研究
- ②金融危機の発生メカニズムの解明と金融規制の有効性に関する理論的研究
- ③『証券化と流動性の経済理論』千倉書房, 2016

溝淵 英之 准教授

- ①物価指数論、生産性分析、厚生
- ②より一般的な状況で利用可能な、汎用性の高い物価指数や生産性指数の開発と、それを応用した厚生水準の比較分析
- ③ A Superlative Index Number Formula for the Hicks-Moorsteen Productivity Index, Journal of Productivity Analysis, 2017, 48(2-3), 167-178.

長沼 健 教授

- ①国際電子商取引の普及要因とその構造の解明
- ②①COVID-19の影響による電子商取引の動向 ②DXと企業間電子商取引の変化(特に電子運送書類の普及) ③デジタルプラットフォーム(アマゾン、アリババ、楽天など)のビジネスモデル分析
- ③①「COVID-19の感染拡大による電子商取引の進展と海上運送への影響について」『日本法学』2022, 87(4), 101-120. ②『国際運送書類の歴史的変遷と電子化への潮流』文真堂, 2015

内藤 徹 教授

- ①地域の集積分散の理論的研究
- ②(1)少子高齢化社会における持続可能な社会保障制度に関する研究(2)地理情報システム(GIS)を用い、空間的特性を考慮した実証分析(3)複数地域における公企業の民営化政策が社会厚生に与える影響
- ③ Urbanization, waitlisted children, and childcare support in a two-region overlapping generations model, Regional Science Policy & Practice, 2020, 13(3), 1068-1089.

中川 優 教授

- ①企業活動のグローバル化と管理会計システム
- ②企業活動のグローバル化に伴う海外子会社のマネジメントとそれらを支えるインフラとしての管理会計システムに関する研究
- ③①「海外子会社コントロールにおける理念コントロールの実態:在北米子会社と在東南アジア子会社の比較を中心として」『同志社商学』2018, 69(6), 1139-1164. ②『管理会計のグローバル化』森山書店, 2004

太田原 準 教授

- ①技術経営的観点からの産業と経営の実証研究
- ②経営のフロンティアが直面している問題についてイノベーションの観点から可能なソリューションを研究する
- ③①共著『東アジア優位産業』中央経済社, 2020 ②共著『アジアの企業間競争』文真堂, 2015

佐藤 郁哉 教授

- ①組織の社会学的分析、社会調査の方法論
- ②非営利組織や公共機関も含めて社会学的組織論の視点から組織の構造と機能について研究を進めていく。あわせて実証研究の方法論について批判的な観点から検討を進めていく。
- ③①共著『制度と文化 組織を動かす見えない力』日本経済新聞社, 2004 ②『現代演劇のフィールドワーク』東京大学出版会, 1999

佐藤 誠二 教授

- ①財務報告制度の多国間比較—グローバル社会における会計の機能—
- ②IFRS(国際財務報告基準)をめぐるEUにおける会計基準の国際的統合問題を研究視野におき、EU主要国ドイツ等の対応を中心に検討
- ③①『会計基準の統合と分岐』森山書店, 2020 ②『国際的会計規準の形成』森山書店, 2011

関 智宏 教授

- ①日本における中小企業とアントレプレナーシップ
- ②日本における中小企業はアントレプレナーシップを発揮することで世界のなかでもより頑強な経営を展開している。その事実から経営理論の修正や新たな理論構築を試みる。
- ③①編著『中小企業研究の新天地』同友館, 2022 ②編著『新型コロナウイルス感染症と中小企業』同友館, 2022

志賀 理 教授

- ①現代の会計理論と会計基準・実務の本質的機能
- ②アメリカの会計理論、会計基準、会計実務を研究対象として、会計理論転換の本質的意味を説明することを研究目的としている。
- ③『会計認識領域拡大の論理』森山書店, 2011

田淵 太一 教授

- ①貿易・貨幣・権力から読み解く世界経済
- ②①リカードから現代までの貿易理論史 ②権力的要素の理解を含む世界経済論の構築
- ③①共編著 Ricardo and International Trade, Routledge, 2017 ②共編著 A New Construction of Ricardian Theory of International Trade, Springer, 2017 ③『貿易・貨幣・権力—国際経済学批判』法政大学出版局, 2006

田口 聡志 教授

- ①心理と行動の会計学:フューチャーデザイン
- ②会計の骨格たる記録や開示が、未来志向の人間行動を如何に引き出しうるかに着目した研究をおこなっている
- ③①『教養の会計学:ゲーム理論と実験でデザインする』ミネルヴァ書房, 2020 ②『実験制度会計論:未来の会計をデザインする』中央経済社, 2015

高橋 広行 教授

- ①デジタル時代の消費者行動とブランドディング
- ②カスタマー・ブランド・エンゲージメントを中心とした消費者行動とブランドの関係性
- ③①『購買履歴データを含めたカスタマー・ブランド・エンゲージメントの包括モデル』『マーケティングレビュー』2022, 3(1), 53-61. ②共著『持たない時代のマーケティング:サブスクとシェアリング・サービス』同文館, 2022

富田 健司 教授

- ①企業の経営戦略とビジネス・モデル
- ②スタートアップ企業の経営戦略を研究しています。特に創業など知識財を扱うスタートアップを研究対象としています。以前は創業企業のR&Dを研究してきました。他にも、スポーツや化粧品などのマーケティング戦略やビジネスモデルについても関心があります。
- ③『知識マーケティング』中央経済社, 2015

辻村 元男 教授

- ①不確実性下における企業の意思決定に関する研究
- ②リアルオプション・アプローチを用いた企業の意思決定
- ③共著 Assessing Capital Investment Strategy with Convex Adjustment Cost under Ambiguity, International Journal of Real Options and Strategy, 2022, 9, 11-39

植田 宏文 教授

- ①金融的原因と経済活動に関する理論・実証分析
- ②金融機関の貸出行動や投資家のポートフォリオ行動がマクロ経済に与える影響についての理論実証分析
- ③①『金融革新と不安定性の経済学』中央経済社, 2017 ②『金融不安定性の経済分析』晃洋書房, 2006

瓜生原 葉子 教授

- ①行動変容マネジメントによる社会価値の創造
- ②ソーシャルマーケティングの最適化プロセスとその普及、ウェルビーイングに資する行動変容促進モデルと共創幸福度尺度の開発
- ③①『行動科学でより良い社会をつくる—ソーシャルマーケティングによる社会課題の解決—』文真堂, 2021 ②『医療の組織イノベーション』中央経済社, 2012

山本 達司 教授

- ①会計情報を用いた企業戦略の評価
- ②企業は存続のために様々な企業戦略を行っています。私の研究テーマは、企業戦略の成果を会計情報を用いて評価することです。
- ③『企業戦略評価の理論と会計情報』中央経済社, 2002

吉川 英一郎 教授

- ①国際ビジネスの規範(ルール)及び国際取引紛争への対応とその予防
- ②国際企業のビジネス紛争に適用される契約法(ウィーン売買条約など)や関連法、国際企業が関わる民事訴訟や商事仲裁
- ③①『国際消費者契約を扱う日本の裁判例概観』『同志社商学』2021, 72(4), 1-59 ②共著『国際関係私法入門(第4版補訂)』有斐閣, 2021

TOPICS 大学院基礎演習 入学生の多様な志向性に対応

入学生の志向性が多様化する中で、これに対応した教育を行うことを目的として、大学院基礎演習制度を導入しています。これは、基礎演習を受講する中で研究分野をはっきり確定し、志向する専門と演習担当教員とのミスマッチを防ぐとともに、大学院生としての基本的な学問上のリテラシー(大学院での研究方法、資料の調べ方、論文の書き方)を身に付けてもらうことを目的としています。基礎演習を経て、それぞれに合った専門分野の担当教員からの指導を受けることにより、修士論文の完成へとつながっています。



高度な専門能力を備えた
新時代のゼネラリストを育てる。



総合政策科学研究科とは

総合政策科学研究科は、科学技術の著しい進歩や地球規模の環境問題の発生、グローバル化の急速な展開などに伴って、多様化・複雑化した現代社会の諸問題に対応できる「高度な専門知識と総合的な問題解決能力を備えた人材」を育成することを目的とした、21世紀の新時代の要請に応える大学院です。

総合政策科学専攻博士課程(前期課程)では、専門職業人として、政府、企業、NPO、NGOなどの各分野で活躍できるように、政策研究や社会革新のために必要となる能力の向上を念頭に置いた研究・教育体系を充実させています。

総合政策科学専攻博士課程(後期課程)では、高度な専門知識・能力を身に付けた上で、それらの知識・能力を総合化・体系化できる研究者や高度専門職業人の養成を目指しています。また、官公庁や企業、NPOなどにおいて実務を経験されてきた人たちに対して、高度な実務経験や研究成果を理論化するための研究の機会を提供することも、本研究科の大きな目的です。本研究科博士前期課程からの進学者以外にも、国内外の大学院修了者を積極的に受け入れ、修士課程を修了していない社会人にも、修士論文に代わるような研究業績を有している方には門戸を開放しています。

このような目的を達成するため、本研究科総合政策科学専攻では、前期課程、後期課程ともに専攻内に複数のコースを設置しており、受講生はそれぞれの研究テーマに合わせて入学時にコースを選択し、より深く体系的に総合的視点や問題解決能力を修得することができるようになっています。

注)・技術・革新的経営専攻(一貫制博士課程)は学生募集を停止しているため、当冊子では紹介しておりません。
・総合政策科学専攻(前期課程)図書館情報学コースは学生募集を停止しているため、当冊子では紹介しておりません。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

多様な研究分野の展開

総合政策科学専攻（前期課程）

政策研究コース

政策価値論や政策分析手法、意思決定論などの政策科学を基本ツールとして、政治学、経済学、法学、経営組織論などの個別ディシプリンを統合し、総合的・学際的アプローチから政策の分析評価や企画立案、実施を担う政策アナリストや政策立案者を育成します。受講生は、自治行政、財政、都市、環境、文化、スポーツ、福祉、雇用、経済・産業、企業経営、SDGsとジェンダー、国際関係、国際開発などの政策課題から各自のキャリアプランや関心領域に沿った特定の専門分野を選択することができます。将来、官公庁や企業、NPOなどで政策研究・実施・評価のスペシャリストとして活躍することを目指す方に適しています。

ソーシャル・イノベーションコース

ビジネスで用いられる事業的手法の活用やネットワークの形成によって「より良い社会」の実現を目指すソーシャル・イノベーターの育成を目指します。受講生は研究室で学んだ理論をキャンパス外での社会实践によって検証するため、社会实践とワークショップを企画実施し、“現場”構築による自らの提案を実践した結果を基礎とした学位論文の作成が求められます。政府、企業、市民社会の各セクターを横断して社会革新に寄与するNPOのリーダーや社会起業家、マネジメントの専門家を育成する特色ある実践型のコースです。本コースは日本で初めてソーシャル・イノベーションを冠する専門コースとして発足し、現在では広く国内外で知られる存在に発展しています。

総合政策科学専攻（後期課程）

公共政策コース

政策の企画立案、実施、評価・分析、そして解釈に関する専門知と実践知を持つエキスパートの人材育成が公共政策コースの目的です。こうした人材は現在、研究の世界で求められているだけでなく、国会や地方議会、中央政府の各府省、地方自治体、国際協力や国内地域開発関連の法人、医療や教育、福祉関係の機関、NPO・NGO、グローバル展開企業、地域の中堅企業など、様々な政策領域の実施組織において求められています。したがってこれらの求めに応え、政策関連テーマを社会科学の専門知を応用して「臨床的に」考え、調査研究する科目を豊富に用意しているところに公共政策コースの特徴があります。

企業政策コース

現在、企業の経営環境はめまぐるしく変化しています。国際的な経済情勢の変化や技術革新に伴い、経営戦略の転換、経営の効率化、多様化する人材の育成などを次々と実施していかなければ、企業は持続的に成長することはできません。企業政策コースでは、このような経営環境の変化に対応できる高度な専門能力を有し、経営戦略の策定や環境政策などの立案、また人的資源の管理などの分野で活躍する研究者、ビジネスパーソン、アントレプレナーの養成を目指して教育研究を行います。

国際政策コース

国際社会は、多様な課題を抱える一方で、それらの課題が相互に関連するという非常に困難な事態に直面しています。現在の国際社会における問題を発見し、分析・解決するには、既存のディシプリンだけでなく、それらを有機的につなげる手法が必要です。国際政策コースでは、国際経済、開発経済、国際政治などの学術分野において確立されている知見に加えて、政策科学のツールを用いて国際社会の様々な問題に取り組む研究者や高度専門職業人を養成することを目的としています。

ソーシャル・イノベーションコース

「より良い社会」の実現を目指すソーシャル・イノベーションコース博士課程(前期課程)の研究を基礎として、博士課程(後期課程)においては、より進化したソーシャル・イノベーターの育成や社会起業家の輩出にとどまらず、実践と研究を往還する実践型研究者もしくは研究型実践者の養成を目指します。社会的起業の革新的経営戦略を実現するとともに、そのビジネスモデルを研究することや、民間非営利部門を刷新するとともに、その革新的マネジメント手法を研究しモデル化することは、社会的かつ理論的な要請です。学位論文には、優れた社会实践とそれを検証した理論研究の双方が求められており、社会革新のための理論仮説を構築し、それに基づく社会实践及びその分析検証を行う、特色ある実践型の博士課程(後期課程)のコースです。

社会人の積極的な受け入れ

■ 昼夜開講制の実施

夜間(18時25分開始)・土曜日に開講される授業の履修だけでも修了が可能で、昼夜開講制を実施しています。

■ 社会人入試の実施

博士課程(前期課程)において、一定の要件を満たす社会人については研究計画書、小論文、口頭試問によって選考する社会人特別選抜入試を実施しています。

■ 長期履修制度の導入

職業を有する社会人や、家族の育児や介護をしている学生については、長期履修学生として、前期課程、後期課程をそれぞれ最長6年間まで、在籍することが可能です。

足立 光生 教授

- ① 企業戦略、企業と市場の政策、金融経済教育
- ② 一例として上述の「金融経済教育」では、持続可能な社会の実現に向けて、国民ひとりひとりが的確な金融リテラシーを持つ方法について考えていきます。
- ③ 『先輩! ビジネスセンスの磨き方を教えてください! 起業からイメージする金融経済教育』中央経済社, 2021

Ofer FELDMAN 教授

- ① 政治心理学・政治的コミュニケーション
- ② Symbolic Politics and the Ascendance of Rhetoric: An inquiry into Political Symbols, their Usage and Role in Japan
- ③ 共著『政治家のレトリック』勁草書房, 2022

藤本 哲史 教授

- ① ワーク・ファミリー・バランス
- ② 社会心理およびジェンダーの視点に基づく、仕事と家族生活の相互関係に関する研究。女性研究者のインボスター現象、職場風土とワーク・ライフ・バランスなど。
- ③ 「女性研究開発技術者の家族的責任とプロフェッショナル・コンフィデンスがキャリア継続に与える影響」『経営行動科学』2016, 28(2), 105-115.

原田 隆史 教授

- ① 図書館システム・情報システム
- ② 貸出履歴を用いた推薦システムや感性語から小説を探すシステム、例規集を横断検索するシステムなどについて研究し、実際に試作・提供もしています。
- ③ ① 共編者『図書館情報学を学ぶ人のために』世界思想社, 2017 ② 共著『図書館情報技術論』樹村房, 2014

畑本 裕介 教授

- ① 社会福祉行政・生活構造
- ② 生活の時代ごとの変遷を踏まえた社会保障・社会福祉の在り方について研究している。また、社会福祉に関する行政機構について研究している。
- ③ ① 『新版 社会福祉行政 福祉事務所論から新たな行政機構論へ』法律文化社, 2021 ② 『再帰性と社会福祉・社会保障: (生)と福祉国家の空白か』生活書院, 2008

井口 貢 教授

- ① 文化・観光政策の要諦としての人文知の所在
- ② 文化と観光を政策的に学ぶ上で大切なことは、経済政策や産業政策に偏しない、人文知を基本に据えた政策であるということ、久しく強調し今後もそのことを伝えていきたい。
- ③ 『反・観光学—柳田國男から、「しごころ」を養う文化観光政策へ』ナカニシヤ出版, 2018

入江 容子 教授

- ① 地方自治体における組織的問題—構造・管理・政策の相互関係
- ② 地方自治体を1つの組織体として捉え、外的要因(社会経済環境、法的・制度的環境、中央地方関係、ガバナンス等)と内的要素(組織編成、職務構造、人的資源管理等)の関係性や相互作用を多角的に研究し、理論と現場を接合する。
- ③ 『自治体組織の多元的分析—機構改革をめぐる公共性と多様性の模索—』晃洋書房, 2020

柿本 昭人 教授

- ① 近代社会の思考システムを歴史的に探求する
- ② 統治と科学そして人間を考える原理が前近代と近代においてどのように転換されたかを明らかにする
- ③ ① 『アウシュヴィッツの<回教徒>—現代社会とナチズムの反復』春秋社, 2005 ② 『健康と病のエピステーメー—十九世紀コレラ流行と近代社会システム』ミネルヴァ書房, 1991

川口 章 教授

- ① ワーク・ライフ・バランス施策と女性の活躍
- ② 企業の人的資源管理施策や男女別役割職数などのパネル・データを用いて、計量分析を行う。
- ③ ① 共著 Advances in Happiness Research: A Comparative Perspective, Springer, 2016 ② 『ジェンダー・経済格差』勁草書房, 2008

川井 圭司 教授

- ① スポーツの法と政策
- ② スポーツをめぐる法および政策的課題についての国際比較研究
- ③ ① 共著『スポーツビジネスの法と文化—アメリカと日本』成文堂, 2012 ② 『プロスポーツ選手の法的地位』成文堂, 2003

川上 敏和 教授

- ① ゲーム理論を用いた協力的行動の考察
- ② 協力的行動は顔が分かる固定的な関係の下に生じやすい傾向にありますが、流動的で匿名的な関係間においても実現する可能性があることを示しています。
- ③ Norm Equilibria in Random Matching Games with Imperfect Public Monitoring: A Study of Numerical Examples, ITEC Working Paper Series20-03, 2020.

川浦 昭彦 教授

- ① 民主主義と公的資源配分
- ② 民主主義を支える選挙・立法過程のもとで決定される公的資源の配分に関する実証分析。
- ③ Generals in defense of allocation: Coups and military budgets in Thailand, JOURNAL OF ASIAN ECONOMICS, 2018, 58(C), 72-78.

風間 規男 教授

- ① ガバナンス・ネットワークの構造と機能に関する研究
- ② ネットワークタイプのガバナンスが、民主的な形で機能し、「失敗」を克服するためのメカニズムを研究している。
- ③ 「ガバナンス・ネットワーク研究の射程」『季刊行政管理研究』2021, (173), 25-36.

小谷 真理 准教授

- ① 行政基準の司法的統制
- ② 環境基準を中心とした行政基準の正統性担保の手法として司法審査と手続の両面から研究しています。特に裁量基準として機能する行政基準に着目して、行政裁量の統制に関心を広げています。
- ③ 「行政規則と紛争の成熟性の法理」『同志社法学』2013, 64(7), 833-854.

久保 真人 教授

- ① 働きやすい組織と個人のウェルビーイングに関する研究
- ② 肉体的、精神的、そして社会的に満たされた状態であるウェルビーイングを実現する職場環境を構築するための研究
- ③ ① 編著『感情マネジメントと癒しの心理学』朝倉書店, 2011 ② 『バーンアウトの心理学』サイエンス社, 2004

真山 達志 教授

- ① 政策の形成および実施ネットワークの実態と課題の解明
- ② 国や自治体における政策形成と実施について、ネットワーク概念を用いてその実態と課題を明らかにする。
- ③ ① 『行政は誰のためにあるのか』日本経済評論社, 2023 ② 『大都市制度の構想と課題』晃洋書房, 2022 ③ 『政策実施の理論と実像』ミネルヴァ書房, 2016 ④ 『スポーツ政策論』成文堂, 2011 ⑤ 『政策形成の本質』成文堂, 2001

三好 博昭 教授

- ① 技術を社会に活かす公共政策の研究
- ② 技術革新が社会におよぼすインパクトや、技術を社会的厚生への増大に繋げるための社会の仕組みや公共政策を、厚生経済学的手法を用いて定量的に研究
- ③ 共編者 Technological Innovation and Public Policy: The Automotive Industry, Palgrave Macmillan, 2011

武蔵 勝宏 教授

- ① 立法過程と国民参加
- ② 議院内閣制諸国の立法過程と議会の制度・運用を比較検証することを通じて、日本の国会と立法過程の在り方について、改革提言を行う。
- ③ ① 『議会制度とその運用に関する比較研究』晃洋書房, 2021 ② 『冷戦後日本のシビリアン・コントロールの研究』成文堂, 2009

中島 恵理 教授

- ① ローカルSDGsを実現する社会変革のプロセス
- ② 中山間地域でのこどもの居場所づくり、協働農園、森のビジョンづくりなどに関わりながら、地域の人々の幸福、コミュニティの活性化、環境保全を統合的に実現する持続可能な地域づくり(ローカルSDGs)に向けたソーシャルイノベーションのプロセスや手法を追求しています。
- ③ 『英国の持続可能な地域づくり』学芸出版社, 2005

中田 喜文 教授

- ① 技術者の働き方と創造性、生産性、仕事満足
- ② 国内外の技術者(ソフトウェア技術者を含む)に対するアンケート調査や聞き取りを行い、彼らが創造的、生産的、そして楽しく働ける職場環境や企業経営のあり方を明らかにするために、収集した量的、質的データを分析している。
- ③ 共編『高付加価値エンジニアが育つ: 技術者の能力開発とキャリア形成』日本評論社, 2009

根岸 祥子 准教授

- ① 国際資本投資と政策の役割
- ② 各国の実体経済に長期的かつ安定的に貢献する国際資本を誘致し、その付加価値を最大化するための手段と政策の役割に関する研究
- ③ Cross-Border Mergers and Acquisitions in East Asia: Trends and Implications, International Monetary Fund, 2001, 38(1).

新見 陽子 教授

- ① 国際開発・貧困・格差・ジェンダー・高齢化問題
- ② 世代間の社会経済的地位・格差の継承や女性の資産形成、高齢者介護などに関する実証分析
- ③ ① Are Married Women Really Wealthier Than Unmarried Women? Evidence From Japan, Demography, 2022, 59(2), 461-483. ② The Impact of Intergenerational Transfers on Wealth Inequality in Japan and the United States, World Economy, 2018, 41(8), 2042-2066.

野田 遊 教授

- ① 地方自治
- ② 政府間関係からみた自治制度改革、広域と市民満足度(行動行政学)
- ③ ① Intermunicipal Cooperation, Integration Forms, and Vertical and Horizontal Effects in Japan, Public Administration Review, 2022 ② Performance Information and Learning Effects on Citizen Satisfaction with Public Services, Public Management Review, 2021, 23(12), 1833-1855. ③ 『自治のどこに問題があるのか』日本経済評論社, 2021

野間 敏克 教授

- ① 地域金融のための金融システム設計
- ② 地域の中小企業にとって望ましい金融システムを構築することを目指している。伝統的な民間金融機関、公的な金融機関や信用保証制度の活用だけでなく、クラウドファンディングなどの新しい仕組みとの組み合わせ方を考えたい。
- ③ 『金融と社会』放送大学教育振興会, 2020

岡本 由美子 教授

- ① 気候変動、ジェンダー、フェアトレード(FT)
- ② 気候変動問題が途上国の農村の人々に与える影響のジェンダー分析。及び、その問題の軽減におけるFTの役割。
- ③ 『持続可能性を実現する通商ガバナンスのあり方: サステナブル認証制度の役割と今後』『世界経済評論(1・2月号)』2023, 63-71.

大島 佳代子 教授

- ① 学校における子どもの人権、教育を受ける権利、教員の労働環境
- ② 校則、体罰、行き過ぎた指導等の学校での子どもの人権をめぐる問題、マイノリティの教育を受ける権利、教員の労働環境問題を法的に研究している
- ③ 『教育を受ける権利の現状と課題』『憲法研究』, 2021, (9), 131-143.

太田 肇 教授

- ① 組織と個人の統合
- ② 組織と個人の統合は、組織論や経営学における中心的なテーマである。情報化、グローバル化が進み、組織のメンバーも多様化した現在、伝統的な理論が通用しなくなっている。そこで、現在の組織環境に適合した新たな統合の枠組みを構築する。
- ③ 『プロフェSSIONALと組織』同文館出版, 1993

大和田 順子 教授

- ① SDGs時代におけるソーシャル・イノベーションと地域デザイン
- ② FAO(国連食糧農業機関)が選定した「世界農業遺産」認定地域を主なフィールドとして、ネイチャー・ポジティブ、関係人口創出などを通じた地域活性化の実証的研究を行っている。
- ③ ① 共著『ソーシャル・イノベーションの理論と実践』明石書店, 2022 ② 編著『SDGsを活かす地域づくり』見洋書房, 2022

多田 実 教授

- ① ソーシャルマーケティングの理論と実践
- ② 人間の感情を考慮する価値主導型マーケティングの概念を用いた社会貢献を考える
- ③ ① 『まちづくりの統計学』学芸出版社, 2022 ② 分担執筆「特筆すべき資源がなくても地域活性化は可能か」『政策学ブックレット 地域の自立は本当に可能か』学芸出版社, 2014, 31-41.

田中 秀樹 准教授

- ① 現代社会における組織・人材のマネジメント
- ② 働きがい高める人的資源管理、社会の変化と働き方・職場の変化、人事部の役割
- ③ Protection for the Self-Employed in Japan: Needs and Measures, International Journal of Comparative Labour Law and Industrial Relations, 2022, 38(4), 433-452.

田中 宏樹 教授

- ① 自治体の支出政策(教育・産業振興・まちづくり等)
- ② 国と共同あるいは自治体単独で実施される公共支出をめぐって、国と自治体との間、自治体同士で生じる政策競争の功罪を、理論・実証両面から分析
- ③ 『政府間競争の経済分析—地方自治体の戦略的相互依存の検証—』勁草書房, 2013

富樫 耕介 准教授

- ① 冷戦後の紛争に関する研究、旧ソ連地域研究
- ② 分離主義紛争、チェチェン、コーカサス、紛争と国際介入、紛争のメカニズムとダイナミクス、反乱とテロ
- ③ ① 『コーカサスの紛争』東洋書店新書, 2021 ② 『チェチェン 平和定着の挫折と紛争再発の複合的メカニズム』明石書店, 2015

月村 太郎 教授

- ① A バルカン地域研究
B 地域紛争比較研究
- ② Aについては、EU・NATOの東方拡大とバルカン諸国の現地政治との関連を中心に、Bについては、地域紛争の発生の背景と原因を中心に研究している。
- ③ ① 編著『解体後のユーゴスラヴィア』見洋書房, 2017 ② 『民族紛争』岩波書店, 2013 ③ 『ユーゴ内戦』東京大学出版会, 2006

王 嬌 助手

- ① ITエンジニアの転職意欲について
- ② 研究の概要は、ITエンジニアの転職意欲の実態と特徴およびその社会的背景を、日中比較を通じて把握することである。
- ③ 『技術者の転職意欲に影響する要因の検討: 職種間比較を交えて』『同志社政策科学研究』2020, 22(1), 153-167.

山谷 清志 教授

- ① 政策評価とアカウンタビリティ
- ② 政府の政策のアカウンタビリティを統制する方法を評価に求め、これを比較研究する。
- ③ ① 編著『協働型評価とNPO』見洋書房, 2022 ② 編著『政策と行政』ミネルヴァ書房, 2021 ③ 編著『JAXAの研究開発と評価』見洋書房, 2020 ④ 『政策評価』ミネルヴァ書房, 2012

吉田 徹 教授

- ① 比較政治学/ヨーロッパ政治
- ② 現代ヨーロッパ政治を中心とした先進国の政党政治、欧州統合史、比較政治理論
- ③ ① 『居場所なき革命—フランス1968年とドゴール主義』みすず書房, 2022 ② 編著『ヨーロッパ統合とフランス』法律文化社, 2012 ③ 『ミッテラン社会党の転換—社会主義から欧州統合へ』法政大学出版局, 2008

TOPICS 消費者政策に関する高度専門人材の育成の取り組み

今日、消費者を取り巻く環境は、ネット社会の拡大や、超高齢化社会の進展、グローバル化の影響などを受け、大きく変化しつつあります。従来の消費者の安全・安心を目指した消費者政策をさらに推進するとともに、エシカルな消費(倫理的消費)を通じた持続可能な社会への取り組みなどが一層求められるようになってきました。このような複雑化、多様化した消費者政策を推進するための専門人材の育成は、これまで日本の大学院レベルではいまだ組織的に取り組まれてきていませんでした。2020年春より、総合政策科学研究科は、全国の大学院に先駆けて、消費者政策に関する高度専門人材の育成に取り組んでいます。「消費者政策専門人材履修証明プログラム」では、消費者政策の第一線で活躍する実務家教員や研究者教員が担当する、消費者政策研究、消費者法研究、金融経済教育、ソーシャル・マーケティング研究、消費者行動論研究、起業論、インターンシップなどの科目を開講し、高度な専門性を有する消費者政策分野の専門人材を社会に輩出するべく、大学院レベルの教育・研究、研修や学び直しの機会を提供します。なお、消費生活アドバイザーの資格を有し、一定の実務経験を有する方については、所定の要件を満たせば、さらに、「マスター消費生活アドバイザー資格」を申請することも可能となっています。

文化情報学研究科

文化情報学専攻



4つの重点分野で文化に
データサイエンスの光をあてる。

文化情報学研究科とは

現代社会は、目覚ましいデータサイエンス技術の発展により、物質的な豊かさを享受してきました。しかしながら、真に豊かな社会を築いていくためには、データサイエンスの手法ばかりではなく、人間と人間の営みそのものに向けられることが重要になりました。このような現代社会の要請を受けて、文化情報学研究科では、多様な専門知識と技術を持つ教員と学生が集い、文化にデータサイエンスの光をあてるような教育研究を行っています。

人々の営みである文化を、単に直感や経験則によってではなく、データサイエンス技術を用いて分析・解析します。これにより、新しい文化理解の方法論を構築し、文化のより良い伝承と、時代の要請に応える文化の創出に、データサイエンス的な見地から事実を探っていきます。

文化情報学専攻

文化資源学 コース

文化資源が持っている断片的で大量で多彩な情報を、実資料からできるだけ忠実に網羅的に客観的に取得します。それらの情報を、デジタル化や数理的手法、データサイエンスの手法などによって関連性を確認しながら総合化します。特に、従来、美術史学・文学・文献学・文学・人類学・歴史考古学などにおいて別々に取り扱われていた文化資源を、一体のものとして相互の関係を前提としながら分析します。

言語データ科学 コース

データサイエンスや計算科学の方法論を取り入れ、従来の研究では十分に取扱うことのできなかった言語現象の解明に取り組み、言語研究の新領域及び複合領域を開拓します。特に、大量の言語データを処理することにより、言語生態の包括的な調査において言語研究の新規性・先端性を見出します。

行動データ科学 コース

人間の行動を文化研究の対象として陽に設定し、計量社会学、認知心理学をはじめとする行動学の成果と方法を文化研究に応用します。文化を人間の選択する反復的行動様式と定義し、定量的なデータに基づいて客観的に記述した上で、なぜ特定の行動様式が繁殖・持続するのかを説明し、それを踏まえて新たな行動様式を予測・デザインします。

データ科学基盤 コース

データサイエンス研究の最前線において、情報の多様化・複雑化に伴い、従来の学問分野単独での取り組みの限界を踏まえ、数理・情報・統計の枠組み・方法論の壁を越えて、文化を対象として、それぞれの分野が蓄積してきた知見を基に新たな視点に基づくデータサイエンスの方法論を構築します。

文化資源学

文化資源が持っている多彩な情報の関連性を統合化する。

言語データ科学

言語現象の解明に取り組み、言語研究の新領域を開拓する。

行動データ科学

人間の行動を説明し、新たな行動様式を予測・デザインする。

データ科学基盤

数理・情報・統計の枠組みを越えて、新たな方法論を構築する。



アドミッション・ポリシー



詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学研究科

文化情報学研究科

理工学研究科

生命医科学研究科

スポーツ健康科学研究科

心理学研究科

グローバル・スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

福田 智子 教授

- ①日本古典文学の伝本と表現に関する研究
- ②和歌や物語などの仮名文学作品を対象に、諸本間の本文異同や作品間の類似表現を具体的に把握し、文学的意味づけを行うという実証的な文学研究を、コンピュータを用いて行う。
- ③①共著『好忠百首全釈』風間書房、2018 ②共著『順百首全釈』風間書房、2013 ③共著『恵慶百首全釈』風間書房、2008 ④『平安中期私家集論—歌人・伝本・表現—』勉誠出版、2007

波多野 賢治 教授

- ①ビッグデータ管理とその利活用に関する研究
- ②ビッグデータ管理を効果的・効率的に行うための技術開発を行う。
- ③編著『テキストデータマネジメント』岩波書店、2022

星 英仁 准教授

- ①言語理論(統語論)
- ②自然言語の統語現象に関する記述的・理論的・実験的研究
- ③On Japanese Indirect Passives, Japanese/Korean Linguistics, 2013, 20, 347-362.

飯尾 尊優 准教授

- ①人間とロボットの社会的相互作用
- ②人工的な存在であるロボットが人間の認知や行動に与える影響を理解、その知見を活用して、人間社会の課題解決に資するロボットシステムの研究開発に取り組む。
- ③Human-like guide robot that proactively explains exhibits, Int. J. Soc. Robotics, 2020, 12(2), 549-566.

伊藤 紀子 准教授

- ①言語資源の構築と利活用に関する研究
- ②コーパス等の言語資源の構築とその利活用を通して様々な社会課題の解決に挑む
- ③A computational model of language in context and its application to Japanese text understanding, Systemic functional perspectives of Japanese: descriptions and applications, 2013

阪田 真己子 教授

- ①メディアとしての身体
- ②コミュニケーション・芸能・パフォーマンスを対象として、メディアとしての身体の機能を文理融合的アプローチによって解明
- ③共著『AI時代の教師・授業・生きる力:これからの「教育」を探る』ミネルヴァ書房、2020

佐野 明子 准教授

- ①アニメーション・映画の領域横断的研究
- ②アニメーション・映画のメディアミックス研究、観客論、計量分析。東アジアの戦時期メディア研究。
- ③①共編『戦争と日本アニメ—『桃太郎 海の神兵』とは何だったのか』青弓社、2022 ②共著『運動としての大衆文化—協働・ファン・文化工作』水声社、2021 ③共著『日本大衆文化史』KADOKAWA、2020

沈 力 教授

- ①言語類型論から見た「語」の本質
- ②自然言語の形態素形成の戦略から形成しないしく形成の仕組みが予想できるという、いわば語の内的な性質(普遍的仕組みと多様な戦略)を解明することを目的とする。
- ③①共著 Resultative Constructions in Japanese from a Typological Perspective, in Handbook of Japanese Contrastive Linguistics, 2018, 193-225. ②Aspect Agreement and Light Verb in Chinese: A Comparison with Japanese, Journal of East Asian Linguistics, 2004, 13(2), 141-179.

下嶋 篤 教授

- ①図表現の意味特性と認知機能
- ②図表現が情報を伝える仕方が言語表現とどう違うのか、また、その特性が図表現を見る人の理解や思考にどう影響するかを、数理論理学と認知心理学を基礎に研究する
- ③Semantic Properties of Diagrams and Their Cognitive Potentials, CSLI Publications, 2015

杉尾 武志 教授

- ①図的表現の認知メカニズムの解明
- ②図やグラフといった情報の視覚的な表現について、人間がどのように理解し、判断や意思決定を行っているのかを心理実験や視線計測により明らかにすることを目指す。
- ③The Role of Top-Down Knowledge in Spatial Cueing Using Hierarchical Diagrams, In: Diagrammatic Representation and Inference. Diagrams, 2018, 10871, 500-508.

田口 哲也 教授

- ①比較文化
- ②日本の文化と世界のいろんな地方の文化との比較を通して、人類として共通している要素は何か、日本文化の特殊性は何かを研究しています。加えて、日本の過去の文化と現在の文化の比較を行い、近代の日本の私たちの意識はどのように形成されたかも研究しています。
- ③①共訳『ケネス・レクスロス詩集』思潮社、2017 ②『ケネス・レクスロス中心の現代対抗文化』国文社、2015

津村 宏臣 准教授

- ①文化遺産の社会資源化に関する研究
- ②国内/国外を問わず、多様に存在する文化資源について、活用のフェーズで遺産(Heritage)として社会資源化を産官学民連携により研究・実践する。
- ③分担執筆「コトバと暮らしのミームを探る—変化する「環」を捕まえる—」『シークワサーの知恵』京都大学出版会、2016

宿久 洋 教授

- ①多変量データ解析、計算機統計学
- ②大規模複雑なデータの解析法についての理論および方法論研究
- ③①Estimation and visualization of heterogeneous treatment effects for multiple outcomes, Statistics in Medicine, 2022 ②F-measure maximizing logistic regression, Communications in Statistics - Simulation and Computation, 2022, 1-11.

山内 信幸 教授

- ①日英語の修飾語研究・比較文化研究(中間言語研究・日中対照言語研究)
- ②日英語の形容詞・副詞の修飾語の機能と構造を解明する。言語習得における言語干渉や中間言語・日中両言語の翻訳に見られる諸相を比較する。
- ③A Note on the Influence of Topic Prominence in Japanese on Japanese Beginner-Level EFL Learners' Interlanguage: An Empirical Study, Facing Diversity in Child Foreign Language Education, 2021, 291-311.

鄭 躍軍 教授

- ①人間行動の測定と解析、社会現象の計量的分析
- ②価値観・環境意識・環境配慮行動の実証的研究、社会調査・計量社会科学・統計科学の方法論的研究
- ③①『統計調査法—社会科学のためのデータサイエンス』共立出版、2022 ②共著『スタンダード 社会科学系の統計学』培風館、2022 ③共著『社会調査データ解析』共立出版、2011

河瀬 彰宏 准教授

- ①文化解析、デジタル・ヒューマニティーズ
- ②人文社会科学研究が射程としてきた様々な文化現象に対して、計量分析を実施し、文化の価値、伝統、社会構造、個人と共同体に関する洞察を得る
- ③共編『量から質に迫る:人間の複雑な感性にいか「計る」か』新曜社、2014

中西 義典 准教授

- ①統計科学・統計物理学
- ②データサイエンスの限界を解明しそれを乗り越えるための研究。データが科学を駆動しているという状態を明らかにし、それを持続可能とするための研究。
- ③Data-driven diagnosis for compressed sensing with cross validation, Physical Review E, 2018, 98, 052120-1-052120-6.

中安 真理 准教授

- ①仏教美術史、東アジアの古代音楽史、音楽図像学
- ②文献と美術作品を対象とした東アジアの仏教美術史・古代音楽史の研究、美術作品などに表現された音楽図像の研究
- ③『篋篋の研究—東アジアの寺院荘厳と絃楽器』思文閣出版、2016

Gaetan RAPPO 准教授

- ①日本中世史、宗教史学、デジタル・ヒストリー
- ②デジタルツールに基づく宗教文書(真言、天台、神道など)の分析を通じて、中世日本の思想と世界観を解明する。
- ③①共著「文観房弘真の織りなしたテキストの地平」『ことば・ほとけ・図像の交響: 法会・儀礼とアーカイヴ』勉誠出版、2022 ②Data Mining in the Works of the Shingon Monk Monkan (1278-1357), Journal of the Japanese Association for Digital Humanities, 2018, 3(1), 114-149.

TOPICS 充実した教育環境・設備

コンピュータなどの情報処理機器を配備した研究科専用共同研究室や、数理解析、文化解析、感性解析の3つの実験室を備えています。他にも古文書の紙、墨、絵具、浮世絵の顔料、考古遺物などの組成を分析するための元素組成分析装置、視線計測装置や電子顕微鏡、感性を解析するための脳電位測定装置などの分析装置や、浮世絵、和歌集、巻物などの貴重な標本・資料を有し、教育研究に活用しています。



視線計測装置



長沢芦雪『一笑図』

理工学研究科

情報工学専攻
電気電子工学専攻
機械工学専攻
応用化学専攻
数理環境科学専攻

深い学識と高度な専門知識を持つ人材、
自立した研究活動を行える人材を輩出する。



理工学研究科とは

理工学研究科は情報工学、電気電子工学、機械工学、応用化学、数理環境科学の5専攻から構成され、博士課程(前期課程)及び博士課程(後期課程)が設置されています。前期課程では、専門性が求められる職業に従事できる人材、後期課程では、自立して研究活動を行うことができる人材の育成を目指しています。また、英語で講義が行われる「国際科学技術コース」の科目を履修できるなど、よりグローバルな人材育成の可能性が広がりました。さらに、理工学研究科は文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「グローバル・リソース・マネジメント」の基幹研究科となっており、文理融合の知識を修得することも可能です。

積極的に社会と連携

理工学研究科は、実社会との交流活動の一環として、企業からの受託研究や共同研究を積極的に実施するとともに、一般企業や公的機関の研究所の研究員に直接指導を受けることができる連携大学院方式も導入しています。優れた研究施設を利用し、企業などの研究者の指導の下、自分の研究が実社会においてどう役立つか、研究がどのように製品化されていくのかを経験できます。

国際化にも積極的に取り組み、全学の外国協定大学に加え、フランスのESPCI(パリ市立工業物理化学高等専門大学)をはじめとして、理工系分野で有名な外国の大学と交換留学制度を提携し、より幅広い知識を身に付けることができます。また、フランスのエコール・セントラルの5校のグランゼコール、オーストリアのウィーン工科大学、イタリアのミラノ工科大学、スペインのマドリッド工科大学などと在学中に両方の修士または、博士の学位取得が可能な「ダブル・ディグリープログラム」の留学制度もあります。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

情報工学専攻

芳賀 博英 教授

- ① 絵画解析
- ② コンピュータの画像処理技術を用いて「名画はなぜ名画なのか」という疑問を解決することを目指している
- ③ 「画像処理を用いた絵画のフォーカルポイントとリーディングラインの検出手法の提案」『研究報告人文科学とコンピュータ』2022, 129(1), 1-7.

橋本 雅文 教授

- ① モビリティロボットや自動車の自律・協調センシングシステム
- ② センサ情報統合・センサネットワークに関する研究、LiDAR 応用計測、ビークルナビゲーションに関する研究
- ③ Moving-Object Tracking by Scanning LiDAR Mounted on Motorcycle Based on Dynamic Background Subtraction, Artificial Life and Robotics, 2021, 26(4), 412-422.

程 俊 教授

- ① 高速、高信頼性をめざす通信理論と通信技術
- ② 情報理論・符号理論の考え方を基礎にして、より速く、より正確に情報を伝送する方法
- ③ ① Distance enumerator analysis for interleave-division multi-user codes, IEEE Trans. on Information Theory, 2016, 62(7), 4039-4053. ② 共編 Handbook on Advancements in Smart Antenna Technologies for Wireless Network, IGI Global, 2008

加藤 恒夫 教授

- ① 第二言語音声の情報処理とインターフェース
- ② 外国語学習者の英語音声の認識と発音自動評価。ロボットを用いた言語学習支援システム。
- ③ 「Transformer エンコーダを用いたアクセント辞書参照によるL2英単語発声の自動韻律評価」『電子情報通信学会論文誌』2022, J105-D(11), 700-708.

桂井 麻里衣 准教授

- ① ウェブコンテンツの分析と推薦、知的創造活動の支援
- ② ウェブ上の創作物を分析し、個人の嗜好やトレンド情報を抽出して推薦に役立てます。研究者らの知識獲得や交流を促進するような技術も開発しています。
- ③ TrendNets: Mapping Emerging Research Trends from Dynamic Co-Word Networks via Sparse Representation, Scientometrics, 2019, 121(3), 1583-1598.

木村 共孝 准教授

- ① 情報通信ネットワークの設計と分析
- ② インターネットなどの発展によって利便性が向上している一方で、新たなアプリケーションの出現により、既存技術では対応できない問題が生じている。このような問題を克服するために、ネットワーク分析を行い、新たな情報通信ネットワークを設計する。

小坂 隆浩 教授

- ① 人間とクラウドによる分散システムの開発と応用
- ② 人間とクラウドの処理能力をAIにより融合した次世代分散システムの研究開発
- ③ ① 共著「深層学習モデルとクラウドワーカーの協調による動画画像異常検知手法」『信学技報』2022, 122(177), 1-6. ② Crowd-Aided Anomaly Detection in Surveillance Videos, IEEE International Conference on Big Data, 2022, 3982-3984.

大久保 雅史 教授

- ① ヒューマンインタフェース
- ② 人とヒト・モノ・コトとのコミュニケーション・インタラクションを人の立場から検証し、人と関わるインタフェースの設計基盤について研究する。
- ③ 「身体的コミュニケーション解析のためのパーチャルコミュニケーションシステム」『情報処理学会論文誌』1999, 40(2), 670-676.

奥田 正浩 教授

- ① 機械学習を用いた知能情報処理
- ② 機械学習を用いて、多次元画像、多変量時系列データなどの高次元データから価値のある知識を抽出する研究
- ③ ① Adversarial Examples for Image Cropping in Social Media, ICASSP, 2022, 4898-4902. ② 「局所特徴に基づく正則化を用いた画像処理と最適化の役割」『電子情報通信学会』2017, 11(1), 40-53.

大崎 美穂 教授

- ① 機械学習と知識発見
- ② 人間の賢さを高めるためのAI(知的活動支援)を目指した、機械学習と知識発見の技術開発、および、医療や教育等への応用
- ③ ① NNR-GL: A Measure to Detect Co-nonlinearity Based on Neural Network Regression Regularized by Group Lasso, IEEE Access, 2021, DOI:10.1109/ACCESS.2021.31111105. ② Confusion-matrix-based Kernel Logistic Regression for Imbalanced Data Classification, IEEE TKDE, 2017, 29(9), 1806-1819.

小野 景子 准教授

- ① 進化的機械学習による感性のモデル化
- ② 深層学習や進化計算法のアルゴリズムの研究、ユーザ感性のモデル化の研究
- ③ ① Furniture Style Compatibility Estimation by Multi-Branch Deep Siamese Network, Mathematical and Computational Applications, 2022, 27(5), 76. ② Multi-Scale Feature Fusion for Interior Style Detection, Applied Sciences, 2022, 12(19), 9761.

佐藤 健哉 教授

- ① モノのインターネットにおける分散協調処理
- ② 自動車や家電などが接続されるモノのインターネットにおいて、高信頼性・低遅延でデータ処理を行う分散協調システムのアーキテクチャ
- ③ 「モビリティのサイバーフィジカルシステムにおけるダイナミックマップ2.0の役割」『自動車技術』2021, 75(10), 10-15.

高橋 和彦 教授

- ① 知能制御システムの研究
- ② 計算知能によるインテリジェント制御
- ③ Feedforward-Feedback Controller Based on a Trained Quaternion Neural Network Using a Generalised HR Calculus with Application to Trajectory Control of a Three-Link Robot Manipulator, Machines, 2022, 10(5), 333.

田村 晃裕 准教授

- ① 自然言語処理
- ② 人間のこばをコンピュータで処理・解析する技術「自然言語処理」(例えば、機械翻訳、自動要約、構文解析など)に関する研究
- ③ ① 『深層学習からマルチモーダル情報処理へ』サイエンス社, 2022 ② 「教師付き視覚的注意を用いたマルチモーダルニューラル機械翻訳」『自然言語処理』2021, 28(2), 554-572.

土屋 誠司 教授

- ① 常識を持ったコンピュータ・ロボットの研究
- ② 概念処理・知識処理・感性情報処理による新時代の常識を持ったAIの研究
- ③ ① 『AI時代を生き抜くプログラミングの思考が身につくシリーズ』(全9巻)創元社, 2020-2021 ② 『はじめてのAI』創元社, 2020 ③ 『はじめての自然言語処理』森北出版, 2015

土屋 隆生 教授

- ① 音空間レンダリングを用いたリアルな音響空間創出
- ② パーチャルに音響空間を創出できる音空間レンダリング技術を用いた立体音響システム開発や超音速旅客機の騒音予測、コウモリのエコー空間解析
- ③ 「VRとシリコンコンサートホール」『日本VR学会誌』2020, 25(2), 19-24.

渡部 広一 教授

- ① 概念処理とコンピュータビジョンにより常識的判断ができる知能ロボットの研究
- ② 自分の周りの状況を理解し、言葉によるコミュニケーションを行い、常識を持ち、適切な応答や行動を行うロボットの実現
- ③ 共著「多様性を段階毎に回復する遺伝的アルゴリズムの提案と評価」『人工知能学会誌』1999, 14(4), 689-699.

Ivan TANEV 教授

- ① 進化的方法論 Evolutionary computing
- ② 進化的方法論: アルゴリズムのパラダイム、実装、およびアプリケーション。Evolutionary computing: the algorithmic paradigm, implementation, and applications
- ③ Evolving the Thrust of Undulatory Swimming Gaits of Fish Robot, AROB 27th, Springer, 2022, 80-83.

電気電子工学専攻

馬場 吉弘 教授

- ①電磁界・熱および応力の連成解析法の開発
- ②複数の物理現象を同時に高精度で解析する手法の開発と高精度化に関する研究
- ③①『過渡現象論』数理工学社, 2022 ②Electromagnetic Computation Methods for Lightning Surge Protection Studies, Wiley, 2016

出口 博之 教授

- ①マイクロ波・ミリ波アンテナの高性能化ならびに電磁界解析・設計に関する研究
- ②開口面アンテナ、周波数選択膜、電磁クローキングに関する研究、マイクロ波素子の最適化に関する研究
- ③「遺伝的アルゴリズムを用いたマイクロ波・ミリ波素子の最適化設計」『電子情報通信学会論文誌C』2021, J104-C(5), 157-165.

藤原 耕二 教授

- ①磁性材料の機能性評価に関する研究
- ②電気自動車に代表されるように、各種機器の電動化に拍車がかかっている。典型的な電気機器であるモータに使用される鉄芯には、良好な磁気特性が要求される。そこで、各種磁性材料の機能性の評価法を検討している。
- ③共著 Establishment of the standard method of magnetostriction measurement of grain-oriented electrical strip and shee, JMMM, 2023

衣斐 信介 教授

- ①通信システムのための統計的信号処理の研究
- ②統計的信号処理と深層学習の融合による「サイバー空間(仮想空間)」と「フィジカル空間(現実空間)」を接続する「ワイヤレス空間(無線空間)」の高度化・多様化に関する研究
- ③『通信方式(第2版)』森北出版, 2012

井上 馨 教授

- ①電力変換システムの動作解析と制御応用
- ②パワーエレクトロニクス機器やモータなどの高効率化・高機能化のための動作解析手法と制御工学の応用
- ③①共著 Fitting Method of Experimentally Measured 3D Loss and Torque Maps to design Optimal Trajectories for IPMSM, IPEC, 2022 ②「定電力負荷とLCフィルタを持つ直流給電系で生じる振動現象の一抑制方法」『電気学会論文誌D』2016, 136(10), 760- 67.

岩井 誠人 教授

- ①無線通信システムにおける電波伝搬
- ②無線通信を対象とした電波伝搬現象のメカニズムの解明およびその特性のモデル化、電波伝搬特性を活用したセキュリティ・センシングなどへの応用
- ③『移動通信システムにおける電波伝搬』コロナ社, 2012

粕谷 俊郎 教授

- ①プラズマ中で観測される非線形物理現象のシミュレーション研究
- ②プラズマ中の非線形現象は、成膜装置や核融合装置、あるいは太陽風と地球磁場など様々な場所で観測されており、そこで起こる物理現象をシミュレーションによって明らかにする。
- ③共著 Dust particle diffusion in ion beam transport region, Rev. Sci. Instrum 87,2016

加藤 利次 教授

- ①電気電子系のモデリング・シミュレーションおよびその動作現象の解明や制御法の開発
- ②パワーエレクトロニクスシステム等を含む混在系のモデリングおよび制御系の設計やその安定化法の検討。またそのモデリングに基づくシミュレーションによる動作および安定化解析。
- ③①共著 Grid Connected Converters: Modeling, Stability and Control, Elsevier, 2022 ②共著『自動車システムのモデルベース開発入門』自動車技術会, 2017

近藤 弘一 教授

- ①応用数学、非線形可積分系、ソリトン理論、数値解析
- ②ソリトン理論による離散力学系の研究と数値計算アルゴリズムへの応用
- ③ A finite-step construction of totally nonnegative matrices with specified eigenvalues, Numerical Algorithms, 2015, 70(3), 469-484.

小山 大介 教授

- ①超音波モーター・アクチュエータ、医用超音波技術
- ②圧電材料を用いた各種アクチュエータ・デバイス、超音波とマイクロバブルによる医用技術
- ③ Ultrasound liquid crystal lens, Appl. Phys. Lett., 2018, 112(16), 161104.

松川 真美 教授

- ①超音波計測システム開発、超音波の医用応用
- ②脳動脈評価や骨診断をめざす超音波生体計測手法の研究。超音波センサや超音波計測システムの開発。
- ③①編著『生体組織の超音波計測』コロナ社, 2022 ②共編著 Ultrasonics, Physics and Applications, IOP publishing, 2022 ③分担執筆 Bone quantitative Ultrasound, Advances in Experimental Medicine and Biology, Springer, 2022

長岡 直人 教授

- ①電力システムをはじめとするインフラシステムのモデル構築と数値解析およびシステム設計
- ②電力系統・蓄電システム等インフラシステムのコンピュータシミュレーションと開発・設計
- ③①共著 Power System Transients, CRC Press, 2020 ②共著 Cable System Transients, IEEE Press, 2015

大谷 直毅 教授

- ①半導体光デバイス、新しい蛍光物質の合成法の開発と応用
- ②SDGsに貢献する環境に優しい新しい蛍光物質の開発。例えば、有機/無機ハイブリッド材料、希土類/ポリマー複合材料など。また、半導体ナノ構造の光物性を解明しレーザなどへの応用を検討している。
- ③ Solution-processed light-emitting diodes consisting of metal-oxide and organic-inorganic hybrid emissive thin films, Jpn. J. Appl. Phys., 2022, 61, 041001.

佐藤 祐喜 教授

- ①機能性電子材料の開発と物性評価、工学的応用
- ②半導体材料やセラミックスなどの機能性電子材料の薄膜形成や複合化への応用とその物性評価。
- ③ Effects of mixing Al2O3 particles with tin-doped indium oxide particles on the properties of aerosol-deposited thin films, JCSJ, 2017, 125(6), 482-486.

高橋 康人 教授

- ①パワーマグネティクス、電気・機械エネルギー変換
- ②高速大規模電磁界シミュレーションと磁性材料の高精度モデリングに基づく電機システムの最適設計
- ③ Reduced Order Modeling Based on Multiport Cauer Ladder Network for Space Harmonics of Air-Gap Flux Density in Cage Induction Motor, IEEE Trans. Magn, 2022, 58(8), 8203306.

戸田 裕之 教授

- ①マイクロ波・ミリ波フォトニクス、非線形ファイバ光学
- ②光通信で進展した各種技術を利用したマイクロ波・ミリ波フォトニクスと非線形ファイバ光学に関する研究
- ③分担執筆『光通信工学』オーム社, 2012

辻 幹男 教授

- ①マイクロ波・ミリ波帯における電磁波回路素子に関する研究
- ②超高周波の電磁波の信号処理を行うためのフィルタ回路素子の開発や自然界に存在しない左手系物質を人工的に構築することで、その性質を巧みに利用した回路素子の開発。
- ③共著 A Unit Cell of Wideband Transmitarray Composed of Slots and Patches, ICEAA, 2022

和田 元 教授

- ①負イオンの物理と工学的応用
- ②核融合条件を達成するための磁場中に保持された高温プラズマを高エネルギー重水素で加熱するシステム、および大強度陽子加速器に使用する水素負イオン源の研究。
- ③ Measurements of work function and surface conditions in cesiated negative ion sources, Review of Scientific Instruments, 2021, 92,121502.

機械工学専攻

青山 栄一 教授

- ①ものづくりにおける表面生成メカニズムの解明とナノ・サーフェイス創生への応用
- ②切削加工及び研磨加工における加工メカニズムに基づいた創成加工面の幾何学的特性の予測手法の開発と創成面の制御に関する研究
- ③「磁気研磨ブラシによる研磨機構の解明」『日本機械学会論文集』2016, 82(844), 16-253.

平田 勝哉 教授

- ①剥離を伴う流れ、熱対流やスロッシングへの振動制御ほか機械工学の流れ問題
- ②非流線形物体などの剥離を伴う流れの実験と数値計算。加振容器内の熱対流やスロッシングへの振動効果とカオス。
- ③① On Predicting the Frequency of a Flip-Flop Jet Nozzle, Flow, Turbulence and Combustion, 2021,109, 327-349. ②「臨界浸水深さより浅い条件下での吸込水槽からの空気吸込に及ぼす諸影響」『ターボ機械』2019, 46(12), 723-734.

廣垣 俊樹 教授

- ①メカトロニクスモノづくり技術への応用
- ②ロボットとCNC工作機械のFA (Factory Automation)システム制御に基づくモノづくり技術の高度化・自動化・自律化の研究開発
- ③①共著 Design of Distributed Route Based on Un-utility Coefficient under an Uncertain Transportation Condition at Logistics Center for Autonomous AGVs, IJMERR, 2023, 12(1), 8-15. ②共著「エンドミル荒加工のインプロセス情報と協働ロボットの仕上げ作業工程における内部および外部センサ情報取得の統合の考察」『日本機械学会論文集』2022, 88(913), 22-91.

稲岡 恭二 教授

- ①熱と流れの移動現象の解明と工学的応用、省エネルギーのための熱利用の高効率化研究
- ②光学計測法を利用した層流場、乱流場における熱移動機構のモデル化と制御。物体周りの流れと熱輸送に関する実験及び数値解析
- ③The turbulent shear stress and turbulent heat flux of two parallel plane jets with periodic vortex shedding, TSFP12, 2022

伊藤 彰人 教授

- ①ロボットの運動制御とウェアラブルな運動計測技術の応用に関する研究
- ②慣性センサを用いた人の運動計測技術に関する研究およびその応用によるロボットとの協働制御に関する研究
- ③「慣性センサを用いた前腕および手指運動計測システムの開発」『設計工学』2019, 54(4), 231-244.

松村 恵理子 教授

- ①エネルギー変換システムの最適制御とLCA解析
- ②各種熱機関の高効率・低公害燃焼法の解析的研究。水素など、将来燃料の基礎燃焼特性の把握とLCA解析によるエンジン、トランスポートにおける最適利用の提案。
- ③Experimental Investigation of Superheated Fuel Spray Characteristics for D.I.S.I engines, SAE Technical Paper, 2017

松岡 敬 教授

- ①マグネシウム合金及びその複合材料のトライボロジー特性に関する研究
- ②実用金属中で最も軽量であるマグネシウム材料の摺動材料への展開を考え、材料開発及びその摩擦摩耗特性の研究を実施している。
- ③①Microstructural evolution during dry wear test in magnesium and Mg-Y alloy, Materials Science & Engineering: A, 2012 ②「AZ91合金のトライボロジー特性に及ぼす析出組織の影響」『材料』2005, 54(1), 90-96.

宮本 博之 教授

- ①新規加工法による金属材料の組織制御と高成形性化・高強度化研究
- ②強ひずみ加工による金属材料の結晶組織の微細化と高耐食性発現メカニズム解明、新規加工法による金属管・棒材の組織制御と高成形性化・高強度化研究
- ③Corrosion behavior of severely deformed pure and single-phase materials, Materials Transactions, 2019, 60(7), 1243-1255.

中村 守正 教授

- ①機械要素の高機能化を目的とした表面創成に関する研究
- ②機械要素しゅう動面の低摩擦化、耐摩耗性の向上を可能にする表面改質・創成技術に関する研究
- ③Relationships between Raman parameters obtained from cyclic indentation impressions on DLC coatings, Surface and Interface Analysis, 2020, 52(12), 859-863.

小武内 清貴 准教授

- ①先進複合材料の信頼性改善に関する研究
- ②炭素繊維強化複合材料に代表される先進複合材料の種々の荷重下での信頼性改善
- ③「セルロースナノファイバの添加による平織CFRP 積層板の疲労寿命改善とそのメカニズム」『材料』2020, 69(5), 351-357.

大窪 和也 教授

- ①構造材料用カーボン繊維強化複合材料の力学特性とその信頼性の改善に関する研究
- ②カーボン繊維を使った複合材料を構造物に应用する際の長期耐久性を改善します。
- ③「セルロースナノファイバの添加による平織CFRP 積層板の疲労寿命改善とそのメカニズム」『材料』2020, 69(5), 351-357.

笹田 昌弘 教授

- ①材料の変形メカニズムの解明と加工の高度化
- ②デジタル画像相関法を用いた材料変形の観察、材料加工における予知に関する研究
- ③①Effect of transverse ribs on axial displacement of rebars in bending, Procedia Manufacturing, 2020, 50, 253-256. ②Measurement of rollover in double sided shearing using image processing and influence of clearance, Procedia Engineering, 2014, 81, 1139-1144.

千田 二郎 教授

- ①エンジンシステムの高効率・低エミッション化と持続可能型エネルギー社会のLCA解析研究
- ②エンジンシステムの高効率化と低公害化の基礎・応用研究・次世代トランスポートのモデル解析研究・持続可能型低炭素社会の構築のためのモデル解析
- ③Simulation and Optical Diagnostics for Internal Combustion Engines, Springer, 2019, 27-36.

高岡 正憲 教授

- ①波や渦に代表される流体現象および巨視的乱雑系の統計法則と自己組織構造の物理的解明
- ②大規模構造と波動乱流と渦乱流とが共存する異種共存乱流の統計と自己組織構造の研究
- ③共著 Local-flux vectors of conserved quantities in wavenumber space: Anisotropic structures in Charney-Hasegawa-Mima turbulence, Phys. Rev. Fluids, 2022, 7(1), L012601-1-9.

多久和 英樹 教授

- ①偏微分方程式論と数学的逆問題
- ②数学の解析学分野における関数方程式論、数学的逆問題とその理工学への応用、また数学教育や大学入学選抜
- ③Complex geometrical optics solutions for anisotropic equations and applications, J. Inv. Ill-Posed Problems, 2008, 16, 791-804.

田中 達也 教授

- ①持続社会構築に貢献する難加工材料の成形加工に関する研究
- ②SDG'sに活用される持続社会構築のための重要な機能性材料を加工技術によって創製する研究
- ③A mechanism for fire retardancy realized by a combination of biofillers and ammonium polyphosphate in various polymer systems, Cellulose, 2021, 28, 3833-3846.

辻内 伸好 教授

- ①運動と振動の解析と制御および人間工学に関する研究
- ②振動・騒音問題の解決、慣性センサの開発と応用、福祉機器の開発など、実験・解析両面からアプローチしている。
- ③①「慣性センサを用いた前腕および手指運動計測システムの開発」『設計工学』2019, 54(4)231-244. ②共著『振動工学の基礎』森北出版, 2014

湯浅 元仁 准教授

- ①組織制御による高機能金属材料の開発
- ②金属材料の性能を決めるプロセス-組織-性質の関係を探索し、高強度・高機能を有する金属材料を創製するための研究開発を行う
- ③Microstructure Evolution and Local Hardness of Mg-Y-Zn Alloys Processed by ECAE, Mater. Trans., 2023

応用化学専攻

土井 貴之 教授

- ①新規電解液の開発による電池性能の向上と新しい固体電池系の創出
- ②難燃性濃厚電解液を設計して全固体電池に導入することにより高性能“擬”固体電池を開発する
- ③Solvation-controlled ester-based concentrated electrolyte solutions for high-voltage lithium-ion batteries, Current Opinion in Electrochemistry, 2018, 9, 49-55.

橋本 雅彦 教授

- ①生体成分のセンシング技術の高度化に関する研究
- ②マイクロフルイディクス技術を基盤とし、様々な疾病のバイオマーカーを高感度・高速・安価・簡便に検出するための先進的な手法とデバイスを開発している。
- ③Hands-off preparation of monodisperse emulsion droplets using a poly (dimethylsiloxane) microfluidic chip for droplet digital PCR, Anal. Chem., 2015, 87(8), 4134-4143.

人見 穰 教授

- ① 活性酸素種、酸化活性種と酸化反応の化学
- ② 老化、疾病、木材腐朽などにおいて重要な活性酸素種に関する研究、光と電気を用いて発生させた酸化活性種を利用する化学反応および新規材料の開発を行っている。
- ③ C-O Bond Formation by Arene C-H Activation via Biomimetic and Organocatalytic Oxidation, Catalytic Transformations via C-H Activation 2, Science of Synthesis, 2015.

稲葉 稔 教授

- ① リチウムイオン電池、燃料電池反応の解析と高性能化に関する研究
- ② リチウムイオン電池、燃料電池の高性能化を目指した電極反応の解析による課題の抽出、およびそれら課題解決のための新しい電池材料、触媒材料の開発
- ③ 共著『リチウム二次電池』オーム社, 2008

加藤 将樹 教授

- ① 強い電子相関による特異な性質を示す機能性セラミックスの固体物性化学的研究
- ② 強い電子相関に基づく金属-絶縁体転移や超伝導など特異な性質を示す遷移金属化合物の新規物質開発と物性評価を行う
- ③ Metal-insulator crossover in Pb-Ru based oxides with pyrochlore-type structure, Jpn. Soc. Powder Powder Metallurgy, 2018, 65(5), 249-254.

木村 佳文 教授

- ① レーザー分光による機能性流体中での光化学反応過程の研究と新規物質創成
- ② イオン液体や超臨界流体などの新しい流体中での化学反応素過程や分子ダイナミクスを種々のレーザー分光法を用いて解明するとともに新規反応の開拓を行う。
- ③ Solvent Role of Ionic Liquids in Fundamental Chemical Reaction Dynamics Analyzed by Time-resolved Spectroscopy, Chemical Record, 2023

北岸 宏亮 教授

- ① 人工ヘモグロビンの開発および医薬学への応用
- ② 血液中のヘモグロビンの機能を環状オリゴ糖などの生体適合性の高い物質をつかって再現する。その物質を用いて人工血液の素材をつくり、COガス中毒の解毒剤などとして応用する研究を行っている。
- ③ ① Synthetic heme protein models that function in aqueous solution, Chemical Communications, 2021 ② 「人工ヘモグロビンによるCOの制御と生理作用の解明」『ファルマシア』2021, 57(1), 24-28.

小寺 政人 教授

- ① 生命現象の化学的理解と応用を目的とする金属錯体の開発
- ② 生命現象の化学反応を司る金属タンパク質のバイオインスパイアード錯体を開発し、SDGsの実現に貢献する。
- ③ Dicopper(II) Complexes of p-Cresol-2,6-Bis(dpa) Amide-Tether Ligands: Large Enhancement of Oxidative DNA Cleavage, Cytotoxicity, and Mechanistic Insight by Intracellular Visualization, Inorganic Chemistry (Front Cover), 2021, 60(8), 5474-5482.

古賀 智之 教授

- ① 自己組織性高分子を基盤とする機能性ソフトマテリアルの開発研究
- ② 高分子の精密合成、刺激応答性・自己修復性等を有するスマート高分子材料、先端バイオマテリアルの開発研究
- ③ Star-shaped Peptide-Polymer Hybrids as Fast pH-Responsive Supramolecular Hydrogels, Biomacromolecules, 2022, 23, 2941-2950.

松本 道明 教授

- ① 環境調和型の新しいバイオおよび反応分離プロセスの開発に関する研究
- ② 環境負荷の小さな化合物を用いてアミノ酸などの生体関連物質および難分解性有機フッ素化合物の効率的な分離プロセスの構築を目指している。
- ③ Partition of Amino Acids in Aqueous Two-phase Systems Formed by Hydrophilic Organic Solvents and Salts, J. Chem. Eng. Japan, 2022, 55(11), 344-348.

水谷 義 教授

- ① 優れた機械的・電気的性質を示す有機材料の開発
- ② 生物に学び新しい有機材料を開発する。
- ③ ① Effects of Hydration on Mechanical Properties of Acylated Hydroxyapatite-Starch Composites, ACS Applied Polymer Materials, 2022, 4(3), 1666-1674. ② Control of molecular packing of chloroboron(III) and fluoroboron(III) subnaphthalocyanines by designing peripheral substituents, RSC Advances, 2017, 7(85), 54235-54245.

塩井 章久 教授

- ① 非平衡条件で機能する非線形化学システムの研究
- ② 物質を化学反応等によって変換し時間リズム等を発生するシステムを研究しています。
- ③ 分担執筆 Smart Materials for Chemical and Biological Stimulation: Edition 2, Royal Society of Chemistry, 2022

白川 善幸 教授

- ① 機能性粒子の設計と製造プロセス開発
- ② 晶析やメカノケミカル法を用いた機能性微粒子の作製を行う。具体的には機能を発現する粒子複合法の開発やシミュレーションを用いたプロセス開発を主に研究している。
- ③ Enhancement in dissolution behavior and antioxidant capacity of quercetin with amino acids following radical formation via mechanochemical technique, Advanced Powder Technology, 2022, 33(5), 103582.

竹中 壮 教授

- ① ナノスケール構造制御による触媒設計
- ② ナノスケールでの活性点構造設計による高性能触媒の開発
- ③ Design of interfaces and phase interfaces on cathode catalysts for polymer electrolyte fuel cells, Chem. Lett., 2021, 50(1), 136-143.

土屋 活美 教授

- ① 気液固分散プロセスにおける流れと混合特性を利用した環境・エネルギー問題への挑戦
- ② 特に、既存の霧化・分離技術に代わるグリーンかつ省エネルギーな「微細液滴(ミスト)内濃縮分散技術」として有用な超音波霧化に関する研究
- ③ 共著 Periodicity in ultrasonic atomization involving beads-fountain oscillations and mist generation: Effects of driving frequency, Ultrasonics Sonochemistry, 2022, 86, 105997.

塚越 一彦 教授

- ① 微小空間で見られる特異的な流体流れの解明と実用化へ向けての研究
- ② 微小空間で見られる特異的な流体流れを創出し、その学術および技術の体系化を遂行する。
- ③ 共著 Novel Separation Mode of HPLC Based on Phase-Separation Multiphase Flow, Analytical Sciences, 2022, 38, 731-736.

数理環境科学専攻

赤尾 聡史 教授

- ① 廃水・廃棄物の利用技術と計画
- ② 上下水道や廃棄物中にある未利用物質を資源として活用する「技術」と「社会の仕組みづくり」に関する研究
- ③ 共著「地域経済循環分析用データを利用した下水汚泥肥料利用の事業評価」『水環境学会誌』2020, 43(3), 63-68.

浅岡 正幸 教授

- ① 力学系理論及び関連する幾何学の研究
- ② 双曲力学系の大域的構造とそれに関連する幾何学、また、双曲性を持たない系が示す複雑な振る舞いに関する研究。
- ③ Non-homogeneous locally free actions of the affine group, Ann. Math., 2012, 175, 1-21.

後藤 琢也 教授

- ① エネルギーの生成・変換・貯蔵・輸送・利用に関する研究
- ② 新しい反応や材料を実験により見出した成果を活用し、エネルギーや資源の持続可能なサイクルの提案・実証
- ③ 『溶融塩電気化学によるCO₂資源化の試み』表面技術, 2022

長谷川 元洋 教授

- ① 土壌の生物学
- ② 土壌生態系における、生物群集の成立要因、攪乱に対する応答、生態系機能の解明
- ③ ①共編『土の中の生き物たちの話』朝倉書店、2022 ②共著 The effects of mixed broad-leaved trees on the collembolan community in larch plantations of central Japan, Applied Soil Ecology, 2014, 8, 13-2.

林田 明 教授

- ① 古地磁気学・地球システム科学
- ② 堆積物の磁気特性にもとづく地殻変動や環境変遷についての研究
- ③ Environmental magnetic record and paleosecular variation data for the last 40 kyrs from the Lake Biwa sediments, Central Japan, Earth Planets Space, 2007, 59(7), 807-814.

今井 仁司 教授

- ① コンピュータを用いた先端の数理解析
- ② 方程式の解の高精度数値計算法などの数値解析手法を開発する。また、解の数学的性質を数値計算によって明らかにする。
- ③ Global in space numerical computation of the ruin probability, Advances in Mathematical Sciences and Applications, 2022, 31(2), 397-406.

川口 周 教授

- ① 代数幾何学と数論幾何学
- ② 代数的数が係数の多項式の共通零点で表される代数多様体を主に調べている
- ③ ①共著『The Mordell Conjecture』ケンブリッジ大学出版、2022 ②共著 Effective faithful tropicalizations associated to linear systems on curves, Memoirs of the American Mathematical Society, 2021, 270 (1323), 1-122.

盛満 正嗣 教授

- ① 次世代二次電池・水電解技術の開発
- ② カーボンニュートラルの達成に必要な蓄電技術・水電解技術として、亜鉛負極に用いる次世代二次電池と高効率で長寿命な水電解用触媒・電極を開発
- ③ ①共著『電気化学便覧第6版第12章』丸善、2013 ②『金属・空気2次電池の開発と最新技術第12章』技術教育出版社、2011

大園 享司 教授

- ① 生物資源の生態学・生物多様性科学
- ② 菌類をはじめとする生物資源の生態系における機能と多様性、植物や動物との生物間相互作用に関する生態学的研究
- ③ ①Functional diversity of ligninolytic fungi associated with leaf litter decomposition, Ecological Research, 2020, 35(1), 30-43. ②『基礎から学べる菌類生態学』共立出版、2018

齋藤 誠慈 教授

- ① 常微分・差分方程式の定性理論
- ② 不動点定理やリアプノフの方法の応用により、常微分・差分・積分微分・偏微分方程式の解に関する定性解析
- ③ 『不動点定理による方程式の安定性解析』森北出版、2023

竹井 義次 教授

- ① 微分方程式の代数解析的及び漸近解析的研究
- ② 完全WKB解析を用いた微分方程式・差分方程式の解の大域挙動の研究、パルベ方程式の漸近解析
- ③ ①共著 Virtual Turning Points, Springer, 2015 ②共著『特異振動の代数解析学』岩波書店、2008

津田 博史 教授

- ① FinTech, 観光科学
- ② 金融市場構造の分析、企業経営分析、観光科学
- ③ ①共著『アルゴリズム化基準による高頻度取引(HFT)の特性分析』『ジャフィー・ジャーナル』2022, 20, 55-69. ②共著「従業員口コミを用いた企業の組織文化と業績パフォーマンスとの関係」『証券アナリストジャーナル』2018, 156 (7), 69-78.

堤 浩之 教授

- ① 地震と活断層に関する研究
- ② 活断層研究、変動地質学、地震地質学
- ③ ①共著 Surface ruptures associated with the 2016 Kumamoto earthquake sequence in southwest Japan, Springer, 2022 ②共編『活断層詳細デジタルマップ(新編)』東京大学出版会、2018

山根 省三 准教授

- ① 地域の気象・気候現象に関する研究
- ② 気象観測データの解析と大気モデルを用いた数値シミュレーションにより、局地的に発生する降水現象や局地風、ヒートアイランド現象、都市気候などを調査・研究する。
- ③ 共著 Effects of Land Reclamations in Osaka Bay on the Regional Climate, SOLA, 2012, 8(1), 29-32.

TOPICS 安全安心高度技術者養成プログラム

高齢化やグローバル化の進展で、安全安心な社会の構築への要請はますます高くなっています。一方で、団塊世代の退職による熟練技術者不足、技術の継承の問題が顕在化しています。技術者としての安全安心への取り組みは高度な専門知識のみならず、安全に関する知識や法律・規格への理解と良心に基づく高い倫理観が求められます。本研究科機械工学専攻では2008年度大学院GP事業に基づき、全国に先駆け「安全技術者養成コース」を設置して安全安心の設計力を持つ技術者教育を行っており、プログラムでは、学外の企業などの専門家から各分野・業界における最新の安全技術、技術者倫理、リスク管理に関して直接話を聞くことができ、国内外の企業現場で安全への実践的な取り組みを体得できる機会も提供されます。なお、プログラム修了後には学長名による修了証が授与されます。2018年度からはALL DOSHISHA教育推進プログラムに採択されて、2021年度より京田辺校地を主たる学修校地とする5つの研究科へ展開しています。



欧州理工系大学コンソーシアム(T.I.M.E.*)に加盟

同志社大学は2015年に欧州を中心とする理工系大学コンソーシアムであるT.I.M.E. (Top International Managers in Engineering) Associationに当時、日本の大学では、3校目の会員校として加盟いたしました。加盟には国内で最高水準の理系の大学院カリキュラムや国際レベルの著名な研究活動が条件となり、最終的には異なる国の3つの大学からの推薦状が必要です。本学はそれらの条件をクリアし、加盟を果たしました。また、2019年10月に開催された総会において、Advisory Committeeと呼ばれる運営委員会のメンバーにも選出され、今後、ますますT.I.M.E.のネットワークを効果的に活用し、国際的に活躍するエンジニアの育成やダブルディグリーの促進などを目指します。

※T.I.M.E. (Top International Managers in Engineering)

欧州における大学間の協力により、修士・博士レベルのダブルディグリーの推進などを通じて、国際的に通用する工学分野の人材育成に資するために設立された国際コンソーシアム。1989年に16大学の加盟により創設され、現在は、本学を含め25カ国59大学・機関から構成され、欧州以外からはブラジル、日本、中国、オーストラリア、カナダ、トルコ、アルゼンチンの有力大学が加盟している。

詳細はこちら <https://timeassociation.org/>

生命医科学研究科



生命医科学研究科とは

生命医科学研究科では、工学と医学を基盤とした“生命医科学領域”における先端研究を通して、高度かつ総合的な研究能力を涵養し、生命現象や科学技術に対する深い洞察力と俯瞰的視野を身に付けた人材の育成を目的としています。生命科学から工学技術に及ぶ、専門的かつ領域横断的な教育課程における学びによって、“ヒト(あるいは人類)”の未来を切り開いていく高度な専門性を有する技術者・研究者の養成を行っています。

医工学・医情報学専攻医情報学コース

医情報学コースでは、情報工学、生体医工学、行動生物学、物理・化学、統計学を学び、それらの専門性とAI・IoTといった先端技術を組み合わせ、ヒトをはじめとする生体の情報に纏わる研究課題に取り組みます。その中で、自発的な課題の発見・解決能力を身に付け、生命医科学分野の発展に貢献できる科学者を養成します。

医工学・医情報学専攻医工学コース

機械工学と医学の両専門分野において、高度な専門性を有し、学際的な観点から社会のニーズに応えられる人物を育てることを目指しています。近年、工学分野のみならず、多様な分野において“ヒト”の特性を理解した上で製品開発を行う必要性が高まっており、医工学領域における卓越した知識や技術を有する人材が求められています。医工学コースでは、先端研究を通して、医学と工学の融合的な見地から“医工学”の新たな可能性を探究し、「ものづくり」分野において社会に貢献できる技術者・研究者を世に送り出しています。

医生命システム専攻

医生命システム専攻では、生命科学から臨床医学にわたる広範な学問を体系的に学び、生命現象を多面的に探求します。ヒトを生命システムと捉え、その破綻から生じる様々な疾患や老化のメカニズムを解明するとともに、それらの治療・予防法の開発を目指します。医科学の高度な知識と研究力を養い、人の健康と幸福に貢献できる研究者の養成を行います。

医工学・医情報学専攻
医生命システム専攻



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディーズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

医工学・医情報学専攻

伊藤 利明 教授

- ①微分方程式や離散方程式を用いた複雑現象理解のための数学モデル考案とその解法
- ②知的活動支援の情報・数理
- ③「高校数学教科書におけるシンボル化を用いた単元関連付け方法の提案」『情報処理学会論文誌』2023, 64(1), 256-269.

川口 正隆 教授

- ①並列演算による非線形構造の大規模振動解析、振動制御による実機部品の振動再現
- ②・多段モード合成を用いたガタ等の非線形構造系に対する振動解析法の開発
・産業車両の実稼働時に発生する部品振動を小型アクチュエータで再現する実験技術の開発
- ③「多段モード合成法による大規模なガタ構造系の非線形振動解析」『D&D2022講演論文集』2022, 22-9.

剣持 貴弘 教授

- ①生命物理学：DNA、細胞、ミニ臓器、組織伸展応答
- ②DNA高次構造転移による遺伝子発現活性制御機構の研究、3次元細胞組織体の構築、組織伸展応答によるがんの病理診断の研究
- ③Activation/Inhibition of Gene Expression Caused by Alcohols: Relationship with the Viscoelastic Property of a DNA Molecule, *Polymers*, 2022, 15(1), 149-149.

小泉 範子 教授

- ①視覚障害に対する再生医療と新規治療薬の開発
- ②世界の角膜失明の主要原因であるフックス角膜内皮ジストロフィの病態解明、再生医療と治療薬の開発、新規治療の製品開発のための産学連携研究。
- ③Injection of Cultured Cells with a ROCK Inhibitor for Bullous Keratopathy, *The New England Journal of Medicine*, 2018, 378(11), 995-1003.

森田 有亮 教授

- ①組織再生のための培養環境設計および再生組織の力学機能評価手法の開発
- ②細胞接着性や細胞活性向上を促す機能性を付与したナノファイバー構造やスポンジ構造を有するスキャホルドの開発
- ③「生体・医療材料の最前線 4. 組織再生医療用材料の最前線」『材料』2019, 68(11), 865-870.

奥村 直毅 教授

- ①視覚障害に対する新規治療法の開発
- ②角膜移植に代わる新しい治療法として再生医療や薬物治療の開発を行っている。また、AIによる医療情報の処理に関する研究も進めている。
- ③眼科領域における研究成果を多くの英文雑誌に発表している。

田中 和人 教授

- ①機械材料
- ②複合材料、微小材料、生体・医療材料の成形法の開発とその機械的特性評価
- ③①「最外層に熱可塑性樹脂層を有するCFRP積層板を利用したCFRP/AIの摩擦攪拌点接合」『材料』2022, 71(5), 453-460. ②「炭素繊維強化ポリアミド6の含浸特性に及ぼす炭素繊維へのCNT析出の影響」『材料』2021, 70(9), 670-677.

積原 徹 教授

- ①ロボット工学、制御工学
- ②人間とロボットの協調作業に関する研究、自転車競技選手のペダリング解析
- ③Analysis of Upper-Extremity Motion and Muscle and Brain Activation During Machine Operation in Consideration of Mass and Friction, *IEEE Transactions on Human-Machine Systems*, 2018, 48(2), 161-171.

山本 浩司 教授

- ①細胞の刺激応答メカニズムの解明および効率的組織再生システムの開発
- ②生体組織における力学刺激応答の分子イメージング、効率的組織再生を目指した刺激最適化システムの開発
- ③Wwp2 is essential for palatogenesis mediated by the interaction between Sox9 and mediator subunit 25, *Nat Commun*, 2011, 2.

横川 隆一 教授

- ①人の運動機能の解析と介護・福祉ロボットに関する研究
- ②人の筋腱駆動系のモデリングと制御系の解明、人の運動を補助するロボットの研究・開発
- ③①Manipulabilities of the Index Finger and Thumb in Three Tip-Pinch Postures, *J Biomech Eng*, 2004, 126(2), 212-219. ②Measurement of Distribution of Maximum Index-Fingertip Force in all Directions at Fingertip in Flexion/Extension Plane, *J Biomech Eng*, 2002, 124(3), 302-307.

秋山 いわき 教授

- ①新しい医用超音波イメージングと超音波の生体作用
- ②MR高磁場環境下での同時超音波イメージングによる新しい画像診断技術の開発と超音波照射による生体への影響の調査検討およびその治療への応用
- ③①Preliminary Investigation of Magnetic Resonance Imaging Guided Beamforming in Flexible Type Ultrasonic Array Transducers, *Front. Phys*, 2021 ②『アコースティックイメージング』コロナ社, 2010

廣安 知之 教授

- ①ヒトの情報に対するAIとICTによる知的処理
- ②進化計算アルゴリズムの開発
・人工知能と情報処理技術によるマテリアルズインフォマティクス
・DNAやメタボロームを解析するシステムバイオロジー
・人工知能と良心、宗教の関わり の検討
・脳機能情報を始めとする生体情報を利用するサービスの構築
・人工知能と情報処理技術による医用画像処理
- ③Demarcation Line Determination for Diagnosis of Gastric Cancer Disease Range Using Unsupervised Machine Learning in Magnifying Narrow-Band Imaging, *Diagnostics*, 2022, 12(10), 2491-2491.

飛龍 志津子 教授

- ①生物が行う様々なセンシングの機構・機能の解明とその工学的応用
- ②コウモリの超音波センシングやナビゲーションに関する動物行動学、生態学的研究や、ロボットなどの工学的研究など
- ③Echolocating bats use future-target information for optimal foraging, *PNAS*, 2016, 113(17), 4848-4852.

日和 悟 准教授

- ①非侵襲脳イメージングとその情報処理に基づくヒトの認知機能の分析と応用
- ②創造性の脳機能・構造的メカニズムの解明、生体情報に基づくドライバの状態推定
- ③Predicting the Degree of Distracted Driving Based on fNIRS Functional Connectivity: A Pilot Study, *Front. Neuroergon*, 2023, 3:864938.

小林 耕太 教授

- ①聴覚・発声・音声コミュニケーションの神経行動学
- ②ヒトを含む動物の聴覚や発声の仕組みに、神経生物学、認知心理学的な手法で迫り、人工感覚(聴覚)器等への応用を目指す
- ③①Feasibility evaluation of transtympanic laser stimulation of the cochlea from the outer ear, *J Acoust Soc Am*, 2022, 152(3), 1850-1855. ②『勝てる脳、負ける脳 一流アスリートの脳内で起きていること』集英社, 2017

大江 洋平 教授

- ①有機化学：錯体、触媒、合成、分析
- ②環境調和型触媒的有機合成、錯体ミセルの合成と利用、蛍光分子プローブの開発
- ③①「錯体ミセル」*Chemistry Letters*, 2022, 51(9), 936-939. ②「蛍光分子プローブ」*Molecules*, 2021, 26(2), 482. ③『触媒反応』*Chemistry Letters*, 2019, 48(10), 1192-1195.

太田 哲男 教授

- ①生理活性化合物の効率的合成と機能の解明
- ②遷移金属錯体の創成とそれを用いる触媒反応の開発。
- ③Addition reaction of Heteroatom Nucleophiles onto Styrene Catalyzed by Ru(II) Complex, *Sci. Eng. Rev. Doshisha Univ.*, 2009, 50, 94-99.

貞包 浩一郎 准教授

- ①生命物理学・非平衡ソフトマター物理学：DNA、細胞、ソフトマテリアルの階層ダイナミクス
- ②生体物質や溶液などの「やわらかな物質」に置いて見られる様々な非平衡秩序について、物理学の観点からメカニズムの解明を進めている
- ③Manipulating Living Cells to Construct Stable 3D Cellular Assembly Without Artificial Scaffold, *J Vis Exp*, 2018, 140.

舟本 聡 准教授

- ① アミロイドβタンパク質産生機序の解明と産生抑制
- ② アルツハイマー病の原因タンパク質アミロイドβの産生機序を理解して、アルツハイマー病治療・予防に貢献する。
- ③ ① Successive cleavage of β-amyloid precursor protein by γ-secretase, *Semin Cell Dev Biol*, 2020, 105, 64-74. ② Substrate ectodomain is critical for substrate preference and inhibition of γ-secretase, *Nat Commun*, 2013, 4(2529).

市川 寛 教授

- ① 機能的食品による生活習慣病発症予防
- ② 機能的食品(抗酸化食品)、運動、外的刺激(超音波、紫外線照射)などを用い、生体の活性酸素・フリーラジカル消去活性を高める新たなメカニズムを明らかにする研究を行っている。
- ③ Effects of High-Intensity Anaerobic Exercise on the Scavenging Activity of Various Reactive Oxygen Species and Free Radicals in Athletes, *Nutrients*, 2023, 15(1).

池川 雅哉 教授

- ① ヒトやモデル動物におけるゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクス解析を用いた生体機能分子の研究
- ② イメージング質量分析法という生化学・病理学・バイオインフォマティクスを統合した新しい医学の解析手法を通じて難病の克服に挑む
- ③ Mass spectrometry imaging (MSI) delineates thymus-centric metabolism in vivo as an effect of systemic administration of dexamethasone, *Applied Sciences*, 2021, 11(22), 11038.

祝迫 恵子 教授

- ① 消化器疾患の病態メカニズムの解明と治療法の開発
- ② 臓器の線維化や癌の病態メカニズムの解明、治療法開発を目標として、動物モデルや臨床検体を用いて研究を行っています。
- ③ Origin of myofibroblasts in the fibrotic liver in mice, *PNAS*, 2014, 111(32), E3297-E3305.

小林 聡 教授

- ① ガン発症と治療に対する基礎医学研究
- ② 難治性である膵臓がんの克服のために、転写因子 NRF3 の機能破綻による腫瘍増大メカニズムないしがん微小環境とのクロストークを解明する。
- ③ Roles of NRF3 in the Hallmarks of Cancer: Proteasomal Inactivation of Tumor Suppressors, *Cancers*, 2020, 12(9), 2681.

浦野 泰臣 准教授

- ① 脂質代謝異常による疾患発症メカニズムの解明と治療薬の開発
- ② 細胞死や細胞内輸送の観点から脂質異常が関与する疾患の発症機構の解明や治療薬開発を目指した細胞生物学的研究
- ③ Induction of apoptosis and necroptosis by 24(S)-hydroxycholesterol is dependent on activity of acyl-CoA:cholesterol acyltransferase 1, *Cell Death Dis*, 2014, 5, e990.

西川 恵三 教授

- ① 運動器・免疫疾患の新規治療・予防法の開発に向けた基礎医学研究
- ② 破骨細胞や免疫細胞の細胞生物学研究、二光子励起顕微鏡を用いた生体イメージング研究、AIを活用した画像解析
- ③ Osteoclasts adapt to physioxia perturbation through DNA demethylation., *EMBO Rep*, 2021, 22(12), e53035.

西川 喜代孝 教授

- ① 各種感染症ならびに癌などの重要疾患発症のメカニズムの解明と創薬
- ② 細菌毒素やウイルスタンパクなどの各種病原性因子、ならびにがんや炎症に関わる疾患関連分子群を標的とした創薬研究
- ③ Identification of a peptide motif that potently inhibits two functionally distinct subunits of Shiga toxin, *Commun Biol*, 2021, 4(1).

野口 範子 教授

- ① 酸化ストレスによる疾患発症と生体防御能亢進のメカニズム
- ② ① コレステロール酸化物による細胞死の誘導と抗酸化物質(ビタミン類や超硫黄化合物)による抑制メカニズムの研究
② アルツハイマー病・パーキンソン病関連タンパク質の修飾と細胞外分泌機構の研究
③ 糖尿病を促進する血漿タンパク質とそれを制御する因子の作用機序の研究
- ③ Different functions of vitamin E homologues in the various types of cell death induced by oxysterols, *Free Radic Biol Med*, 2021, 176, 356-365.

齋藤 直人 准教授

- ① 神経細胞のcAMPイメージング
- ② 生細胞内のcAMPがどのように動いているのか、を解析できるようにする。培養神経細胞または脳スライスを用いて、生細胞イメージングを行う。
- ③ Green fluorescent cAMP indicator of high speed and specificity suitable for neuronal live-cell imaging, *PNAS*, 2022, 119(28), e2122618119.

渡辺 政隆 特別客員教授

- ① 科学史、サイエンスコミュニケーションの教育と実践
- ② 進合理論の受容、サイエンスコミュニケーションの科学と手法
- ③ ① 「持続可能な社会のための地方都市での科学祭の可能性～はここで国際科学祭を事例として～」『日本サイエンスコミュニケーション協会誌』2020, 10(2), 80-89. ② 『ダーウィンの遺産：進化学者の系譜』岩波書店, 2015 ③ 『一粒の柿の種：科学と文化を語る』岩波書店, 2008

米井 嘉一 教授

- ① 老化と老化危険因子の評価一特に糖化と抗糖化について
- ② 身体の老化度と糖化危険因子の評価の確立という大きなテーマの中で、糖化ストレスの評価方法、身体への影響、糖化ストレス防御の研究に重点を置いている。食育においては終末糖化産物(AGEs)分解促進やアルデヒドトラップ作用を有する食品中機能性成分を探索中である。
- ③ 『抗加齢医学入門(第3版)』慶應義塾大学出版会, 2019

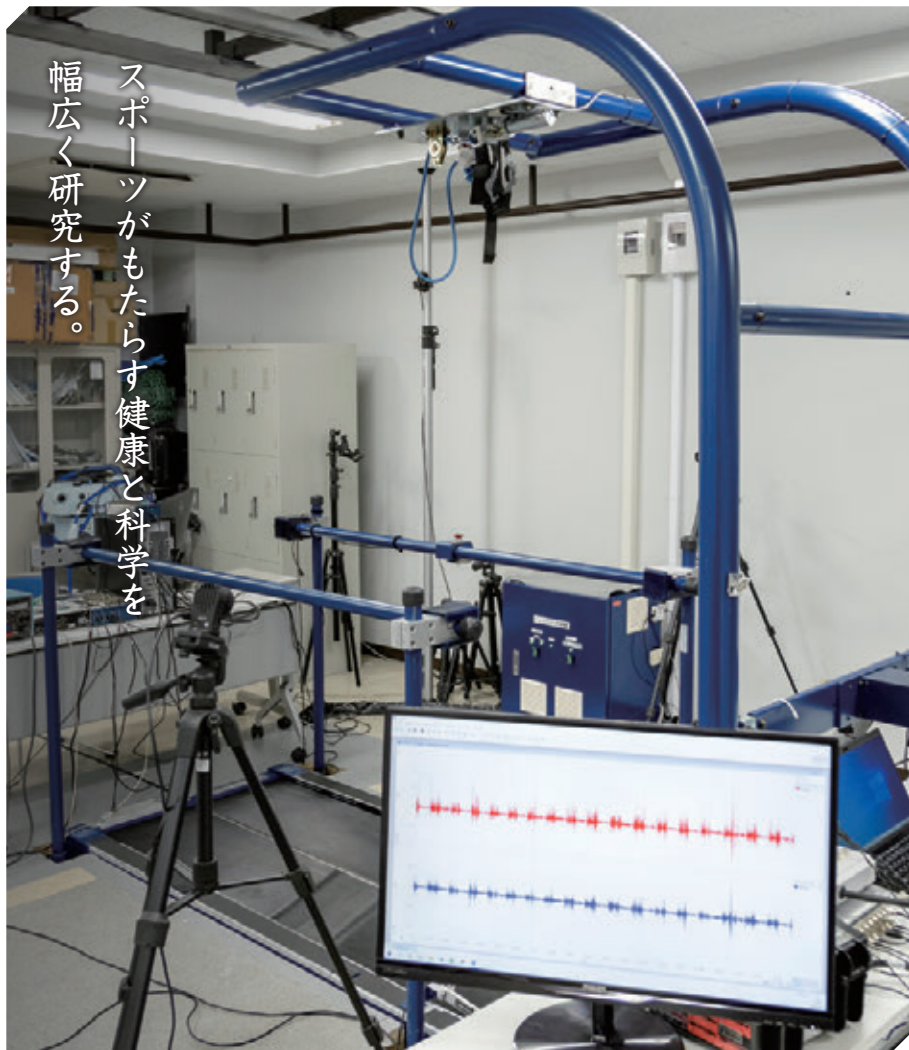
TOPICS 研究科独自の海外留学プログラム

国際化が加速し続ける中、グローバルな感覚や視野の広さを在学中から養えるように、学会発表に対する支援や、研究科独自の様々な海外留学プログラムの提供を行っています。本学と留学先双方から2つの修士号あるいは博士号の取得が可能なダブル・ディグリープログラム(留学期間はプログラムにより1～2年)や短期・長期留学プログラムのみにとどまらず、海外の優れた大学などとの共同研究も実施されており、多様な学びが可能となっています。



エコロール・セントラル

スポーツ健康科学研究科



スポーツがもたらす健康と科学を幅広く研究する。

スポーツ健康科学専攻

スポーツ健康科学研究科とは

現代社会では、健康寿命の延伸の基盤となる健康の重要性の認識が高まり、スポーツはアスリートがその頂点を争う競技スポーツだけではなく、一般の人々が健康のために楽しむスポーツまで幅広い領域にわたるものとして広く受け入れられています。これらの社会的ニーズを受け、本学では総合応用科学であるスポーツ健康科学の体系的な大学学部教育の上に、スポーツ健康科学に関するより高度な専門知識と卓越した理論を修得した専門家を養成するため、スポーツ健康科学研究科として大学院博士課程前期課程及び後期課程を設置しています。

本研究科では、基盤となる「トレーニング科学」、「健康科学」、「スポーツ社会学」の3つの分野を基軸に、スポーツ健康科学に関連する基礎学問領域に関する深い知識と、実験・研究によって得られる新しい知見の獲得を目指します。さらに、多様化しつつあるスポーツ健康科学を解明するために、生命医科学や理工学領域及び工学技術の知識の導入を目指し、隣接研究科との積極的な連携を推進し、高度な専門知識を有し、健康の維持増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与・貢献し、活躍できる人物を輩出します。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

健康科学研究 運動と健康

ヘルスプロモーションを科学的に探求する

トレーニング科学研究 運動能力と運動行動

パフォーマンスの向上を科学的に探求する

スポーツ・マネジメント研究 スポーツを取り巻く環境

スポーツの価値を社会的に探求する

スポーツ健康科学に関連する基礎学問領域の知識の涵養
隣接学問領域の知識の積極的導入

目指すフィールド

高度な研究者として

スポーツ健康科学の諸分野において新たな研究手法や学問分野を創造する能力を有した研究者として、国内外での幅広い活躍が期待できます。研究者として高度な専門知識の深化を図るため、選択した1つの分野に関する知識の集中的な修得に重点を置きます。とりわけ、博士後期課程修了者には、高度な研究者としての期待が高まっています。

■履修すべき科目例

トレーニング科学研究I~IV / スポーツ生理学特講 / 環境生理学特講 / スポーツ生化学特講 / スポーツ心理学特講 / 公衆衛生学特講 / 身体運動制御論特講 / スポーツ医学特講 / スポーツ・バイオメカニクス特講 / スポーツ政策論特講 / スポーツ・マーケティング・リサーチ特講 など

学校教育における保健体育教員(専修免許)

中学校・高等学校などの学校教育の現場で、より専門的かつ幅広い知見を有した保健体育教員としての活躍が期待できます。子どもたちの体力低下が懸念される昨今、教育現場が求めているのは心理学やコーチングなどにも精通した優秀な教師。教育現場で必要とされる多様な知識を幅広く修得し、即戦力となれる力を磨きます。

■履修すべき科目例

スポーツ・マネジメント研究I~IV / スポーツ生理学特講 / スポーツ栄養学特講 / 公衆衛生学特講 / スポーツ心理学特講 / スポーツ心理学実験実習 / スポーツ測定方法論特講 / スポーツ政策論特講 / スポーツ政策論フィールドワーク演習 / スポーツ生体ダイナミクス特講 など

民間の医療・健康関連産業でのキャリア形成

医療関連企業やヘルスケア関連企業、ライフサイエンス関連企業などにおいて、健康とスポーツについての理論と実践の両面にわたる高度な専門知識を活かしたキャリア形成が期待できます。領域横断的な履修を行い、ビジネスの現場での様々な局面に対応できる柔軟性と実践力、そして幅広い知見を身に付けます。

■履修すべき科目例

健康科学研究I~IV / スポーツ医学特講 / スポーツ栄養学特講 / 公衆衛生学特講 / 運動処方論特講 / スポーツ生理学特講 / スポーツ生理学実験実習 / スポーツ心理学特講 / スポーツ測定方法論特講 / スポーツ政策論特講 / スポーツ・マーケティング・リサーチ特講 / スポーツビジネス論特講 など

生涯スポーツ関連領域で活躍できる人材

高齢化が進む現代日本におけるQOL向上の観点から今後ますます需要が高まる生涯スポーツを、自治体などにおいて指導・発展させる人材となることが期待できます。個々が選択した専門分野を深めるとともに、関連する分野を重点的に履修して、生涯スポーツ指導の現場で即戦力となれる力を修得します。

■履修すべき科目例

トレーニング科学研究I~IV / スポーツ医学特講 / 公衆衛生学特講 / 運動処方論特講 / スポーツ生理学特講 / スポーツ生理学実験実習 / スポーツ心理学特講 / スポーツ運動学特講 / スポーツ測定方法論特講 / スポーツ政策論特講 など

2023年度 スポーツ健康科学研究科 担当教員の研究テーマ

①研究テーマ ②研究概要 ③論文・著書

海老根 直之 教授

- ①人間栄養学、スポーツ栄養学
- ②ヒトを対象とした栄養学・スポーツ栄養学・栄養生理学領域の研究(エネルギー代謝、水分吸収、パフォーマンス向上、消化・吸収)
- ③ The acute effects of a single dose of molecular hydrogen supplements on responses to ergogenic adjustments during high-intensity intermittent exercise in humans, *Nutrients*, 2022, 14(19), 3974.

藤澤 義彦 教授

- ① スポーツ選手の資質に関する研究
- ② 本研究は、スポーツ選手に必要なと考えられる「資質」を明らかにする目的から各種の測定を実施し、そこから得られた結果を基に、競技力向上のための諸方策ならびに、新しいトレーニング方法の開発を行うものである。
- ③ Physical and performance characteristics related to starter status, position, and division in Japanese collegiate American-football players, *Isokinetics and Exercise Science*, 2021, 30(1), 1-8.

福岡 義之 教授

- ① 低温・低酸素暴露下での呼吸-循環-体温システムのクロスアダプテーション
- ② 高地環境(アンデス・チベット)をモデルにした呼吸-循環と体温調節の統合生理学的研究である。
- ③ Chemoreflex drive and the dynamics of ventilation and gas exchange during exercise at hypoxia, *Am J Respir Crit Care Med*, 2003, 168(9), 1115-1122.

北條 達也 教授

- ① スポーツ外傷・障害予防の研究、運動器障害のリハビリテーション・コンディショニングの研究、アンチドーピングに関する研究、温泉医学研究
- ② スポーツでは競技特性に合わせた傷害予防が必要であり、その疫学調査や傷害予防法についてテニス、野球、ダンス競技、陸上競技、コンタクトスポーツを中心に疫学的調査、介入研究を行っている。また、温熱・寒冷療法、マッサージ・ストレッチ、鍼治療の研究も行っている。
- ③ 「運動器温熱療法のエビデンスを求めて」『日本生体電気・物理刺激研究会誌』2017, 31, 11-20.

石井 好二郎 教授

- ① 小児から高齢者および要擁護者から競技者までの運動処方方の開発・展開
- ② 身体そのものや、それを取り巻く環境などを実験・調査し、具体的な課題の解決方法を探ります。
- ③ 『もっとなっとく 使えるスポーツサイエンス』講談社, 2017

石倉 忠夫 教授

- ① 運動学習を効率的にすすめる方法
- ② 運動技能の教示方法やフィードバックの与え方が運動学習に及ぼす影響に関する研究
- ③ Effects of angle of model-demonstration on learning of motor skill, *PERCEPTUAL AND MOTOR SKILLS*, 1995, 80(2), 651-658.

井澤 鉄也 教授

- ① スポーツ生化学
- ② 肥満症の予防・改善に有効な運動による脂肪組織や細胞の生物学的応答の変化を細胞生物学的視点から解明することを試みています。
- ③ Metabolomic Profiles in Adipocytes Differentiated from Adipose-Derived Stem Cells Following Exercise Training or High-Fat Diet, *Int J Mol Sci*, 2021, 22(2), 966.

上林 清孝 准教授

- ① ヒトの身体運動における制御・学習メカニズムの神経生理学的研究
- ② アスリートの優れた運動パフォーマンスを可能とする神経基盤に関する研究、歩行・走行における神経制御機構に関する研究
- ③ Modulation of muscle synergies in lower-limb muscles associated with split-belt locomotor adaptation, *Frontiers in Human Neuroscience*, 2022, 16.

中村 康雄 教授

- ① スポーツにおける身体動作の運動学的・力学的解析と評価
- ② 野球の投球動作などの上肢を用いたスポーツ動作における肩甲骨を含む上肢の動作解析
- ③ A new method of estimating scapular orientation during various shoulder movements: A comparison of three non-invasive methods, *Journal of Electromyography and Kinesiology*, 2019, 44, 46-55.

二宮 浩彰 教授

- ① スポーツマネジメントの理論と実践研究、スポーツ・マーケティング・リサーチ
- ② スポーツ参加者やスポーツ観戦者を対象とした調査を実施し、実証的にスポーツ消費者行動を分析することによって、スポーツマネジメントに役立つ研究成果を導く。
- ③ An examination of the relationship between destination image and marathon participants' behaviours, *Journal of Sport & Tourism*, 2019, 23(4), 225-241.

庄子 博人 准教授

- ① スポーツビジネス、スポーツ産業
- ② する・みる・ささえるスポーツの発展に必要なスポーツビジネス、スポーツ産業の研究
- ③ 「日本版スポーツサテライトアカウント作成の検討 その3ー日本版SSAの開発とスポーツ産業付加価値の推計ー」『スポーツ産業学研究』2019, 29(3), 199-209.

竹田 正樹 教授

- ① スポーツ生理学からみたスポーツ競技力とトレーニングの科学的研究
- ② 対象となるスポーツにとって、競技力と密接に結びついている体力科学要因と最適トレーニング方法を解明する。
- ③ Cross-Country Skiing Analysis and Ski Technique Detection by High-Precision Kinematic Global Navigation Satellite System, *Sensors*, 2019, 19(22), 1-14.

田附 俊一 教授

- ① 「コツ」や「カン」習得の理論と実践: スポーツ運動学
- ② できるだけ教えず、ルールを含む環境の提供により、自らが習得するしかない「技」やスペースを見つけタイミングよく走り込む・ボールを投げるなど「時・空間認識と行動能力」習得の理論と実践。
- ③ ①「侵入型ボールゲームにおけるメンバーやルールの違いとプレイヤー間の潜在的情報伝達」『同志社大学ハリス理化学研究報告』2019, 60(1), 36-42. ② 共著『中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫』道和書院, 2017

若原 卓 准教授

- ① 骨格筋のメカニクス
- ② ヒト骨格筋のメカニクス・収縮特性、筋・腱の形状・機能と基本的な動作のパフォーマンスとの関連、トレーニングによる筋・腱の形状・機能的特性の変化
- ③ Nonuniform muscle hypertrophy: its relation to muscle activation in training session, *MEDICINE AND SCIENCE IN SPORTS AND EXERCISE*, 2013, 45(11), 2158-2165.

柳田 昌彦 教授

- ① 介護・生活習慣病予防のための運動疫学研究
- ② 有酸素運動とレジスタンス運動の複合運動における順序性や運動強度が高齢者の生活体力や動脈ステイフネスなどに及ぼす影響を疫学的に研究している。
- ③ Effect of exercise order of combined aerobic and resistance training on arterial stiffness in older men, *Experimental Gerontology*, 2018, 1(111), 27-34.

横山 勝彦 教授

- ① スポーツ政策論・スポーツ組織文化論
- ② スポーツ政策の理論と制度、国・地域のスポーツ政策、感動の価値創造、スポーツ産業、組織形態のイノベーション
- ③ ①共著『スポーツの組織文化と産業』晃洋書房, 2012 ②共著『スポーツ政策論』成文堂, 2011 ③共著『スポーツの経済と政策』晃洋書房, 2011

TOPICS 研究センターを設置し研究環境の充実を図る

学術研究の進展及び新しい研究分野の開拓に資することを目的として研究センターを複数設置して、学内外の研究者とも幅広く連携を取り、研究環境の充実を図っています。

● スポーツ医科学研究センター

基礎研究の成果を総合化し、人々の生活に還元することを目的とする。特に「子どもの運動指針」「身体活動と睡眠」「生活習慣病予防」「介護予防」などの直近の社会的課題に対する、研究者の有機的連携の場としての役割と機能を果たす。

● スポーツ傷害予防研究センター

設置目的: 医師、理学療法士、トレーナー、トレーニング科学研究者、健康科学研究者、栄養学研究者が横断的に協力し、新たなスポーツ傷害の予防法の提案を試み、その成果を国内外に情報発信することを目的とする。

● スポーツマネジメント研究センター

スポーツマネジメントの観点から産官学の結びつきにおける相互関係の強化に努め、スポーツビジネスの知識体系の共有と新たなビジネスモデルのあり方を検討することを目的とする。

心理学研究科

心理学専攻



科学的見地から人間の
本質や行動原理を
深く理解することを目指す。

心理学研究科とは

本研究科では、学術研究の高度化と優れた研究者養成、教育研究を通じた社会貢献と国際貢献、高度専門職業人の養成の3つを目標に掲げ、人間行動の基礎にある心理学的な機能を理解するため、実験心理学的アプローチをベースとした教育と研究を行ってきました。

心理学コースでは、心理学の高度な専門知識や研究能力を習得します。また、学外の研究機関や企業の施設などで研修を行い、そこで発見した課題に基づいた研究計画の立案や、心理学的見地から企画提案など、実践的トレーニングも行っています。臨床心理学コースでは、臨床心理学の知識の充実とともに、心理臨床センターや学外実習を通じた実践的な技能を習得します。単なる実践にとどまらない、高いレベルの研究能力を備えた科学的実践家の養成を目的としています。なお、2018年度からは、公認心理師(国家資格)の受験資格に対応したカリキュラムを運用しています。

産官学連携で実践的な教育プログラム

心理学研究科では、2007年から2009年度まで文部科学省による大学院教育改革支援プログラムに「研究センター連携型オープンフィールド教育」が採択されました。このプログラムは、心理学部の中に設置された研究センターを基盤として広く学外の研究機関や研究者、あるいは一般の民間企業との共同研究を行い、社会に役立つ心理学のあり方を検討し、それを大学院の教育プログラムとして確立していこうとするものでした。

現在、このプログラム自体は一応の成果を上げて終了していますが、このプログラムによって確立された大学院の産官学連携に関する研究と教育のシステムはその後も継承されています。このような研究・教育システムを維持することで、本研究科では現代社会が置かれた状況や問題と向き合い、その解決に貢献できる実践的な力を育成することに焦点を当てた教育と研究を展開しています。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

教育課程の編成とその特色

前期課程

■心理学コース

心理学コースは、科学的な立場からの実証的研究を行う力を養成します。またインターンシップを授業の中に組み込むことで、高度な知識と研究の力に加え、現代社会に貢献し得る問題意識とプロデュース能力を育成します。さらに高度な専門知識を習得し、プロジェクトの企画立案など実践的なトレーニングを行います。

■臨床心理学コース

臨床心理学コースでは、「基礎と応用の懸け橋となる」という理念に基づき、実証的な研究能力を育成しつつ、現代社会を取り巻く諸問題の解決のために、臨床心理学の立場から貢献できる人材の育成を目標としています。臨床心理学コースを修了し、所定の条件を充足している修了生は、臨床心理士資格審査を受験する資格が与えられます。公認心理師については2018年度より受験資格に対応したカリキュラムを運用しています。

後期課程

後期課程では、心理学の専門家として独自の問題を掘り起こし、実証的な研究を通じて、心理学やその関連領域の発展に貢献するための研究能力を培うことを目標としています。「プロジェクト特別演習」では、学生自らが共同研究プロジェクトを立ちあげ、研究を推進していきます。専門領域内の活動にとどまらず、社会の諸問題を見据える幅広い視野を持ち、国際的に活躍できる研究者を育成します。

2023年度 心理学研究科 担当教員の研究テーマ

①研究テーマ ②研究概要 ③論文・著書 ※は研究指導担当教員

心理学コース

青山 謙二郎 教授※

- ①学習心理学・行動分析学の立場から、食行動や動機づけ行動が変化する法則性を探る
- ②食べる量やおいしさの感じ方に現在の環境や過去の経験がどのように影響するかを実験によって解明する
- ③共編『心理学からみた食べる行動—基礎から臨床までを科学する』北大路書房, 2017

藤村友美 准教授※

- ①表情や感情の心理・生理学的研究
- ②コミュニケーションにおける表情同調や感情に着目し、筋電図法などの生理指標を用いて、人の社会的関係性成立のメカニズムを明らかにする。
- ③Untrustworthiness inhibits congruent facial reactions to happy faces, Biological psychology, 2016, 121(Pt A), 30-38.

畑 敏道 教授※

- ①生理心理学、行動学的神経科学
- ②動物の時間評価や記憶の脳内機構
- ③①Intra-dorsal striatal acetylcholine M1 but not dopaminergic D1 or glutamatergic NMDA receptor antagonists inhibit the consolidation of duration memory in interval timing, Behav Brain Res, 2022, 419, 113669. ②The dorsal hippocampus is required for the formation of long-term duration memories in rats, Eur J Neurosci, 2021, 54, 4595-4608.

神山 貴弥 教授※

- ①開発的・予防的生徒指導と子どもの心理・社会的発達
- ②対人的接近動機を高める介入方法の開発とその効果検証、学校における異年齢交流の効果に関する研究
- ③共編『児童・生徒のための学校環境適応ガイドブック—学校適応の理論と実践—』協同出版, 2009

中谷内 一也 教授※

- ①リスク認知と災害準備
- ②一般の人々のリスクに対する受けとめ方、反応の仕方について、専門家によるリスク評価と対比しながら実証的な検討を行っている。さらに、それらが災害に対する準備にどのような形で影響しているのかという問題にもアプローチしている。
- ③『リスク心理学—危機対応から心の本質を理解する』筑摩書房, 2021

及川 昌典 教授※

- ①社会心理学
- ②社会的認知、社会的感情、自己制御、意思決定における意識と無意識の働きに関する研究
- ③①Choosing across cultures: The effect of choice complexity on treatment outcomes, JOURNAL OF BEHAVIORAL DECISION MAKING, 2015, 28(5), 515 - 528. ②「自己制御における意識と無意識：意識的編集と目標プライミングの効果」『心理学研究』2010, 81 (5), 485-491.

竹原 卓真 教授※

- ①表情の認知および顔魅力
- ②三次元カメラを使った表情の認知、男女のメイク等を通じた顔魅力、一般的な顔魅力研究。
- ③共著「上瞼が二重の顔は魅力的だが下瞼の涙袋メイクは逆効果かもしれない」『日本感性工学会論文誌』2021, 20 (2), 121-128.

田中 あゆみ 教授※

- ①ヒューマン・モチベーション
- ②達成目標の機能の解明、自律性の支援
- ③①分担執筆『絶対役立つ教育心理学(第2版)』ミネルヴァ書房, 2021 ②共著 Longitudinal association between maternal autonomy support and controlling parenting and adolescents' depressive symptoms, Journal of Youth and Adolescence, 2023.(Online ahead of print)

内山 伊知郎 教授※

- ①乳幼児の認知および感情発達
- ②主として乳幼児を対象とした行動発達や向社会的な発達研究。また、母子関係についての研究、とくに母親から子どもへの関わり方についての研究。
- ③監修「深さと怖れ」『感情心理学ハンドブック』北大路書房, 2019, 375.

余語 真夫 教授

- ①PTSDおよび有害なストレス反応の軽減・ケア・回復の実践研究
- ②致死可能性の高い専門職に就く人々が、教育・訓練課程において、いかなる知識と技能を習得することが、有事の際の致死可能性やPTSD負傷を軽減できるのか、米国海軍・海兵隊や英国海軍・海兵隊などの協力を受けながら、日本人の特性を踏まえて研究・開発し、現場に還元している。
- ③Somatic Symptoms: Association Among Affective State, Subjective Body Perception, and Spiritual Belief in Japan and Indonesia, Frontiers in Psychology, 2022, 13, 851888.

臨床心理学コース

石川 信一 教授※

- ①臨床児童心理学に関する研究
- ②子どもを対象とする認知行動療法に関する研究、学校で実施するメンタルヘルス予防プログラムに関する研究
- ③共編『臨床児童心理学—実証に基づく子ども支援のあり方—』ミネルヴァ書房, 2015

武藤 崇 教授※

- ①臨床心理学的援助作業における言語行動に対する臨床行動分析学的アプローチ
- ②認知症高齢者を介護する家族の負担感軽減とQOL拡大に対する心理・社会的アプローチ
- ③編者『臨床言語心理学の可能性—公認心理師時代における心理学の基礎を再考する』晃洋書房, 2019

興津 真理子 教授※

- ①心理療法におけるクライアントとその家族へのアプローチに関する研究
- ②家族療法や力動的な心理療法の考え方、家族造形法をはじめとする技法による、家族への介入および家族のことで課題を感じておられる個人への心理療法に関する研究
- ③「家族造形法による空間的距離と質問紙による心理的距離との関連について」『心理臨床科学』2012, 2(1), 49-56.

杉若 弘子 教授※

- ①行動マネジメントに関する臨床心理学的研究、他者との相互作用に注目した適応と健康
- ②セルフ・コントロールによる行動の抑制と促進、利他的行動との関わり、人と環境の相互作用にみる個人差、アサーション
- ③①共著『セルフ・コントロールの心理学—自己制御の基礎と教育・医療・矯正への応用—』北大路書房, 2017 ②『セルフ・コントロールの実験臨床心理学』風間書房, 2003

TOPICS ポートフォリオを活用したキャリア能力の開発—「ALL DOSHISHA教育推進プログラム」採択事業—

「ALL DOSHISHA 教育推進プログラム」とは同志社大学が掲げる「同志社大学ビジョン2025」に基づき、質の高い教育プログラムの提案と費用対効果が期待できる学部・研究科の取り組みに対し、事業経費の一部を大学が負担することで、その事業の推進を支援する制度です。心理学研究科では2019年度からこの制度による支援を受け、ポートフォリオを活用しながら、個々の大学院生のキャリア・ビジョンに応じたきめ細やかな研究・実践指導並びに活動支援を行っています。自己のキャリアを念頭に主体的に学び続けて未来を切り拓く人物を養成することが、この取り組みの目標となっています。



グローバル・スタディーズ研究科

グローバル・スタディーズ専攻



グローバル・スタディーズ研究科とは

今日においては、これまでグローバルに共有されてきた価値や制度が多くの危機に直面しています。また、経済的、社会的格差は、今やいかなる社会でも大きな問題となっています。

このような状況に対処していくためには、単一の学問体系だけではなく、様々なアプローチを総合した新たな視点からの研究が強く求められています。本研究科は、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究という3つのクラスターから構成され、地域研究として世界中の広範なエリアをカバーしています。また、ジェンダー、人種差別、格差、平和的共生、地球環境などのグローバルな研究には、地域横断的、学際的なアプローチで、クラスターの枠を超えて学修する場も提供しています。本研究科は、グローバルな視野と高い問題意識を持ち、論理的かつ問題解決のための実践的能力を身に付けた、高度職業人、教育者、研究者を育成することを目指しています。

3つのクラスターと充実したカリキュラム

必修科目においては、課題発見から研究プロジェクトの組み立て、発表までのプロセスを、徹底的に指導します。選択科目においては、自らの研究テーマに関連した専門知識を深めるとともに、隣接・関連テーマの知識を習得し、広範な視野を養います。開設以来、カリキュラム改革を積み重ね、クラスターの壁をより低くした特色豊かなカリキュラムを運用しています。

アメリカ合衆国の歴史、文化、政治、社会などについて学ぶ一方で、アメリカの日本理解、アジア理解についても学びます。

アメリカ研究
クラスター

現代アジア研究
クラスター

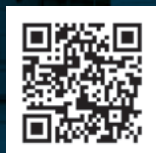
グローバル社会研究
クラスター

中国、朝鮮半島、東南アジア、日本を重点として、アジアの社会、政治、経済、文化などが直面している現代的諸問題について学びます。

その他の地域を中心に、人口移動、国際協力、安全保障、開発政策、ヒューマンセキュリティ、ジェンダーなど、グローバルな諸問題について学びます。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディーズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
(ビジネススクール)

秋林 こずえ 教授

- ①ジェンダーと平和、軍隊と性暴力
- ②国際フェミニスト平和運動、安全保障の脱軍事化・脱植民地化、軍隊の長期駐留と性暴力、紛争と性暴力
- ③① Documenting the History of Sexual Violence by the US Military in Okinawa: Feminist Theorization of "the Island of Military Bases", Okinawa Journal of Island Studies, 2022, 3(2), 149-157. ②共著『沖縄にみる性暴力と軍事主義』御茶の水書房, 2017

Gavin J. CAMPBELL 教授

- ①アメリカ史、アメリカ宗教、トランスナショナルアメリカ研究
- ②日米文化交流史、ファッション研究
- ③ Styling Hirohito: Modernity, Monarchy and 'Western Clothes' in Interwar Japan, Fashion Theory, 2021, 25, 1-27.

Anne GONON 教授

- ①災害後の生活様式の変容
- ②災害の後、普通の生活に戻るといふ復帰は、震災で中断されたイベントの単なる再開ではない。危機の中で何を学んだのか、また忘れ去られるべきなのかを問う。
- ③『生活形式と脆弱性—倫理としてのケア』萌書房, 2021

菅野 優香 教授

- ①フェミニスト映画理論、クィア映画研究、視覚文化
- ②フェミニズムおよびクィア・スタディーズをもとに、映画やアート、パフォーマンスなどにアプローチする。
- ③『クィア・シネマ—世界と時間に別の仕方での存在のために』フィルムアート社, 2023

菊池 恵介 教授

- ①グローバリゼーション論、レイシズム研究、フランス地域研究
- ②新自由主義の歴史的展開と、その帰結(階層格差の拡大とバブル経済、ポピュリズム)の研究
- ③①「新自由主義の覇権の終焉」『世界10月号』2022, 84-97. ②「ユーロ危機の真相」『世界8月号』2020, 242-248.

三牧 聖子 准教授

- ①アメリカ政治外交史・国際関係・平和研究
- ②20世紀アメリカの政治と外交、アメリカと戦争、平和思想と平和運動の発展の歴史、世界秩序におけるアメリカの役割
- ③①分担執筆『バイデンのアメリカ—その世界観と外交』東京大学出版会, 2022 ②共著 American Empire in Global History, Routledge, 2021 ③『戦争違法化運動の時代』名古屋大学出版会, 2014

南川 文里 教授

- ①社会学、アメリカ研究、人種エスニシティ研究、移民研究
- ②アメリカ合衆国における多文化主義の形成と展開、移民・市民権政策の国際比較、在米日系人社会の歴史の変容
- ③①『アメリカ多文化社会論(新版)—「多からなる」の系譜と現在』法律文化社, 2022 ②『未完の多文化主義—アメリカにおける人種、国家、多様性』東京大学出版会, 2021

峯 陽一 教授

- ①開発研究、人間の安全保障、アジア・アフリカ関係
- ②安全概念の哲学的掘り下げ、開発実践における人間の安全保障の応用、世界史のなかのアフリカ・アジア関係の理解
- ③①『開発協力のオーラル・ヒストリー』東京大学出版会, 2023 ②Connecting Africa and Asia, Routledge, 2022

村田 雄二郎 教授

- ①中国近現代史・日中関係史
- ②19世紀から20世紀の中国の政治史・思想史を、日本を含めたグローバルな文脈をふまえて研究している。
- ③①編著『アジア人物志 第8巻 アジアのかたちの完成』集英社, 2022 ②『語言・民族・国家・歴史—村田雄二郎中国研究文集』重慶出版社, 2020

内藤 正典 教授

- ①移民・難民研究、現代イスラーム地域研究
- ②トルコの国際政治と社会変動を周辺地域との関係から考える
- ③①『トルコから世界を見る』筑摩書房, 2022 ②『限界の現代史』集英社, 2018

中西 久枝 教授

- ①中東ユーラシアの紛争防止、国際協力論
- ②中東、中央アジア、コーカサス地域を中東ユーラシアと捉え、紛争や潜在的な紛争をいかに国際社会が防止しうるのかを国際政治学や安全保障学の立場から研究する。
- ③分担執筆『アジアの平和とガバナンス』有信堂, 2022, 第7章、第13章

西川 由紀子 教授

- ①国際関係論、平和研究、東・東南アジアの安全保障
- ②東・東南アジア地域における国際関係を多様な側面から研究(安全保障・人間の安全保障、紛争の平和的解決や紛争後の平和構築における国際社会の関与など)
- ③①International Norms and Local Politics in Myanmar, Routledge, 2022 ②Globalization and Local Conflicts in Africa and Asia, Springer, 2022

岡野 八代 教授

- ①ケアの倫理とフェミニズム思想
- ②近代国家が前提とする「自立した個人」は、人生における依存状態や、依存する者をケアする活動を過小評価してきました。ケアの視点から伝統的な政治の考え方や民主主義を再考しています。
- ③『ケアするのは誰か—新しい民主主義のかたちへ』白澤社, 2020

太田 修 教授

- ①朝鮮近現代史、近現代日朝関係史、近現代朝鮮半島政治・社会・文化
- ②近現代朝鮮半島の政治・社会・文化の変容の過程を、内部の歴史展開、日本との関係、東アジアの冷戦という観点から考えている。
- ③①編者『동아시아 냉전의 문화(東アジア冷戦の文化)』소명출판, 2017 ②『(新装新版)日韓交渉』クレイン, 2015 ③『朝鮮近現代史を歩く』思文閣, 2009

小山田 英治 教授

- ①開発途上国と新興国における開発とガバナンス問題研究
- ②途上国や新興国のガバナンス問題がどのように国家開発や成長を促進し、何が阻む要因となっているか分析する研究
- ③①『東南アジアにおける汚職取締の政治学』晃洋書房, 2022 ②『開発と汚職』明石書店, 2019 ③『開発政治学を学ぶための61冊』明石書店, 2018

銭 鷗 教授

- ①近現代中国・日本・フランスにおける新古典研究の相互作用とその問題点
- ②近代アカデミズムの枠組みを批判的に検討し、現代思想・学術・文化とそれを取り巻く歴史的的政治的文脈を精査する
- ③『1917年内藤湖南の中國訪問與羅振玉』『国際シンポジウム論文集 内藤湖南研究の最前線』関西大学, 2023.

富山 一郎 教授

- ①沖縄近現代史研究、日本研究
- ②領域横断的な視点から研究に取り組んでいます。また研究行為それ自体の知識社会的検討にも取り組んでいます。
- ③『始まりの知—ファノンの臨床』法政大学出版局, 2018

齋 善平 教授

- ①現代中国の社会と経済
- ②改革開放時代の中国における経済発展と社会変動にかかわる諸テーマ(人口移動、教育、経済格差、社会階層)について理論的実証的に研究する。
- ③①『ミクロデータからみる現代中国の社会と経済』勁草書房, 2021 ②『農村から都市へ—1億3000万人の農民大移動』岩波書店, 2009

周 俊 助教

- ①中国政治史、中国共産党史
- ②中国共産党の秘密主義と情報システム、毛沢東研究、史料学研究
- ③①『現代中国における中央指導者の地方視察とその政治的意義(1949-1955)—GISによる可視化の手法を用いて—』『アジア経済』2022, 63(4), 2-32. ②『組織的血脈: 党内交通研究の再検視』『新華文摘』2022, 8期/総740期, 67-69.

TOPICS 活発な議論・交流の場の提供と充実した研究支援

研究科の学生と教員が構成員となるグローバル・スタディーズ学会では、毎年、パネルセッションやポスターセッションを開催しています。学生が研究成果を報告し、活発な議論と交流が行える場を提供しています。また、『同志社グローバル・スタディーズ (Journal of Global Studies)』を発行し、研究論文を出版する機会を設けています。2017年度からは、学問分野や地域を超えて時代の課題を自由に議論しようという趣旨から、2つ目の雑誌『RONDO 論堂』も刊行しています (RONDOとはエスペラント語で「サークル」を意味します)。2022年度からは、発表された論文、学会報告、ポスターの中から優秀なものを表彰する制度 (学会賞) を設けました。学生のフィールドワーク実施にかかる経費支援を行うなど、それぞれの研究を充実した環境で行える体制を構築しています。日本政府が行う国費外国人留学生制度や国際協力機構 (JICA) との連携による留学生を受け入れており、多様な国籍の学生が集う場となっています。



アメリカ研究所と5つの研究センター

同志社大学では、文理融合や領域横断による創造的研究活動を推進し、学術研究の進展及び新しい研究分野の開拓に資することなどを目的として、研究センターを設置しています。以下の研究所、研究センターの運営には、グローバル・スタディーズ研究科の教員が主導的に関わっており、学生も積極的に研究活動に参加しています。

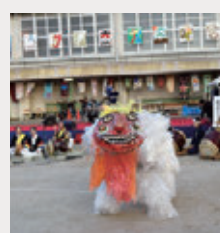
● アメリカ研究所

研究分野を限定せず、アメリカ合衆国と諸外国との関係、諸外国におけるアメリカ研究の実態までを幅広く対象として含み、同志社大学内外の研究者が参加する「部門研究」といわれる共同プロジェクト研究を実施しています。またアメリカ研究に関連する貴重な資料を豊富に取り揃え、公開しています。



● コリア研究センター

朝鮮半島研究に関わる研究会、国際学術会議、若手ワークショップ等の開催、共同研究プロジェクトの実施等を通じて「コリア研究次世代育成京都コンソーシアム」の拠点を形成し、京都における朝鮮半島研究を活性化させるとともに、次世代の朝鮮半島研究者の育成を図っています。



● 〈奄美－沖縄－琉球〉研究センター

奄美諸島を含む琉球諸島に関わる歴史と現代的諸問題について、共同研究を遂行するとともに、奄美、沖縄、琉球に関わる若手研究者の育成並びに若手研究者による継続的な研究ネットワークの構築を目的として活動しています。



● フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター

フェミニズム・ジェンダー・セクシュアリティ研究者が集い、対外的にその研究成果を発信することで、多岐にわたるフェミニズム研究の一拠点となること、そして本学の教育理念である「自由主義」「国際主義」を実践することを目的として活動しています。



● ヒューマン・ディグニティ研究センター

現代世界において、既存の領域主権国家秩序の崩壊が進行したことにより人の国際移動が常態化するなかで、喫緊の課題である多文化共生を「人間の尊厳」の視点から実践的に考究しています。

● 都市共生研究センター (MICCS)

都市共生研究センターは「排除を生まない都市」に向けた理論や実践を分析し、その知見を活かすことを目指します。具体的には (1) 移民やマイノリティを取り巻く状況の研究、(2) 差別・排除を解消するためのプログラムの構想、(3) 社会的認識を高めるための上映会やアートイベントなどの実施を三本柱とします。



【参考ページ】

GS研究科HP内

「研究センターの紹介」

https://global-studies.doshisha.ac.jp/research/research_centers.html ▶



研究開発推進機構HP内

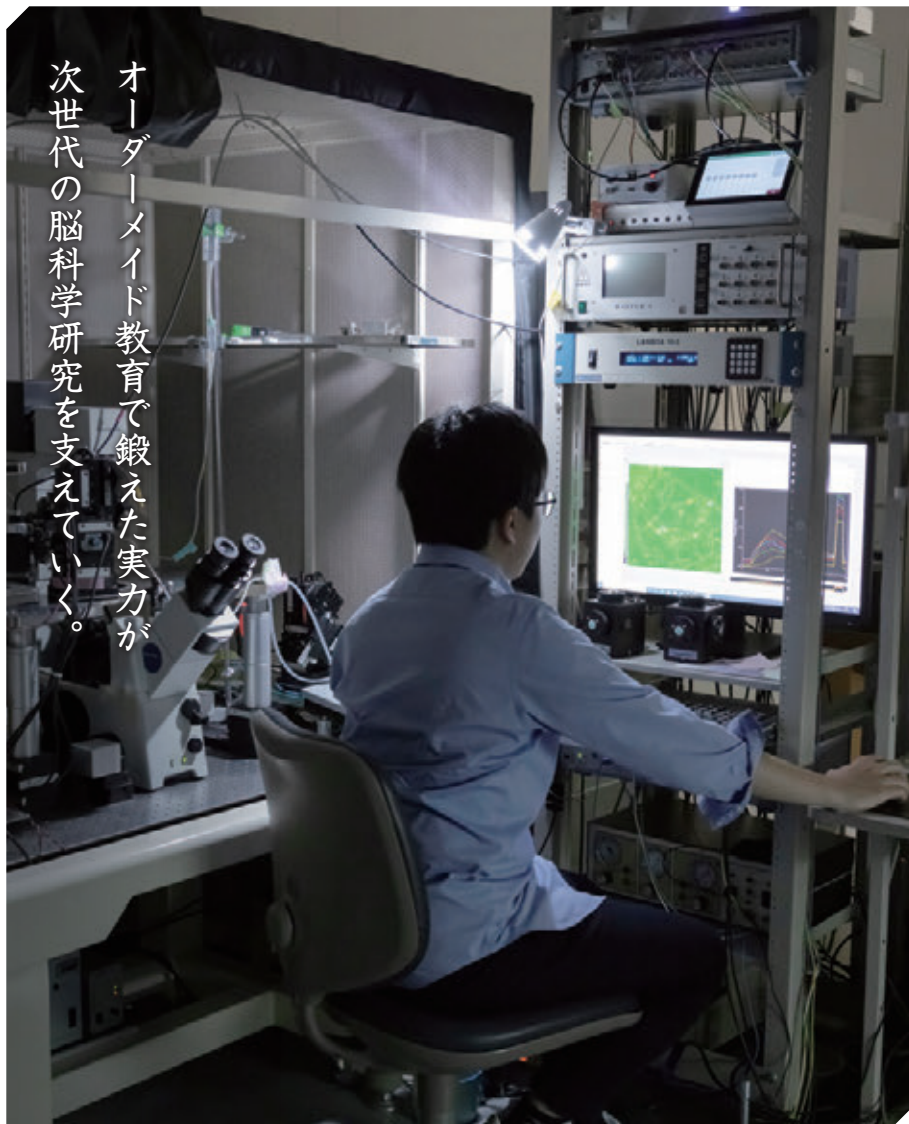
「学際的研究拠点・中核的研究拠点」

<https://kikou.doshisha.ac.jp/overview/center/list.html> ▶



脳科学研究科

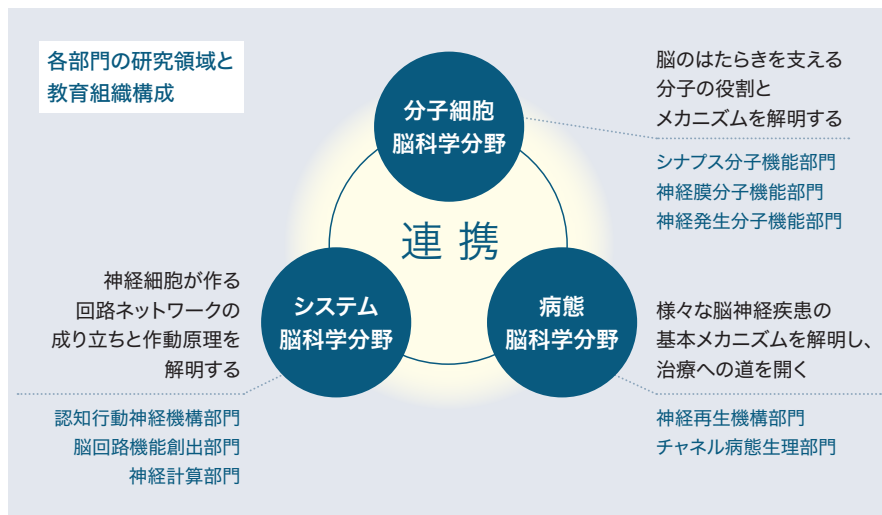
発達加齢脳専攻



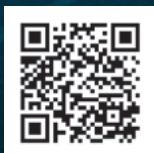
オーダーメイド教育で鍛えた実力が
次世代の脳科学研究を支えていく。

脳科学研究科とは

脳のはたらきを明らかにすることは自然科学と精神科学にとっての最重要課題であり、その研究成果は、神経・精神疾患の予防と治療や教育方法の改善につながる事が期待できます。脳科学研究科では、チュートリアル型授業や実験実習を通じて研究立案能力、思索力、コミュニケーション力などを多面的に鍛え、この分野を牽引する研究者を養成することを目指しています。脳科学研究の第一線で国際的に活躍している8部門の主任教授が指導にあたり、少数精鋭、オーダーメイドの教育を行います。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

他研究科との連携

生命医科学研究科、理工学研究科、心理学研究科、神学研究科とは、それぞれの関連部門と科目提供、共同研究を通じて強い連携を図り、教育・研究を充実させています。

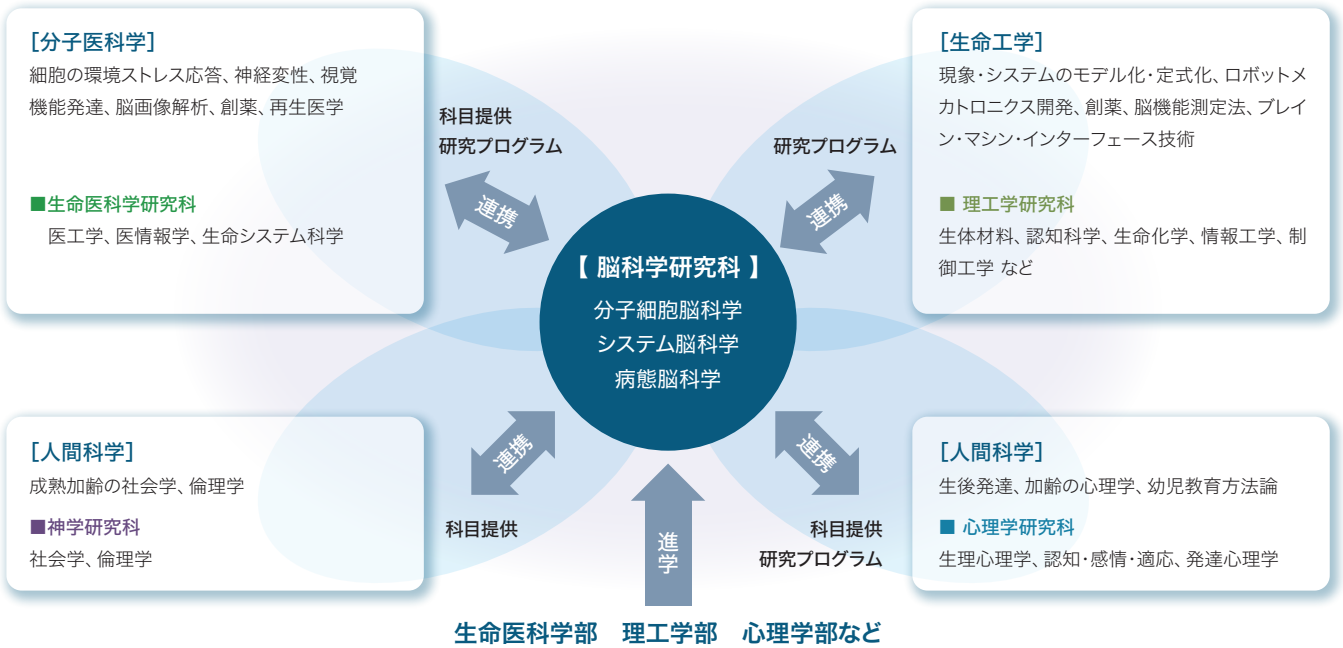
生命医科学部・生命医科学研究科では、細胞の環境ストレス応答、神経変性、視覚機能発達、脳画像解析などの分野で活発な研究が行われており、同研究科の間では、細胞生物学や分子生物学を基にした神経細胞、グリア細胞などの機能解明に向けた共同研究や授業などで協働体制が築かれています。本研究科との共同研究や合同の研究会などを通して、より多面的に脳機能の解明を進めています。

また、理工学部・理工学研究科が研究を進める新しい機能分子の開発、現象やシステムのモデル化・定式化、ロボットに代表されるメカトロニクスの開発研究に、本研究科で得られる脳のメカニズムに関する基礎知見を融合させることで創薬や脳機能測定法、ブレイン・マシン・インターフェース技術の開発などを促進し、より良い社会づくりや経済波及効果が期待できます。

心理学研究科では、乳幼児の発達、摂食行動の制御、脳内報酬系などの研究が行われていますが、このような人間の認知、行動、知識、感情を研究の対象とする心理学との連携は、動物行動実験を基にした認知機能の発達過程解明に向けた研究を推進させると考えられます。

神学研究科とは、授業科目開設などを通じて、脳科学を巡る生命倫理や社会倫理の諸課題を整理、考察しています。

脳科学研究科と他研究科との関係図



2023年度 脳科学研究科 担当教員の研究テーマ

①研究テーマ ②研究概要 ③論文・著書

坂場 武史 教授

- ① 神経シナプス伝達・可塑性のメカニズムの解明とそれらの神経回路における役割に関する研究
- ② 素子レベルの学習記憶を担う神経シナプス伝達・可塑性の分子細胞メカニズムの解明と、可塑性の神経回路、行動(学習・記憶)における役割に関する研究をしています。
- ③ Rapid Ca^{2+} channel accumulation contributes to cAMP-mediated increase in transmission at hippocampal mossy fiber synapses, PNAS, 2021, 118 (9), e2016754118.

高森 茂雄 教授

- ① 神経伝達物質放出の分子メカニズム
- ② 神経シナプス伝達を支えるプレシナプスの分子基盤の解明
- ③ Clathrin-independent endocytic retrieval of SV proteins mediated by the clathrin adaptor AP-2 at mammalian central synapses, eLife, 2022, 11, e71198.

元山 純 教授

- ① 脳発生発達過程の制御機構の解明
- ② 胎児脳発生過程での神経幹細胞発生制御機構、および生後脳発達過程での神経分化制御機構の理解
- ③ $[Ca^{2+}]$ fluctuation mediated by T-type Ca^{2+} channel is required for the differentiation of cortical neural progenitor cells, Developmental Biology, 2022, 489, 84-97.

高橋 晋 教授

- ① ナビゲーションやエピソード記憶を実現する脳神経機構の解明
- ② ナビゲーションしている動物の脳内海馬から神経細胞の活動を計測・操作することで、エピソード記憶を理解する。
- ③ Head direction cells in a migratory bird prefer north, Science Advances, 2022, 8(5), eabl6848.

正水 芳人 教授

- ① 神経回路創出のための基盤技術の開発とその応用
- ② 神経細胞ファイバーを脳に移植する技術の確立、神経回路創出による脳機能の回復と拡張
- ③ Two distinct layer-specific dynamics of cortical ensembles during learning of a motor task, Nature Neuroscience, 2014, 17(7), 987-94.

松井 鉄平 教授

- ① 大脳皮質における情報処理とその発達
- ② 大脳皮質神経回路による視覚情報処理とその発達について光イメージングによる脳活動測定と理論的解析の両面から研究している。
- ③ ① Modular strategy for development of the hierarchical visual network in mice, Nature, 2022, 608, 578-585.
② Cell-Type-Specific Thalamocortical Inputs Constrain Direction Map Formation in Visual Cortex, Cell Reports, 2019, 26(5), 1082-1088.

金子 奈穂子 教授

- ① 脳に内在する神経再生システムの理解と治療的応用
- ② 成体脳内で産生される神経細胞が傷害後の脳内を移動し再生に関与する過程の理解、再生促進法の開発
- ③ New neurons use Slit-Robo signaling to migrate through the glial meshwork and approach a lesion for functional regeneration, Science Advances, 2018, 4(12), eaav0618.

御園生 裕明 教授

- ① 神経細胞におけるタンパク質輸送のメカニズム
- ② 神経細胞が正常に機能するためには、様々なタンパク質を特定の場所に運ぶ必要がある。またこの局在化の破綻が神経変性疾患などに見られる。このメカニズムを解明し、疾患におけるその破綻を理解する。
- ③ Regulatory mechanisms for the axonal localization of tau protein in neurons, Molecular Biology of the Cell, 2019, 30(19).

司法研究科 「法科大学院」

法務専攻



「自治自立」の精神を持った法曹を養成する。
自主的に考え、行動することのできる

司法研究科（法科大学院）とは

司法制度改革の一環として2004年4月、全国一斉に法科大学院が誕生し、同志社大学も新司法試験、司法修習と連携した基幹的な高度専門教育機関として、21世紀のわが国社会において、司法に期待される役割を十全に果たすための人的基盤の一翼を担う人材を養成するため、法科大学院を開設しました。修了生は、弁護士、裁判官、検察官や法律専門職として様々な分野で活躍しています。

本学法科大学院の3つの目的

本研究科は、いかなる権威にも屈することなく、主体的に考え行動することのできる「自治自立」の精神を持った法曹、「良心を手腕に運用する」法曹を養成することを、第1の目的としています。

また、ボーダレス化が進む今日、法曹にも国際舞台で活躍できる能力が強く求められています。こうした国際的感覚の豊かな法曹を養成することが、第2の目的です。

第3の目的は専門性です。企業活動の国際化や複雑化に伴い、企業間の紛争も高度に専門化しています。そのような紛争に対応できるスペシャリストの養成も、重要な課題です。

法学部の法曹コースとの連携を基に、多様な法曹を養成します

法学部3年間、法科大学院2年間の5年一貫型法曹養成を実現するため、2020年、法科大学院と連携した法学部に法曹コースが設けられました。本研究科は、同志社大学法学部の協力を得て、5年一貫型法曹養成にいち早く取り組んできました。同志社大学法学部、西南学院大学法学部と法曹養成連携協定を締結しています。

本研究科は、豊富で多彩なカリキュラムを用意し、多様な社会のニーズに対応します。その科目構成は、司法試験に適切に対応しつつ、将来のキャリア設計に合わせた能力を身に付けられるようになっています。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

浅野 有紀 教授

- ①法哲学、私法の基礎理論、法多元主義
- ②私法や非国家法の理論における法概念、法的性質、事例の研究
- ③①『法多元主義』弘文堂、2018
②Self-regulations and Constitutional Law in Japan as Seen from the Perspective of Legal Pluralism Journal of Japanese Law, Special Issue, 2018, 10, 147-156.

深谷 格 教授

- ①債権法。フランス民法史。
- ②日仏の相続制度の比較研究。フランス民法起草委員ポルトリスの法思想の研究。
- ③①共編著『生と死の民法学』成文堂、2022 ②共編著『大改正時代の民法学』成文堂、2017 ③『相続の構造と機能』成文堂、2013

濱田 毅 教授

- ①刑事訴訟における捜査法、訴因論及び証拠法
- ②捜査差押、取調べ、訴因構成の在り方、実務における違法収集証拠、英米法の知見を生かした伝聞法則
- ③①『「新たな取調べ受忍義務肯定説」について』『同志社法学』2022, 74(1), 25-142. ②『非伝聞の許容性と「衡量基準」』『同志社法学』2021, 73(6), 1149-1245.

林 昭一 教授

- ①民事訴訟における証拠法に関する研究
- ②証拠収集・提出過程における当事者行為の規律
- ③『戦前期ドイツ法における証明妨害論の生成と展開—訴訟法的規制と実体法的規制の交錯という視点から—(一)(二・完)』『民商法雑誌』2002, 126(3), 58-100. (4/5), 216-246.

Colin P.A. JONES 教授

- ①英米法・日本を中心とする比較法、ロボットと法
- ②現在は Identity Law にフォーカスしていますが、日本法全般を外国人向けに解説する方法等に力をいれています。
- ③①共著 The Japanese Legal System in a Nutshell, Foundation Press, 2020 ②Obey, Not Know: Essays in Japanese Law and Society, Kurodahan Press, 2019 ③共著 The Japanese Legal System, West Academic, 2018

笠原 宏 特別客員教授

- ①公正かつ自由な競争の促進を目的とする日EUの独占禁止法・競争法の法制度及び運用実務
- ②競争法が、社会からの要請の何に、どう応えるべきか、そのためのルール、組織等がいかなるものであるべきか、EU競争法の動向も踏まえながら研究する
- ③①『いわゆる新型コロナウイルス感染症に対する競争法反トラスト分野での日欧における対応について』『同志社法学』2021, 73(424-1), 271-301. ②『EU競争法』信山社, 2016

木下 孝治 教授

- ①保険契約法及び保険業に対する監督規制
- ②保険契約の募集行為規制、行為規制のあり方に応じた募集主体規制、保険の販売方針を加味した保険約款条項の解釈のあり方
- ③①『顧客の意向の把握義務』『ジュリスト』2016, 1490, 20-26. ②『国際保険監督規制の現状と課題』『保険学雑誌』2016, 632, 65-79.

松原 久利 教授

- ①企業犯罪と刑事責任
- ②企業犯罪について、新たに立法的解決をしようとする場合に、正面から処罰規定を持たない現行法の下で提起された課題をいかにして克服すべきかという問題を解決し、妥当な立法の選択肢を明らかにする。
- ③『ドイツにおける団体制裁立法の動向—政府草案の実体法規定を中心に—』『高橋則夫先生古稀祝賀論文集(上)』成文堂、2022, 179-205.

松本 哲治 教授

- ①経済的自由権、自己決定権などに関する解釈論
- ②判例法理を批判的に分析するとともに、とくに救済の観点から、憲法訴訟論について研究を進めている。
- ③『不作為の違憲確認—在外日本国民最高裁判所裁判官国民審査権訴訟大法廷判決について』『憲法研究』2022, (11), 215.

御幸 聖樹 教授

- ①憲法
- ②現代の憲法における権力分立論の位置づけ、憲法上の権利の判断枠組みと救済方法
- ③①『憲法訴訟における立法事実論の現状と展望』『論究ジュリスト』2019, (29), 179-186. ②『日米の個別法律の現状と課題』『比較憲法学の現状と展望 初宿正典先生古稀祝賀』2018, 347-371.

村中 孝史 特別客員教授

- ①労働法
- ②解雇、人事異動、労働条件の変更等、労働契約の解釈をめぐる法律問題、労働協約、労働紛争解決制度、労働法政策の分析等
- ③①『働き方改革と労働法の役割』『民商法雑誌』2020, 156(2), 285-317. ②共編著『講座労働法の再生 第1巻 労働法の基礎理論』日本評論社、2017

中西 正 教授

- ①民事手続法、私的整理、事業再生
- ②民事手続法全般を研究していますが、中心は、倒産実体法と、事業再生です。
- ③『ポストコロナの事業再生—地域金融機関の現場から見る論点と課題—』『事業再生と債権管理』2022, (175), 4-28.

大中 有信 教授

- ①契約の効力、日本における法律学の誕生とドイツ法との関係
- ②法律行為の成立と錯誤の影響、契約の効力と原因概念、日本の西洋法学の継受とドイツ法の果たした役割についての歴史的分析
- ③①共著『改正債権法：コメンタール』法律文化社、2020 ②編著『ユーリカ 民法1 民法入門・総則』法律文化社、2019

佐伯 祐二 教授

- ①行政手続法・行政争訟法の研究
- ②アメリカ行政法との比較の見地を踏まえた、行政手続法、行政不服審査法の検討
- ③『政府給付(Government Benefits)と適正手続(一)~(三・完)』『広島法学』1998, 21(4), 165-191. 22(2), 59-78. 1999, 22(3), 23-35.

坂巻 綾望 教授

- ①租税法
- ②租税法(とくに、租税条約の構造と解釈)。
- ③①『テキストブック租税法(第3版)』中央経済社、2022 ②『租税条約における性質決定の抵触—ニュー・アプローチの誕生と展開—』『公法・会計の制度と理論』中央経済社、2022, 153-176. ③『OECDモデル租税条約2017年版』日本租税研究協会、2019

佐久間 毅 教授

- ① 財産法上の諸問題
- ② 代理をはじめとする民法上の財産管理制度に関する諸問題、物権法上の諸問題、信託法上の諸問題
- ③ ①『民法の基礎Ⅱ(物権)第3版』有斐閣, 2023 ②『民法の基礎Ⅰ(総則)第5版』有斐閣, 2020 ③『信託法をひもとく』商事法務, 2019 ④『代理取引の保護法理』有斐閣, 2001

佐々木 典子 教授

- ① 法律行為と処分権との関係
- ② 処分権の権利における位置づけ、及び、法律行為との関係
- ③ 分担執筆「授權概念の有用性についての検討—処分権を中心として」『債権法改正と民法学Ⅰ』商事法務, 2018

洲見 光男 教授

- ① 日米独等の刑事手続の比較研究
- ② 研究対象国の刑事手続を支える基本原理の具体的発現形態と各原理が提起している問題を考察する。
- ③ 「アメリカにおける取調べの規制—自白の証拠能力の制限—」『同志社法学』2018, 69(7), 889-915.

十河 太郎 教授

- ① 共犯論
- ② 複数の人が犯罪に関与した場合における各自の刑事責任
- ③ ①「共謀の射程について」『理論刑法学の探求 3』成文堂, 2010 ②『身分犯の共犯』成文堂, 2009

園田 賢治 教授

- ① 民事訴訟手続における当事者権の保障
- ② 民事訴訟の審理過程における当事者権の保障を目的とする、裁判所の釈明権行使の規律に関する研究
- ③ ①「行き過ぎた釈明権行使に対する救済方法について」『同志社法学』2022, 73(8), 43-65. ②「当事者権の保障と釈明権」『民事訴訟雑誌』2015, 61, 157-167.

洲崎 博史 教授

- ① 保険法
- ② 保険契約の不正利用を防止するためにいかなる規律が適切か、また、それは保険契約の類型に応じたどのように異なりうるか。
- ③ 共著『保険法(第4版)』有斐閣, 2019

高橋 宏司 教授

- ① 国際私法、国際民事訴訟法、国際取引法、ブロックチェーン・暗号資産法
- ② 私法問題の国際的局面から生ずる諸問題のほか、ブロックチェーン(分散台帳)や暗号資産が引き起こしている最先端の法律問題の検討
- ③ Law Applicable to Proprietary Issues of Crypto-Assets, Journal of Private International Law, 2022, 18(3), 339-362.

横田 光平 教授

- ① 子どもに関する法の総合的理解
- ② 子どもに関する法の総合的理解に向けた憲法、民事法(家族法)、行政法(学校法、児童福祉法)、刑事法(少年法)の分野横断的研究
- ③ 『子ども法の基本構造』信山社, 2010

TOPICS ミシガン州立大学ロースクールとのダブルJ. D. プログラムとサマープログラム

ダブルJ.D.プログラムでは、ミシガン州立大学ロースクール(MSU)の入学基準(語学力など)を満たす同志社大学法科大学院生及び修了生は、本学で取得した単位の一部がMSUにおいても認定されます。特に、MSUが外国留学生のために導入授業として実施しているBridge Programの一部科目が同志社で受講できます。それにより、本来の3年から2年へと短縮された在学期間でMSUのJ.D.(法務博士)の学位を取得でき、米国全州の司法試験受験資格を得られます。また、MSUの授業料も25%の割引が受けられます。滞在期間の短縮と学費の割引により、J.D.の学位を通常の半分の費用で取得することが可能です。

同志社大学法科大学院は、MSUの学生対象の海外展開授業を受け入れ、学生間の交流にも努めています。

※MSUへの入学には、同志社大学への入学手続き以外に別途手続きが必要です。

模擬裁判

法科大学院では、法律論を学ぶだけでなく、裁判実務に必要な技能を修得するための授業も開講されています。「刑事模擬裁判」「民事模擬裁判」では、検察官・裁判官の経験が豊富な教員の指導の下で、学生が原告・被告代理人、検察官・弁護士、裁判官などに役割分担して、仮想事例を基に、本番さながらに手続きを積みあげていきます。関係書類の起案、当事者や証人の尋問など、訴訟法で学んだ知識を活かして裁判手続きを進行しながら、実務上のスキルを身に付けていきます。



ビジネス研究科

ビジネス専攻
グローバル経営研究専攻



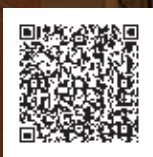
次代を担う
優れたビジネスリーダーの
育成を目指す。

ビジネス研究科（同志社ビジネススクール DBS）とは

同志社ビジネススクール(DBS)では、ビジネススクールとしての基本は踏まえつつも、サステナビリティ時代の要請に応える、世界的にもユニークなMBAプログラムを、歴史ある京都の地から、日本語・英語で展開しています。

同志社ビジネススクールには、主にわが国の社会人向けに日本語での授業を行う「ビジネス専攻」と英語での講義により主に世界各国からの外国人学生を受け入れる「グローバル経営研究専攻」の2つが設置されています。教育の特色は、同志社大学の建学の精神である「良心教育」に立脚し、また「京都」を意識したビジネス教育であることです。「京都」は、長寿企業、サステナブル企業の集積地として、世界的に突出した、きわめてユニークな文化を持つ都市です。そして「良心」や「京都」は、現在グローバル社会の希求するサステナビリティや人間の尊厳を重視する経営につながります。

同志社ビジネススクールでは、ただ単に優れたビジネススキルの取得だけではなく、より良い社会を作る「責任」感を持ち、「イノベーション」を起こす、優れた「リーダーシップ」をラーニング・ゴールとして掲げて教育を行っています。上に述べた同志社ビジネススクールの特色は、カリキュラムにも反映され、特にビジネス専攻では、「中小企業経営」と「イノベーション」を、グローバル経営研究専攻では、「サステナビリティ」、「文化と創造性」、「アジアのビジネス」を特徴とする科目群が、その他の様々な先進的な科目とともに用意されています。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

神学研究科

文学研究科

社会学研究科

法学研究科

経済学研究科

商学研究科

総合政策科学
研究科

文化情報学
研究科

理工学研究科

生命医科学
研究科

スポーツ健康
科学研究科

心理学研究科

グローバル・
スタディズ研究科

脳科学研究科

司法研究科
(法科大学院)

ビジネス研究科
ビジネススクール

ビジネス専攻

有井 健 教授

- ①自然保護、環境保全
- ②自然環境保全地域に関する研究、里地里山の保全と利活用に関する研究
- ③共著 State of Coral Reefs Management Case Study of Okinawa Island, Japan, Journal of International Business Research, 2012, 11(3), 25-35.

Philippe BYOSIERE 教授

- ① Innovative Leadership, Knowledge in Organizations, Stress in Organizations

崔 裕真 教授

- ①イノベーション、経営戦略
- ②京都の企業、伝統産業のイノベーションと国際経営戦略の研究
- ③①共著 Dr Kazuo Inamori's Management Praxis and Philosophy, Palgrave Macmillan, 2022 ②共著「明治のアントレプレナー 臥雲辰致の再発見」『臥雲辰致・日本独創のガラ紡』シンプリブックス, 2017 ③共著「中小企業に問われるアントレプレナーシップ」『中小企業のための技術経営MOT入門』同友館, 2015

藤原 浩一 教授

- ①企業価値の戦略的マネジメントをデータサイエンス、金融工学の観点から研究

井上 福子 教授

- ①人的資源管理、リーダーシップ、組織変革
- ②価値を生む人的資源管理の在り方、組織のデザイン、人々のキャリア形成、リーダーシップの在り方について、幅広く研究している。
- ③「組織変革への言語論的アプローチとしてのセンスギビング」『日本情報経営学会誌』2014, 35(1), 96-106.

加登 豊 教授

- ①管理会計、コストマネジメント、管理システム
- ②管理システム管理会計のレゾンデートル(存在理由): 明確な定義や対象とする領域を特定することなく、研究は拡散的に行われており、何をもち「管理会計」とするかについての研究者間、加えて、経営実践者間での同意が得られていない。このような現状からの脱却を目指すために必要な考察を行っている。
- ③「再び「管理会計のレゾンデートル」について」『管理会計学』2022, 30(2), 3-20.

河南 順一 教授

- ①マーケティング・コミュニケーション
- ②ディストラクション時代でのマーケティング・コミュニケーションの変革
- ③「Think Disruption アップルで学んだ「破壊的イノベーション」の再現性」KADOKAWA, 2020

児玉 俊洋 教授

- ①中小企業と産業集積に注目したイノベーション創出の仕組み
- ②自社製品の売上げがある中小企業として定義した「製品開発型中小企業」にイノベーションの担い手として注目している。産業クラスター推進機関であるTAMA産業活性化協会の協力を得て製品開発型中小企業と産業集積によるイノベーション創出機能について研究している。
- ③①「大学発ベンチャー事業化のための資源配分行動—大学連携型インキュベーション施設入居企業から得られた定量的データ—」『日本ベンチャー学会誌 Venture Review』2022, 39, 95-99. ②「オープンイノベーションにおけるニーズ情報開示問題—TAMA協会の実績に見る解決策の可能性—」『日本ベンチャー学会誌 Venture Review』2017, 30, 35-49.

森 良弘 教授

- ①イノベーションマネジメント全般、特に技術者の心理特性
- ②心理学的な要因が技術者の判断に及ぼす影響とその制御方法に関する研究
- ③共著「新技術に対する技術者の認知バイアスに関する研究」『BMAジャーナル』2021, 21(1), 15-29.

文 世一 教授

- ①公共交通の設計と都市の空間構造
- ②バスや鉄道のような公共交通の整備が自動車依存を減らし、都市のコンパクト化に貢献するか否かを理論的に分析する。また交通システムの最適設計の条件を明らかにする。
- ③共著『都市経済学の基礎』有斐閣, 2000

野瀬 義明 教授

- ①コーポレートファイナンスに関する実証研究
- ②企業を取り巻く資金が効率よく行き届き、活用される方法について、理論家が提案するモデルへ実際のデータを当てはめることで分析・検証している。
- ③『日本のパイアウト・ファンド』中央経済社, 2022

山下 貴子 教授

- ①企業のマーケティング戦略と消費者行動
- ②次世代金融マーケティング戦略と消費者の金融リテラシーの階層別対応との関係に関する研究
- ③共著「交互作用効果を考慮したコウホート分析法による米国家計金融資産選択行動」『ファイナンシャル・プランニング研究』2017, 17, 72-85.

グローバル経営研究専攻

Robert W. ASPINALL 教授

- ①日本と英国における政治と教育
- ②社会階級とジェンダーの役割の再生産に焦点を当てて、イギリスと日本の男子中等学校を比較します。
- ③① International Education Policy in Japan in an Age of Globalisation and Risk, Brill, 2013 ② Teachers Unions and the Politics of Education in Japan, SUNY, 2001

Isabell HANDLER 准教授

- ① Sustainable Tourism, Travel Behavior, Tourism Policy Management, Cultural Tourism

飯塚 まり 教授

- ①経営戦略と組織、ビジネス倫理
- ②日本文化の中のウェルビーイング、ウェルビーイング経営、サステナビリティ経営
- ③共著『進化するマインドフルネス: ウェルビーイングへと続く道』創元社, 2018

和泉 真澄 教授

- ①国際人口移動、北米史、法と市民的自由
- ②アメリカ・カナダの日系人強制収容、北米社会の人種関係、戦争と法と自由の関係など
- ③①共著『私たちが声を上げるとき—アメリカを変えた10の問い』集英社新書, 2022 ②『日系カナダ人の移動と運動』小鳥遊書房, 2020 ③『日系アメリカ人強制収容と緊急拘禁法』明石書店, 2009

奥平 寛子 准教授

- ①労働市場に関するデータ分析
- ②政府のミクロ統計・経済実験・企業人事データを使って、労働市場政策に関するデータ分析をしている。扱うテーマは、新卒採用・最低賃金・ジェンダーなど。
- ③①共著 Working from home and productivity under the COVID-19 pandemic: Using survey data of four manufacturing firms, PLOS ONE, 2021, 16(12), e0261761-e0261761 ②共著 Oxytocin-Trust Link in Oxytocin-Sensitive Participants and Those Without Autistic Traits, Front Neurosci, 2021, 15, 659737. ③ Regulating the timing of job search: evidence from the labor market for new college graduates, Labour Economics, 2020, 67, 101941-101941.

須貝 フィリップ 教授

- ① Sustainable Marketing, Value Co-Creation

殷 勇 教授

- ①持続可能生産システム、ものづくり経営学、経営定量分析
- ②最先端のAI技術や定量ツールを活用した研究を行っています。これらを経営学やIndustry 4.0に応用することで、より高度な知識と洞察力を得ることができます。私たちは、これらのツールを活用して、経営において最適な戦略を提案することができます。
- ③① The evolution of production systems from Industry 2.0 through Industry 4.0, International Journal of Production Research, 2018, 56(1-2), 848-861. ② Lessons from seru production on manufacturing competitively in a high cost environment, Journal of Operations Management, 2017, 49, 67-76.

吉田 悦章 教授

- ①国際金融論、フィンテック、イスラーム金融/ビジネスとSDGs経営、新興国事業戦略
- ②金融・経済・経営の新興分野に関するオーソドクシーからの研究
- ③ FinTech-Enabled Cash Waqf: Effective Intermediary of Social Finance, Springer, 2019, (I), 43-58.

寄付教育研究プロジェクト

沖 勝登志 教授(チェア・プロフェッサー)

- ①先端技術産業におけるイノベーション戦略
- ②過去50年以上、半導体の微細化が進展・継続する中で、IoT、人工知能分析の商業化、自動運転に向けた技術進化等による新しいビジネスの創造をイノベーション戦略の観点から研究、考察。

ミッション

同志社大学建学の精神である良心教育と京都に生まれた伝統と革新の知恵に基づき、人間の尊厳を尊重し、企業や組織の成長を担えるリーダーシップを備えた人物を養成する

ラーニング・ゴール(Learning Goals)

- ・ 責任ある経営 (Responsible)
- ・ 革新 (Innovative)
- ・ リーダーシップ (Leadership)

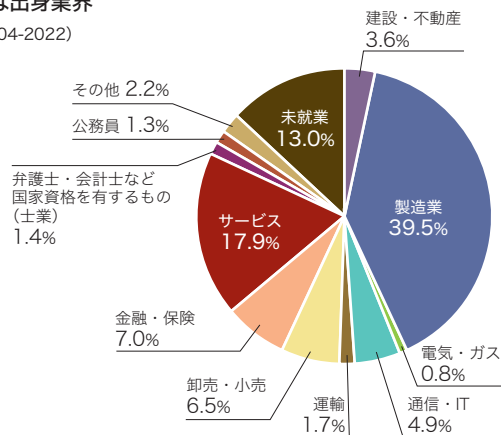
ビジネス専攻

ビジネス専攻には様々な業界出身の社会人学生が集う



主な出身業界

(2004-2022)



グローバル経営研究専攻

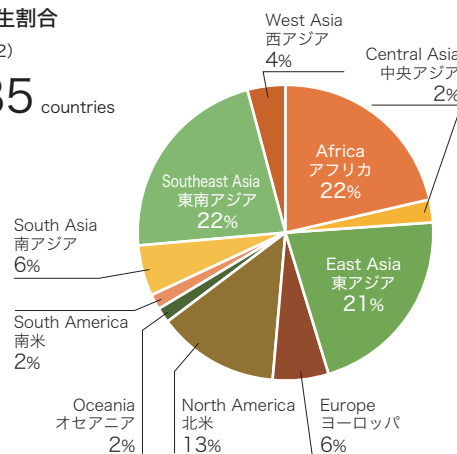
グローバル経営研究専攻には全世界出身の国際学生が集う



地域別学生割合

(2009-2022)

出身国 **85** countries



TOPICS 多様性が花咲く処

地球と地域が出会う場所。それが同志社ビジネススクール(DBS)です。地域に根差した創造性あふれる人々が、グローバルな舞台の上で活躍するためのシナリオを描く。DBSはそのような知的活動のための作業現場です。

独自の地域性を持つ人々が、地球の津々浦々からDBSに集まっています。日本のあちこちから、そして、世界のあちこちから。

多様性と包摂性が出会う場所。これもまたDBSです。グローバル大企業の幹部候補生、中小企業の経営者、伝統産業の存続と新生を担うクリエイターやベンチャー・ビジネスの起業家たち。背景も体験も全く異なる人々が、様々な発想や行動原理を持ち寄り、分かり合う。この絶妙なプロセスが、DBSの日常です。多様性と包摂性が出会う時こそ、人間の視野がもっとも大局的で解放的になります。歴史の地、京都において、DBSは、常にこのような空間であることを目指しています。

外国協定大学派遣留学生制度

「外国協定大学派遣留学生制度」とは、本学が学生交換協定を締結している外国の大学へ、本学に在学しながら留学できる制度です。留学先大学の授業料は、原則として協定により免除されます(寮費・食費・渡航費などは自己負担)。また、協定内容などによっては奨学金が支給される大学もあります。

現在、派遣留学先は世界37カ国(地域)176大学にのぼります(2023年3月31日現在)。

■ 大学院生を受け入れている主な協定校

スミス大学 (アメリカ)

アメリカの名門女子大学群 Seven Sisters のうちの1校で、派遣留学生制度を通じて学際研究 Diploma のプログラムに参加することができます。また、週10時間を超えない範囲で日本語プログラムの活動支援に参加することを条件に、AKP 理事会並びにスミス大学から奨学金(寮費・食費の免除)も付与されます。



スミス大学

KCJS 加盟校 (アメリカ)

日本語や日本文化の研究に熱心な13校の大学が参加するコンソーシアムで、加盟校はいずれもアメリカの名門校です。これらの加盟校のうち、毎年数校が、本学の大学院生を受け入れます。



KCJS 加盟校

スタンフォード大学 (アメリカ)

Visiting Student Researcher の身分で留学し、スタンフォード大学所属の教員の下で研究を行います。派遣留学生にも個人用のスペースが提供されるなど、充実した環境の下で研究を進めることができます。

■ 派遣留学先

アイルランド

- ダブリン・シティ大学
人文社会科学部

アゼルバイジャン

- ハザール大学

アメリカ

- ウィットマン大学
- ウィリアムズ大学
- ウェズリアン大学
- オーバリン大学
- カールトン大学
- コネチカット大学
- コルビー大学
- スミス大学
- バックネル大学
- ベイツ大学
- ボモナ大学
- マウントホリヨーク大学
[以上 AKP 加盟校]

- イェール大学
- エモリー大学
- コーネル大学
- コロンビア大学
- シカゴ大学
- スタンフォード大学
- パージニア大学
- ハーバード大学
- ブラウン大学
- プリンストン大学
- ペンシルベニア大学
- ポスト大学
- ワシントン大学 セントリス
[以上 KCJS 加盟校]

- アーカンソー工科大学
- ウェスタン・ミシガン大学
- エンブリードル航空大学
- カラマズ大学
- カリフォルニア大学
- コロラド大学ボルダー校
- サルベ・レジーナ大学
- サンディエゴ州立大学

- ジョージ・メイソン大学
- セント・メアリーズ大学
- デンバー大学
- ニューオーリンズ大学
- ネブラスカ大学カーニー校
- ノースカロライナ大学
シャーロット校
- ハワイ大学ヒロ校
- ハワイ大学マノア校
- ポートランド州立大学
- マレー州立大学
- ミズーリ大学
- ミリケン大学
- モンタナ大学
- ユタ大学
- リンフィールド大学
- ロチェスター工科大学

アルゼンチン

- トルキュアト・ティ・テラ大学

イギリス

- ウォリック大学
- エディンバラ大学
- ケンブリッジ大学
セントキャサリンズ コレッジ
- シェフィールド大学
- マンチェスター大学
- リーズ大学
- ロンドン大学(SOAS)

イスラエル

- ヘブライ大学

イタリア

- ヴェネツィア大学
- トリノ大学
- ボローニャ大学
- ミラノ大学
- ローマ大学

インドネシア

- ガジャマダ大学

オーストラリア

- ウーロンゴン大学
- サンシャイン・コースト大学
- シドニー大学
- チャールズ・ターウィン大学
- ティーキン大学
- ニューイングランド大学
- ニュー・サウス・ウェールズ大学
- マドック大学
- マッコリー大学
- メルボルン大学

オランダ

- ハーグ応用科学大学
- ライデン大学

カナダ

- ピクトリア大学
- ビショップス大学
- プリティッシュ・コロンビア大学
- モントリオール大学 文理学部
- レイクヘッド大学
- ロイヤル・ローズ大学

韓国

- ソウル大学
- ソウル市立大学
- ソウル女子大学
- 延世大学
- 韓国外国語大学
- 高麗大学
- 仁川大学
- 全南大学
- 梨花女子大学
- 嶺南大学

スイス

- チューリヒ大学
- ルツェルン大学

スウェーデン

- ヨーテボリ大学
経済商法学部

スペイン

- サラマンカ大学
- サン・アントニオ・ムルシア・カトリック大学
- バルセロナ自治大学
- ポンベウファブラ大学

タイ

- タマサート大学
- チュラロンコン大学
- バヤップ大学

台湾

- 国立政治大学
- 国立台湾師範大学
- 国立台湾大学
- 靜宜大学
- 淡江大学
- 中国文化大学
- 東吳大学
- 輔仁大学

チェコ

- カレル大学
- 西ボヘミア大学
- マサリク大学

中国

- 吉林大学
- 四川大学
- 暨南大学
- 重慶郵電大学
- 西安交通大学
- 清華大学
- 西北大学
- 浙江農林大学
- 中国人民大学
- 天津外国語大学
- 東北師範大学
- 武漢大学
- 復旦大学
- 北京師範大学
- 北京大学歴史学部

香港教育大学

- 香港城市大学
- 香港中文大学
- 嶺南大学

チリ

- チリ・カトリック大学

デンマーク

- オーフス大学

ドイツ

- テュービンゲン大学
- デュッセルドルフ大学
- フランクフルト大学
- マインツ大学
- ミュンヘン大学 文化学部

トルコ

- サバンチ大学
- 中東工科大学

ニュージーランド

- ウェリントン・ビクトリア大学

ノルウェー

- オスロ大学
- ヘルゲン大学

ハンガリー

- エトヴェシュ・ローランド大学
- ペーチ大学

フィリピン

- アテネオ・デ・マニラ大学
- テラサル大学
- フィリピン大学 デリマン校

フィンランド

- イースタン・フィンランド大学
- タンペレ大学
- ヘルシンキ大学

フランス

- エクス・マルセイユ大学
- エクセリア・グループ
- サンジェルマン・アン・レー 政治学院
- ストラスブール大学
- ソルボンヌ大学
- バリ政治学院
- バリ大学 - ナンテール
- リヨン政治学院
- レンヌ政治学院
- 国立東洋言語文化大学

ベトナム

- ハノイ工科大学

ベルギー

- トマセオ応用科学大学
- ブリュッセル自由大学

ポーランド

- ヤギェウォ大学
- ワルシャワ大学

マレーシア

- マラヤ大学
- マレーシア科学大学
- マレーシア国際イスラーム大学

メキシコ

- ラス・アメリカス大学

リトアニア

- ヴィータウタス・マグナス大学

ルーマニア

- ブカレスト大学

ロシア

- サントペテルブルク経済大学

アーモスト大学への派遣留学生制度

アーモスト大学への派遣留学生制度は、「新島スカラー」(同志社の創立者・新島襄を記念してアーモスト大学が1954年に設立)、「同志社新島スカラー」(寄付金の一部を利用して同志社が1984年に設立)の2種類があり、隔年で実施されますので、事実上毎年1名をアーモスト大学に派遣するもので、アーモスト大学の3年生に正規学生として編入する制度です。応募資格は同志社大学または同志社女子大学の3年次または4年次在学学生、同大学院博士課程(前期課程)在学学生、修士課程在学学生、専門職学位課程在学学生です。留学期間は2年間となっており、アーモスト大学の学位(BA)が取得できます。その間の授業料及び寮費・食費・学生活動費相当額の奨学金が支給されます。



ダブル・ディグリープログラム

法学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科では、協定大学にそれぞれ一定期間在学し、履修単位の相互認定を含め、定められた課程を修了することによって、双方の大学で学位を取得できます。双方の大学の協力により、別途個人留学する場合と比較して、時間・費用・修得単位数など多くの面において優遇されたプログラム構成となっています。(2023年3月31日現在)

協定大学

法学研究科

- チューリヒ大学
- タマサート大学
- 中国人民大学
- 東呉大学
- リーズ大学
- 中国政法大学

理工学研究科・生命医科学研究科

- ミラノ工科大学
- 西安交通大学*
- モンス大学
- エコール・セントラル国立理工科学院連合(リール校、リヨン校、マルセイユ校、ナント校、パリ校)
- マドリッド工科大学
- リール国立化学高等専門学校
- パリ市立工業物理化学高等専門学校
- ウィーン工科大学
- 国立高等鉱業学校アルピ・カルモー校*
- 西安電子科技大学*

※ 理工学研究科のみ



本学内に拠点を設けている外国の教育・研究機関

同志社大学は、教育理念の1つである「国際主義」に基づき、古くから外国の教育・研究機関と交流を行ってきました。それらの教育・研究機関の中には、学生の交換や研究者の交流のみにとどまらず、日本における拠点を同志社大学内に設置している場合があります。2023年3月31日現在、本学内に日本における拠点を設けている外国の教育・研究機関は下記のとおりです。

これらのセンターはそれぞれの機関の日本における拠点として留学プログラムを運営する他、本学との共同シンポジウムの開催などを通じて積極的な交流を行っています。またAKP同志社留学生センター、スタンフォード日本センター、チュービンゲン大学同志社日本研究センター、京都アメリカ大学コンソーシアム(KCJS)は、それぞれの機関の留学生向けに開講される科目の聴講を一部、本学学生にも許可しています。本学学生はそれらの科目を、同志社大学の学部の全学共通教養教育科目である「AKP科目」「スタンフォード大学科目」「チュービンゲン大学科目」「KCJS科目」として履修することになり、科目履修においても本学学生と各センター留学生の活発な交流が行われています。

AKP同志社留学生センター

Associated Kyoto Program(AKP)は、アメリカを代表する13の名門リベラルアーツ・カレッジが日本語や日本文化などの日本学教育を目的とし、本学に設置した機関です。1972年に開設されたAKPの歴史は古く、現在まで約1,700名の留学生が同志社大学を拠点として日本文化を体験し、日本に関する見識を深めてアメリカにおける日本理解に大きな貢献を果たしています。また、AKP理事会や加盟校からの奨学金を受けて、本学からもAKP加盟校へ学生を派遣しています。



AKPアメリカ本部が設置されているPomona大学のキャンパス

スタンフォード日本センター スタンフォード大学京都プログラム

アメリカの名門大学、スタンフォード大学が本学のキャンパス内に開設したプログラムです。同プログラムでは、日米間の相互理解をより一層促し、緊密な関係を続けていくために、今後日本と関わりを持つ上で必要となる知識・資質を身に付けたアメリカの若い世代の育成を目的としています。開催時期は、春と秋の2学期です。

また本学からは、派遣留学生制度により大学院生をスタンフォードへ送り出しています。



チュービンゲン大学 同志社日本研究センター

ドイツのチュービンゲン大学が1993年本学に設置したセンター(TCJS)で、同大学の研究の日本拠点になっています。約25名の留学生を1年間受け入れ、日本語と日本文化を学ぶための講義が行われています。同大学には本学のEUキャンパスも設置しており、学生交換協定や教員交換協定の締結により、本学からも留学生を派遣したり、定期的に合同ワークショップやシンポジウムを開催するなど、研究者の交流も活発に行われています。



京都アメリカ大学コンソーシアム

「京都アメリカ大学コンソーシアム」Kyoto Consortium for Japanese Studies(KCJS)は、1989年に京都市内に設立された海外留学生プログラムです。このプログラムは日本語や日本文化の研究が盛んなアイビーリーグ校を含むアメリカの13大学から成りたっており、京都の歴史的・文化的な資産を活かして、高度な教育環境を提供し、日本研究を志す米国の大学生と、知的で文化的な交流を広く進めています。



図書館では、皆さんの教育や研究に関わる学術情報収集へのニーズに対し、様々なサービスを提供しています。

Webで提供する図書館サービス

① DOORS: 学術情報検索システム

<https://doors.doshisha.ac.jp/> 

DOORSでは、今出川・京田辺両キャンパスの図書館だけでなく学部・研究科・研究所なども含めて本学で所蔵する全ての図書や雑誌、電子資料を検索することができます。また、同志社女子大学をはじめとした他大学所蔵資料などの検索も可能です。

DOORSは資料の所在や利用状況を調べるだけでなく、貸出中の資料の予約や他大学・他機関への複写依頼、文献管理ツールとの連携、資料の購入依頼など、多種多様な図書館サービスをWeb上で実現する窓口の役割も果たしています。

② 学術リポジトリ

<https://doshisha.repo.nii.ac.jp/> 

本学発行紀要・研究報告書・学位論文などを検索・閲覧することができます。

③ デジタルコレクション

<https://dgcl.doshisha.ac.jp/digital/collections/> 

本学が所蔵する貴重資料の高精細な画像を閲覧することができるデジタルアーカイブです。

④ DOGS Plus: 統合検索システム

<https://doshisha.summon.serialssolutions.com/> 

1つのサーチボックスにキーワードを入力するだけで、学内で利用できる複数のデータベース・電子ジャーナル・電子書籍や本学所蔵の図書・雑誌、視聴覚資料などを一度で検索することができます。また、世界中にある学術情報から学内で利用できる資料以外も検索することができます。

⑤ データベース検索ポータル

<https://library.doshisha.ac.jp/database/index.html> 

基本的なものから高度かつ専門的なものまで、100種類以上のデータベース、数万タイトルに及ぶ電子ジャーナル・電子書籍を提供しています。これらの電子資料は、学内はもちろん、学外からもVPN接続により利用することができます。

(※一部、VPN接続では利用できないものもあります。)

⑥ 電子書籍試し読み

https://library.doshisha.ac.jp/database/database_list/ebook_trial.html 

Maruzen eBook Library、KinoDen、ProQuest Ebook Centralに収録されている電子書籍の閲覧や購入リクエストができるサービスです。

レファレンスサービス

特定のテーマに関する資料収集方法のアドバイスや、国内外他機関への文献複写・図書借用依頼の申し込み受付など、各種利用相談に応じています。

本学で所蔵していない資料の利用

本学で所蔵していない資料であっても、他大学・他機関の閲覧利用や文献複写・図書借用サービスを利用することで、入手できる資料の幅が広がります。また、同志社女子大学や協定を結んでいる関西大学、関西学院大学、立命館大学では図書館での閲覧及び貸出、早稲田大学では閲覧サービスを受けることができます。

(※一部、事前申し込みが必要な資料もあります。)



ICT Information and Communication Technology

大学院での研究活動にICTの活用は欠かすことができません。

本学では、皆さんの多様な要望に応え、安心して利用できるよう、最新のICT設備を整備し、提供しています。

研究活動を支援する充実した情報教育環境

インターネットへは、学術情報ネットワークであるSINET6に80Gbpsで接続しています。また、学内全域で約800台の無線LANアクセスポイントを設置する等、広帯域かつ利便性の高いネットワーク環境を整備しています。VPN接続で学内ネットワークに接続し、学外からでも学内限定のサービスを利用することができます。国際無線LANローミング基盤「eduroam」に加盟しており、学会・留学などで国内外の大学・研究機関を訪問する際にも、本学のユーザIDを利用した無線LAN接続が可能であり、どこからでも研究活動を行うことができます。

日本マイクロソフト社との教育機関向け総合契約(EES)を締結しており、正規学生であれば、在籍期間中はOffice製品を無償で個人所有のパソコンにインストールし、利用することができます。両校地には各種画像編集・動画編集・スタジオ収録などができる環境を整備しており、研究成果を発表する際、視覚的に訴求力の高いマルチメディアコンテンツを作成することが可能です。



研究開発推進機構

同志社大学の特色を活かした研究を推進し、総合的な研究活動支援を通して教育レベルを向上

同志社大学では、先端的・学際的研究拠点を形成し、総合的に研究活動を支援するため、研究開発推進機構を設置しています。
研究開発推進機構は、

- ① 持続的な連携・共同研究に取り組む研究拠点形成を推進する「学際的研究拠点」
- ② 連携事業拠点として研究活動の多様性を担う研究拠点形成を推進する「中核的研究拠点」
- ③ 世界水準の教育研究拠点を形成し、特色ある先端研究を推進する「先端的教育研究拠点」
- ④ 研究成果の社会実装や事業化を推進し、人類共通の課題解決への提案や貢献を目的とする「教育研究プラットフォーム」
- ⑤ 寄付を受けて多様な教育研究活動を推進する「寄付教育研究プロジェクト」
- ⑥ 本学の研究力の強化を目的とする「研究推進部」
- ⑦ 社会との連携の窓口、並びに研究成果を社会に還元する「リエゾンオフィス・知的財産センター」

などの組織や先端的な研究共同利用施設・設備で構成され、研究成果の教育への還元や社会への貢献に取り組んでいます。

研究開発推進機構の全体像



※2023年4月1日現在

研究センターの概要

同志社大学では、文理融合や領域横断による創造的研究活動を推進し、学術研究の進展及び新しい研究分野の開拓に資することなどを目的として、研究センターを設置しています。各研究センターは、機能別に「学際的研究拠点」「中核的研究拠点」のいずれかの拠点として活動し、研究活動の戦略的活性化をさらに推進しています。また、本学の多くの専任教員が研究員として加わるだけでなく、外部資金の積極的な導入を図り、特定任用研究員、特別研究員などを迎え、より高度な研究拠点の構築を目指しています。

① 学際的研究拠点

国内外の研究機関や企業・自治体などとの持続的な連携活動や共同研究に取り組む研究拠点の形成を目指す研究センターで構成されます。

ライフリスク研究センター／技術・企業・国際競争力研究センター／高等教育・学生研究センター／先端複合材料研究センター／〈奄美・沖縄・琉球〉研究センター／超音波医学研究センター／高機能微粒子研究センター／京都と茶文化研究センター／先端バイオマテリアル研究センター／良心学研究センター／フェミニスト・ジェンダー・セクシュアリティ研究センター／南シナ海研究センター／Well-being研究センター／バイオマイクロfluidicサイエンス研究センター／次世代科学技術社会コミュニケーション研究センター／国際インフラシステム研究センター／中小企業マネジメント研究センター／人工知能工学研究センター／スポーツ傷害予防研究センター／スポーツマネジメント研究センター／ヒューマン・ディグニティ研究センター／メカノバイオロジー研究センター／古典教材開発研究センター／文化財保護研究センター／宮廷文化研究センター／AI×ヒューマニティ研究センター／ジャーナリズム・メディア・アーカイブス研究センター／社会価値研究センター／ダイバーシティ研究センター／細胞保護再生システム研究センター／病態解析研究センター／スポーツセンシング研究センター

② 中核的研究拠点

国際連携、社会連携、産学連携などの連携事業拠点として研究活動の多様性を担う研究拠点の形成を推進する研究センターで構成されます。

一神教学際研究センター／コリア研究センター／モビリティ研究センター／ナノ・バイオサイエンス研究センター／創造経済研究センター／実証に基づく心理・社会的トリートメント研究センター／先端パワートレイン研究センター／国際取引・国際法務研究センター／宇宙医学研究センター／文化遺産情報科学調査研究センター／超音波応用科学研究センター／スポーツ医学研究センター／ラテンアメリカ研究センター／神経変性疾患研究センター／言語生態科学研究センター／働き方と科学技術研究センター／STEM人材研究センター／自己組織化科学研究センター／行動神経科学研究センター／デジタル法制研究センター／インクルーシブ防災(i-BOSAI)研究センター／法と社会政策研究センター／ソーシャルマーケティング研究センター／若者と社会研究センター／地域紛争研究センター／都市共生研究センター／音響ナビゲーション研究センター／「間・帝国史」研究センター／社会調査研究センター／火災ガス中毒治療薬開発研究センター／サイエンスコミュニケーション研究センター

③ 先端的教育研究拠点

卓越した教育研究拠点またはこれに相当する先端的教育研究拠点形成事業の中核となる研究センターなどで構成されます。

エネルギー変換研究センター

人類が存続可能な地球環境の維持のため、環境調和型エネルギー変換に関わる基礎学問分野と応用技術の融合を目指し、先駆的かつ体系的な研究を行います。

宇宙生体医工学研究プロジェクト

宇宙生体医工学による「人間の健康」をテーマに、地球上の歩行困難者への新規運動療法やリハビリテーション、肥満症の予防などに貢献する研究を進めます。

同志社-ダイキン「次の環境」研究センター

ダイキン工業株式会社との連携協力により、環境課題をテーマにした実践的研究開発を推進し、「協創イノベーション人材」の育成にも取り組みます。

④ 教育研究プラットフォーム

教育研究プラットフォームは産官学連携を基軸とし、教育、研究、特に研究成果の社会実装や事業化を推進し、人類共通の課題解決への提案や貢献を目的として設置しています。

■カーボンサイクル教育研究プラットフォーム

持続可能な社会構築のための「カーボンサイクル」をテーマとした産官学の連携を基軸にして、教育、研究及び研究成果の社会実装を推進することを目的としており、カーボンニュートラルを実現するだけでなく、CO₂リサイクル社会として、これまで解決が困難とされていた諸問題を一気に解決する可能性を秘めた、まさに次世代を支える革新的な技術基盤の形成を目指しています。

⑤ 寄付教育研究プロジェクト

寄付教育研究プロジェクトは、個人、法人、企業やその他学外機関からの寄付を受けて、本学の教育研究活動を活性化し、多様化することを目的として設置するプロジェクトです。研究センターとともに独創的な研究拠点の形成を目指しています。また、個性豊かな授業科目や公開講座などの寄付講座も開設しています。

寄付教育研究プロジェクトの概要

■アンチエイジングリサーチセンター

加齢に伴う生体の退行性変化を科学的な手法(プロテオミクス、ゲノミクス解析)で捉え、その原因の1つとして注目される抗糖化に関わる研究の体系化を行います。

■糖化ストレス研究センター

糖化ストレスは還元糖やアルデヒド負荷による生体への負の影響で老化や疾患を進行させる因子の一つです。そのメカニズムの解明や制御は抗加齢医学の観点から重要です。本プロジェクトでは糖化ストレス測定方法の構築、抗糖化作用を有する食品や化粧品素材の探索、終末糖化産物(AGEs)の蓄積抑制に関する研究を行います。

■産学連携によるMBA教育機能強化プロジェクト

ビジネス研究科を開設部署とし先端技術産業分野でグローバルな事業展開を行っている株式会社SCREENホールディングスの協力を得て実施しているプロジェクトです。2020年度の開始以来、同社の実践的な事業経験を踏まえた授業を展開するとともに、2021年度には社会価値評価などの共同研究に着手、2022年度から正規科目としてインターンシップ科目を開設しています。

⑥ 研究推進部

研究推進部は、学外資金の獲得をはじめとする研究力強化のために、本学の学術研究活動の推進、研究戦略の検討・提言、若手研究者の養成を担います。研究推進部はリサーチ・アドミニストレーション機能を有し、本学や大学を取り巻く研究開発推進に関する現状の調査・分析・評価、研究戦略の検討・提言、及び学術研究活動の推進・支援に必要となる新たな制度、事業を提案し、本学の研究活動の充実と発展に寄与することを目的としています。

⑦ リエゾンオフィス・知的財産センター

リエゾンオフィスは、大学と産業界、国・自治体、地域社会とを結ぶ“窓口”となり、研究成果を基に広く社会と連携することを目的としています。全学的な組織として、学際的な産官学共同事業にも対応しながら、新しい産業やビジネスの創出を目指します。一方で、総合大学としての本学の機能をトータルコーディネートし、技術や研究に関するアドバイスや相談などのサービスを提供できる体制を整えています。

知的財産センターでは、教育・研究成果などの知的財産を創出する支援を行います。知的財産を保護し、増強するだけでなく、社会への還元と活用を通して社会に貢献することを目的としています。

学生や教職員の知的財産創出の支援、知的財産の権利化や維持・管理、知的財産のライセンス活動といった事業を通して、本学の知的財産を活用して社会に新しい活力をつくり出す重要な拠点として、今後も多彩な活動を展開します。

共同利用・共同研究拠点

赤ちゃん学研究センター

赤ちゃん学研究センターは発達科学や発達神経科学あるいは情報科学などをはじめとした多様な学問領域の融合による「赤ちゃん学」に基づいて、認知行動や社会性などの発達のメカニズムやプロセスを明らかにするという基礎研究と、その研究成果を育児や保育あるいは教育に携わる人に還元することを目的としています。また、2016年度からは文部科学省による「共同利用・共同研究拠点」事業において赤ちゃん学研究拠点として認定され、大学その他の研究機関などの研究者との共同利用・共同研究を推進しています。

学部・大学院教育研究組織

高等研究教育院



高等研究教育院は、大学院生の自律的なキャリア開発を推進し、本学の教育の一層の高度化を図ることを目的とする教育組織です。学問分野・領域に共通する基礎能力の涵養を目的とした大学院教育プログラムの開発・実施に取り組んでおり、研究科横断副専攻プログラム「Comm 5.0-AIデータサイエンス副専攻プログラム」の他、2021年度に開設した「アドバンス・リベラルアーツ科目群(ALA 科目群)」の下、ダイキン工業株式会社との連携に基づく「次の環境」協創コースや博士課程教育リーディングプログラムを継承するグローバル・リソース・マネジメント(GRM)コースを実施しています。

キリスト教文化センター



本学は、新島襄が志した教育理念の実現を目指しています。その教育理念とは、キリスト教を基本に、知識だけに偏ることなく、人間としてのあり方を考え、自由と愛と平等、個々の人格を重んじる精神です。本センターでは、「チャペル・アワー」「Doshisha Spirit Week」「メティテーション・アワー」「聖書に親しむプログラム」「熊本キャンパス/東京・安中キャンパス」「チャペル・コンサート」「オープン・プログラム」などのキリスト教主義を肌で感じることでできるプログラムを提供しています。

また『チャペル・アワー案内』や京田辺・今出川の各チャペル・アワーでの奨励、講演の記録である『チャペル・アワー奨励集』『Doshisha Spirit Week 講演集』、人権問題の教育のための『チャペル・アワー奨励：人権問題選集』を刊行し、新約聖書(新共同訳)の配布も行っています。

同志社社史資料センター



同志社社史資料センターは1963年に設置された同志社社史史料編集所を前身とし、2004年5月に発足しました。センターの目的は、創立者 新島襄や同志社諸学校に関係する史資料を収集、整理、保存、活用して、創立以来の歴史と伝統を後世に継承し、同志社の教育活動の充実と発展に寄与することです。この目的に従い、研究紀要(『同志社談叢』『新島研究』)の発行や研究会の開催、ハリス理化学館同志社ギャラリーでの展示活動(常設展示と企画展示)や公開講演会を通じて、同志社の歴史や建学の精神に関する有形無形の啓蒙活動を実施しています。また、『同志社百五十年史』の編集事業も行っています。

歴史資料館



1996年に設置された当館は、古代以来の遺跡上にある両校地の特性を活かした発掘調査成果と、文学部考古学研究室が全国的に調査・収集した膨大な考古資料を核に、その公開と収集・調査研究、さらに資料を活用した教育を行う博物館施設です。今出川校地の「室町殿(花の御所)」「近衛殿(桜御所)」「二條家屋敷」「相国寺旧境内」の発掘では、この場所が中近世における京都文化の中心域であったことを改めて確認できました。2022年度には、公家文化と『源氏物語』に関する企画展を行いました。

京田辺校地教務課とともに年6回開催する公開講座では、近畿一円を中心に多数の方が参加され、京田辺校地の顔ともなっています。

研究所／学部・大学院教育研究組織

人文科学研究所



人文科学研究所は、1944年「同志社大学研究所」として発足し1957年に今日の名称となりました。広く人文・社会科学の諸分野にわたって専門の学術的理論・応用に関する総合的研究を行い、学内外において文化の創造と発展に寄与することを目的としています。第1の活動は、学際的な共同研究の推進です。3年を1サイクルとする部門研究会を複数設置し、学内外の研究者による活発な研究活動が展開されています。その成果は『キリスト教社会問題研究』（年1回刊）、『社会科学』（年4回刊）の機関誌や研究叢書などの刊行物、公開講演会・公開講座の場で発表しています。第2の活動は、日本の近現代史関係の資料の収集・管理・公開です。特にキリスト教と日本の社会問題との関係資料や、京都を始めとする近現代日本の地域資料を多く所蔵しており、学内外に公開することで当該分野の研究に貢献しています。

ハリス理化学研究所



ハリス理化学研究所は、大学附置研究所として、同志社大学京田辺キャンパスに設置されています。同志社の科学教育と研究の歴史は、1890年（明治23年）、「ハリス理化学館」（国指定重要文化財）竣工と同時に開校された「ハリス理化学校」に始まり、京田辺キャンパスの6学部6研究科、そして「ハリス理化学研究所」に引き継がれています。京田辺キャンパスは、Creative Hill（創造の丘）の愛称でも親しまれており、自然科学系を中心とする未来志向で創造性に満ちた学部・研究科群を構成しています。「ハリス理化学研究所」は、6学部6研究科の学際領域を含め幅広く自然科学全般における教育と研究を通して、京田辺キャンパスの活性化及び同志社大学の発展に貢献しています。

アメリカ研究所



アメリカ研究所は、アメリカ研究の振興と日米相互理解の促進を目的として、1958年に設立されました。以来、日本のアメリカ研究をリードする拠点となり、学内外の研究者による学際的な研究が行われてきました。2023年には設立65周年を迎え、さらに日本と世界のアメリカ研究に寄与する決意を新たに、現在に至っています。本研究所は、約10万冊を超える蔵書、マイクロフィルムなどの一級の研究資料を備え、学内外に広く公開しています。本研究所の特色を活かした7部門の共同研究も行われており、それらの成果は、定期刊行誌『同志社アメリカ研究』、単行本、学術雑誌などで発表されています。また研究所では、国内や海外の優れた研究者による公開講演会やコロキアムも適宜開催しています。

研究生を支える諸制度

セメスター制度

本学では、セメスター制度を実施しています。同制度では1年を2期に分け、前半を「春学期」、後半を「秋学期」とします。例えば、博士課程（前期課程）は2年間4学期でカリキュラムが編成されており、1学期単位で授業（週1回または2回開講）が完結するため履修計画が立てやすく、留学を希望する方や社会人などの方にとっても、時間を有効的に活用しやすい環境となっています。

関西四大学大学院単位互換制度

本学は、関西大学、関西学院大学、立命館大学の3校と単位互換制度を実施しています。「より研究を深めたい」「幅広い科目を履修したい」という大学院生は、所定の手続きを経て、上記3校の大学院授業科目を履修できます。履修した科目は修了に必要な単位として、10単位を上限として認定される場合があります。

長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限での大学院の教育課程履修が困難な者に限り、標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了する制度です（研究科により、制度の有無や詳細が異なります）。

研修生制度

本大学院の修士の学位を得た後、さらに高度専門職などに必要な能力を身に付けたいと希望し、許可されれば、研修生として修学を認める制度を設けています。

研究生制度

本大学院博士課程（後期課程）に6年間に在学した者または一貫制博士課程に8年間に在学した者が、さらに研究を専門的に行うため研究指導を受けたいと希望し、許可されれば、研究生として研究指導を受けることができる制度を設けています。

ティーチング・アシスタント制度

本学では、ティーチング・アシスタント（以下TA）制度が1996年度から施行されました。TA制度は、成績優秀な大学院生に教育経験を積む機会を提供することによって、教員・研究者・専門職業人などとしての自立を奨励することを目的とし、演習・実験・実習その他の授業の教育補助、学生に対する学習上の指導及び相談、その他必要な教育の補助業務に従事します。

TA(D)は、主に学部及び大学院博士課程（前期課程）または専門職学位課程の教育に関する補助業務に、TA(M)は、学部の教育に関する補助業務に従事します。

同志社大学大学院博士後期課程 若手研究者育成フェローシップ制度

文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の支援を受け、博士後期課程学生の処遇向上とキャリアパス確保のための取り組みを一体として実施し、次世代を担う優れた若手研究者を育成することを目的とするものです。

本学は、このフェローシップ制度を通して、本学博士課程に在学する大学院生に研究専念支援金及び研究費（フェローシップ）を支給し、研究活動に専念して研究力の向上を図ることができる環境を整備します。

なお、フェローシップ支給対象学生には、研究力の向上に邁進いただくとともに、本学が提供するキャリアパスの確保に向けた各種プログラムを計画的に受講し、自立的なキャリア形成が求められます。

同志社大学大学院博士後期課程 次世代研究者挑戦的研究プロジェクト

国立研究開発法人科学技術振興機構の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」として実施される本プロジェクトを通じて、自由で挑戦的・融合的な研究に意欲的に取り組む大学院博士課程学生に対し、研究活動に専念して研究力の向上を図ることができる環境を整備するとともに、キャリア形成支援のため、キャリアパスの確保に向けた各種プログラムを一体的に実施します。

本プロジェクトは、研究科や研究室など既存の枠組みを越えて、社会課題への挑戦、新たな領域の開拓、世界に股をかける実践を目指そうとする、これからの時代を切り拓きたいと強く希望する博士後期課程学生（社会人学生含む）を選考の上、支援します。

なお、本プロジェクトの支援対象学生は、研究力の向上に邁進するとともに、本学が提供するキャリアパスの確保に向けた各種プログラムを計画的に受講、実践し、自立的なキャリア形成に取り組むことを求められます。

学位の授与 Degree Conferment

本大学院において、各研究科の課程修了の認定を得た者には、次の学位を授与します。

※2023年度入学生の場合

修士

神学、一神教研究、哲学、英文学、英語学、文化史学、国文学、美学、芸術学、社会福祉学、メディア学、教育文化学、社会学、産業関係学、政治学、比較政治学、法学、経済学、商学、政策科学、ソーシャル・イノベーション、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究、経営学、学術

博士

神学、一神教研究、哲学、英文学、英語学、文化史学、国文学、芸術学、社会福祉学、メディア学、教育文化学、社会学、産業関係学、政治学、法学、経済学、商学、政策科学、ソーシャル・イノベーション、文化情報学、工学、理学、スポーツ健康科学、心理学、アメリカ研究、現代アジア研究、グローバル社会研究、学術

専門職

法務博士、ビジネス修士

※2024年度までに変更されることがあります。

教育職員免許状 Educational Personnel License

本大学院では、関係科目の単位を修得することにより、下記の教育職員免許状を取得することができます。

なお、教職課程の詳細は免許資格課程センターHP(右記2次元コード)をご覧ください。



研究科	専攻	種類(免許教科)	
		中学校専修免許状	高等学校専修免許状
神学研究科	神学専攻	宗教	宗教
文学研究科	哲学専攻	社会	地理歴史/公民
	英文学・英語学専攻	英語	英語
	文化史学専攻	社会	地理歴史
	国文学専攻	国語	国語
	美学芸術学専攻	社会	地理歴史/公民
社会学研究科	社会福祉学専攻	—	福祉
	メディア学専攻	社会	公民
	教育文化学専攻	社会	公民
	社会学専攻	社会	公民
	産業関係学専攻	社会	公民
法学研究科	政治学専攻	社会	地理歴史/公民
	私法学専攻	社会	公民
	公法学専攻	社会	公民
経済学研究科	理論経済学専攻	社会	地理歴史/公民
	応用経済学専攻	社会	公民
商学研究科	商学専攻	社会	公民/商業
総合政策科学研究科	総合政策科学専攻	社会	公民
文化情報学研究科	文化情報学専攻	数学	数学
	情報工学専攻	数学	数学
	電気電子工学専攻	—	—
理工学研究科	機械工学専攻	—	—
	応用化学専攻	理科	理科
	数理環境科学専攻	数学/理科	数学/理科
	医工学・医情報学専攻	理科	理科
生命医科学研究科	医生命システム専攻	理科	理科
	スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	保健体育
心理学研究科	心理学専攻	社会	地理歴史/公民
グローバル・スタディーズ研究科	グローバル・スタディーズ専攻	社会	公民

・中学校教諭と高等学校教諭とは、免許状を相互に利用することはできません。
 ・専修免許状を取得するためには、当該教科の一種免許状を取得済み、または一種免許状取得に必要な単位を修得し、併せて専修免許状取得に必要な科目を24単位以上履修済みであることが必要です。
 また、大学院博士課程(前期課程)あるいは修士課程を修了すること、または1年以上在学し、30単位以上修得することが必要です。

・必要に応じて、別途課程登録料など、教職課程の履修に必要な費用を徴収します。
 ・ビジネス研究科 グローバル経営研究専攻、脳科学研究科には教職課程は設置されていません。
 ・2024年度までに変更されることがあります。

一人ひとりの希望に合った、きめ細かいキャリアサポート

計画的で、きめ細かな支援による高い就職率

同志社大学では、満足度の高い就職を目指して、計画的できめ細かな支援を実施し、学生は元より企業などからも高い評価を得ています。

■ 実践的プログラムの提供

学生は就職活動を展開していくにつれて、業界研究、企業研究、キャリアパス、「求められる人材像」などの実践的知識が必要となります。本学ではそのためのセミナー、ワークショップを実業界の動きに合わせて計画的に提供しています。

■ きめ細かな個別相談の実施

学生の職業選択においては学生の自立した判断を尊重しつつ、一人ひとりの状況を考慮しながら、適切な就職情報を伝え、より満足度の高い進路選択ができるように個別相談も実施しています。企業などでの経験豊富なキャリアアドバイザーを配置し、学生の相談に応えています。

スペシャリストと資質の高いゼネラリストのニーズの高まりに応じて

近年、各企業ではより付加価値の高い企業体質づくりを進めており、より高度な専門知識を持ったスペシャリストと、高い資質を持ったゼネラリストの確保・育成に力を入れています。技術系だけでなく、文科系でもこの動きは加速しています。自由な校風の中で自立した精神を大切にす本学の方針と本学卒業生の活躍に対しては、各企業から高い評価をいただいており、本学の大学院生にはますます大きい期待が寄せられています。

本学の就職状況には高い実績がありますが、これは学問分野と進路を狭く限定したり、企業の規模や知名度だけにとらわれずに、学生自身の関心や価値観を大切にす進路選択を支援してきた結果です。そして何より大学院修了生の各界での活躍と評価が産業界に広く定着したことが、毎年の高い就職率につながっています。

研究職や専門職、民間企業、政府機関、自治体など、多彩な進路状況

神学研究科

キリスト教会の牧師、神学や宗教学の研究者をはじめ、民間企業、教育機関、自治体など、様々な分野で活躍しています。

日本基督教団、在日大韓基督教教会、楽天グループ、富士通Japan、日立産業制御ソリューションズ、日新、日立建機、アシックス、SMBC日興証券、IKホールディングス、ウエルシア薬局、さとう、ライフワークス社、島村楽器、スタジオ三十三、ラビース、平安女学院、横須賀学院中学高等学校、医療法人清水会、読売新聞大阪本社

文学研究科

研究者を目指し研究活動を継続する人が多いのが特徴です。その一方で、各専攻の専門知識を活かせる企業、教育機関及び自治体など様々な分野に就職しています。

教員(京都府、大阪府、兵庫県他)、国家公務員(一般職)、地方公務員(大阪市、兵庫県、木津川市他)、京都大学、慶應義塾、同志社女子中学校・高等学校、梅花学園梅花中学校・高等学校、花園学園花園中学高等学校、大阪市博物館機構、滋賀県文化財保護協会、札幌市芸術文化財団、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、大垣共立銀行、晃洋書房、数研出版、大修館書店、吉川弘文館、楽天グループ、コム・デ・ギャルソン、文化放送、神戸新聞社、島津製作所、マツダ、住電商事、青山特許事務所

社会学研究科

専門性を活かした研究者への道だけではなく、民間企業や教育機関、自治体、NPOなど、修了生は多彩な分野へ就職しています。

日立産機システム、京都市社会福祉協議会、堺市社会福祉協議会、大阪市障害者福祉スポーツ協会、ワークスアプリケーションズ、熊本日日新聞社、藤田学園、東洋大学、河合塾、コーセー、アクセントチュア、肥後銀行、京都銀行、高島屋、大丸松坂屋百貨店、日本アイ・ピー・エムデジタルサービス、島津製作所、ファーストリテイリング、出光興産、堀場アドバンステクノ、京セラコミュニケーションシステム、常翔学園、京都市、西宮市、尼崎市、京都市職員

法学研究科

専攻によって進路は多少異なっていますが、いずれの場合も専門知識を活かし、その分野の第一線で活躍しています。

大学教員、国家公務員、地方公務員、裁判所職員、パナソニック、日立製作所、ソニー、富士通、トヨタ自動車、本田技研工業、三井住友銀行、ゆうちょ銀行、日本生命保険、損害保険ジャパン、三井物産、三菱重工業、住友化学、JFEスチール、関西電力、NTTドコモ、楽天グループ、日本航空、全日本空輸、味の素、日清食品、キリンホールディングス、任天堂、京セラ、オムロン、村田製作所、ローム、ダイキン工業、オンキヨー、第一三共、日本新薬、日本放送協会

経済学研究科

研究者を目指して、本学もしくは他大学の博士課程(後期課程)へ進学する以外に、民間企業、政府機関、自治体など様々な分野で活躍しています。

アビームコンサルティング、アクティシステム、イオンフィナンシャルサービス、AGSグループ、オージス総研、三和シャッター工業、セイコーエプソン、双日、豊田通商、アロイト トーマツ コンサルティング、トヨタ紡織、ニトリ、日本アイ・ピー・エム、日本アイ・ピー・エムデジタルサービス、富士通ネットワークソリューションズ、船井総合研究所、毎日新聞、みずほリサーチ&テクノロジーズ、ゆうちょ銀行、楽天グループ、両備ホールディングス、国家公務員(総合職)

商学研究科

大学教員や研究者として赴任、専門性を活かして企業へ就職、公認会計士、税理士として活躍など多様な進路を選択できます。

あずさ監査法人、監査法人トーマツ、辻・本郷税理士法人、アイネックス税理士法人、成迫会計事務所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、富士経済、日本生命保険、三井住友海上火災保険、三菱UFJ銀行、野村證券、京都銀行、シャープ、ソフトバンク、電通、マツダ、ニデック、堀場製作所、阪急阪神百貨店、富士通ゼネラル、花王グループカスタマーマーケティング、ベネフィット・ワン、船井総合研究所、伊藤園、島津製作所

総合政策科学研究科

修了生は時代が求める専門性を身に付けた人材として各方面で活躍しています。またキャリアアップを目指す人が多いのも特徴です。

大学教員、大学職員、地方自治体(京都府、愛知県、滋賀県、京都市、高槻市、他)、国家公務員(一般職)/衆議院事務局他、国際協力機構、日本年金機構、経済同友会、大阪商工会議所、京都市リサーチパーク、毎日放送、中日新聞社、読売新聞大阪本社、トヨタ自動車、武田薬品工業、ニッセイ情報テクノロジー、JTB、みずほフィナンシャルグループ、SMBC日興証券、北國銀行、パソナ、フジクラ、日本たばこ産業、イトーキ、NTTデータ・アイ、箕面自由学園

文化情報科学研究科

広い視野と柔軟な発想を持ち、データ分析の高い能力を活かしながら、行政機関、民間企業などの第一線で活躍しています。

アクセントチュア、日本アイ・ピー・エム、富士通、大和ハウス工業、日経リサーチ、ニトリ、ビデオリサーチ、マクロミル、チームラボ、サイバーエージェント、ソフトバンク、田辺三菱製薬、アサヒビール、西日本旅客鉄道、エヌ・ティ・ティ・データ、丸紅、日立製作所、同志社大学、ヤフー、大阪府警察(警察官・警察事務等)、教員(京都府、愛知県、埼玉県)、地方公務員(木津川市、箱根町)

キャリアセンターWebサイト

キャリアセンターの利用方法や学内イベント情報、セミナーのオンデマンド配信動画、統計資料、学年別・対象者別の支援案内など、就職活動に必要な情報を掲載しています。

また、キャリア支援システム「e-career」では、採用実績や先輩の就職活動体験記、OB・OG訪問の情報など、本学キャリアセンター独自の情報を提供しているほか、個別相談の予約や学内イベントの申し込みなどが可能で、就職活動の貴重なツールとなっています。

キャリアセンター宛に届いた求人情報やインターンシップ情報は、「求人・インターンシップ情報検索サイト」に掲載しており、本学学生限定の情報も掲載しています。自宅や外出先からもアクセスでき、学生への情報をリアルタイムに公開しています。

理工学研究科

優れた教育・研究環境の下で研究を行い、深い学識と高度な専門技術を身に付けた修了生は、多くの有名企業に就職しています。

パナソニック、ダイキン工業、三菱電機、村田製作所、トヨタ自動車、日立製作所、豊田自動織機、川崎重工業、デンソー、日産自動車、エヌ・ティ・ティ・データ、関西電力、本田技研工業、野村総合研究所、積水化学工業、京セラ、小松製作所、日本電気、富士通、クボタ、中部電力、三菱ケミカル、ヤフー、三菱自動車工業、NTTドコモ、アマゾン ウェブ サービス ジャパン、日本マイクロソフト

生命医科学研究科

工学と医学の融合分野における先端科学領域で活躍できるエンジニアや研究者を育成します。

〈医工学コース〉トヨタ自動車、パナソニック、日立製作所、川崎重工業、京セラ、旭化成、ダイキン工業、LIXIL、関西電力、清水建設 〈医情報学コース〉NTTデータ、オリンパス、野村総合研究所、トヨタ自動車、キヤノンメディカルシステムズ、日本IBM、島津製作所、パナソニック、ダイキン工業、ソニー 〈医生命システム専攻〉武田薬品工業、塩野義製薬、住友ファーマ、小林製薬、島津製作所、タカラバイオ、ロッテ、コーセー、花王、森永乳業

スポーツ健康科学研究科

スポーツ健康科学の知見に通じた高度専門職業人や卓越した研究者の養成を視野に入れています。修了後の進路として、博士課程(後期課程)への進学、保健体育教員、医療・健康関連企業、自治体などの生涯スポーツ指導者などが考えられます。

滋賀県、博報堂DYメディアパートナーズ、美津濃、アシックス、ゴールドウイン、モンベル、アルペン、タニタ、テルモ、オタクソース、日本シグマックス、京都大学、立命館、ジョンソン・エンド・ジョンソン、大塚製薬、丸善薬品産業、岩谷産業、太陽石油、第一生命保険、クレディセゾン、ノアインドアステージ、計測技研、大和ハウス工業、シャンソン化粧品、富士フィルムヘルスケアシステムズ

心理学研究科

研究者を目指し、博士課程(後期課程)へ進学する他、医療・教育・行政など心理臨床関連の専門職をはじめ、幅広い職種での活躍が期待できます。

メタックス、エド・インター、ミネルヴァ書房、ポート、水口病院、瀬田川病院、稲荷山武田病院、明萌会、青空精神科・心療内科、相和福祉会、チルドレン・センター、LITALICO、浜学園、滋賀県教員、滋賀県、奈良県、福井県、岡山県

就職支援の2つの拠点

—東京サテライト・キャンパス、大阪サテライト・キャンパス—

関西企業に偏ることなく、東京本社の企業への就職も目立つ本学ですが、それを支えているのがキャリアセンターの2つの拠点「東京サテライト・キャンパス」と「大阪サテライト・キャンパス」です。東京サテライト・キャンパスでは、各種証明書・学割の発行、パソコンや更衣室の利用、就職情報誌の閲覧、就職活動中の休憩など、首都圏での就職活動のサポートを行っています。大阪サテライト・キャンパスでは、就職相談(3月中旬～6月上旬のみ)、各種証明書・学割の発行、パソコンの利用、就職情報誌の閲覧、就職活動中の休憩のために利用できます。

※下記は、過去10年間の主な就職先です(順不同)。

グローバル・スタディーズ研究科

国際機関、国際ビジネスに携わる企業、マスコミ、研究機関や国際協力機関などで活躍できる研究者、高度職業人を養成します。

三菱電機、堀場製作所、三菱自動車工業、アクセンチュア、ワークスアプリケーションズ、ニトリ、YKK、日本たばこ産業、楽天グループ、第一法規、大塚製薬、SGホールディングス、関電工、石川県教員、ザ・リッツ・カールトン・ホテル・カンパニー L.L.C.、高島屋、日本通運、大阪YMCA、大阪大学、亀田製菓、四条烏丸法務事務所、スイスホテル南海大阪、ニッセイ、広島マツダ、星野リゾートグループ、ワタベウェディング

脳科学研究科

国際的に高く評価される実力を備えた研究者、及び世界に通用する高度な技術と広い視野を身に付けた専門技術者を養成します。

国際電気通信基礎技術研究所、京都府立医科大学、同志社大学、ISTAustria、WDB エウレカ社、環境衛生薬品、遺伝学研究所、化学分析コンサルタント、富士レリオ、アークレイ、理化学研究所、塩野義製薬、立命館大学、名古屋大学、沖縄科学技術大学院大学、京都大学、Massachusetts Institute of Technology (MIT)、University of Texas Southwestern Medical Center

司法研究科(法科大学院)

2023年3月に令和3年司法試験の合格者が司法修習を終え、法曹として第一歩を歩み始めました。2022年の令和4年司法試験に25名が合格し、現在修習中です。

ビジネス研究科(ビジネススクール)

ビジネス研究科では、特別にキャリアアドバイザーを置き、学生のキャリア支援をしています。

社会人学生が中心のビジネス専攻の修了生は、現勤務先でキャリアアップをした人が多く、また新たに起業した人もいます。

世界各地からの留学生の集うグローバル経営研究専攻では、就職先は日本国内のみならず世界中に及んでおり、修了生のグローバルなネットワークが形成されています。日本において、未就業の学生は、以下のような企業に就職しています。

アクセンチュア、AGC、日本放送協会、中外製薬、船井総合研究所、三菱HCキャピタル、日本アイ・ピー・エム、カネカ、京セラ、三菱自動車工業、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三井物産、ニコン、エヌ・ティ・ティ・データ、オムロン、大阪商工会議所、パナソニック、パソナ、島津製作所、島精機製作所、資生堂、東洋エンジニアリング、ヤフー、ヤマハ発動機、JWマリオット・ホテル奈良、ダイムラー・トラック・アジア、ヘイズ・スペシャリスト・リクルートメント・ジャパン

※企業・団体名は2023年4月1日現在の名称を記載しています。

大学院奨学金制度一覧表

名称	種類	金額	対象		採用者数*1 [出願者数]	願書 入手時期	出願 期間	採否 決定	備考	
			家計基準	成績基準						
同志社大学 大学院奨学金	給付	年額 神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、 商学研究科、総合政策科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、 ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 310,000円 文化情報学研究科、スポーツ健康科学研究科 330,000円 理工学研究科、生命医科学研究科 430,000円 心理学研究科 350,000円 脳科学研究科 430,000円 *3	専門職学位課程は対象外	本人の収入金額 給与収入： 841万円以下 営業所得： 355万円以下	成績良好であること	〈前期課程〉 340[758] 〈後期課程〉 15[17]	3月 下旬～ *2	4月 月上旬 *2	6月 月中旬 *2	給付期間：1カ年(毎年出願可)
同志社大学大学院 特別奨学金	給付	年額 表に定める額に120,000円を加えたもの 神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、 ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 入学年度ごとの 各年次に応じた 授業料相当額 文化情報学研究科、 スポーツ健康科学研究科 入学年度 560,000円 2年目以降 760,000円 理工学研究科、 生命医科学研究科 入学年度 740,000円 2年目以降 940,000円 心理学研究科 入学年度 590,000円 2年目以降 790,000円 *4	前期課程及び一貫制博士課程 の在学2年以内の者のうち、研究 科長に推薦された学力、人物と もに特に優秀かつ研究者として 適格な者(脳科学研究科、ビジ ネス研究科(専門職学位課程) は対象外)	28	公募はしない			6月 月中旬 *2	給付期間：1カ年	
同志社大学大学院 博士後期課程若手 研究者育成奨学金	給付	年間学費(入学金(入学時のみ)、授業料、 教育充実費及び特別在籍料(適用学期のみ)) 相当額 *5	後期課程に在学している入学時 34歳未満の者及び一貫制博士 課程に2年以上在学している入 学時32歳未満の者のうち、各研 究科に推薦された学修意欲のある 者(脳科学研究科は対象外)	197	公募はしない			入試合格 と同時	給付期間：1カ年 ただし、所定の継続審査により、標準 修業年限を上限に継続することが ある。採用者数には継続者を含む	
同志社大学大学院 脳科学研究科 特別奨学金	給付	年間学費(入学金(入学時のみ)、授業料、 教育充実費及び特別在籍料(適用学期のみ)) 相当額 *5	入学時32歳未満(転入学時34 歳未満)で、脳科学研究科に推 薦された学修意欲のある者	24	公募はしない			入試合格 と同時	給付期間：1カ年 ただし、所定の継続審査により、標準 修業年限を上限に継続することが ある。採用者数には継続者を含む	
同志社大学 寄付奨学金	給付	年額100,000円	研究科長に推薦された 学力・人物ともに優秀な者	4	公募はしない			5月下旬	給付期間：1カ年	
同志社大学 短期貸付金	貸与 (無利子)	(1)一般貸付 30,000円以内 (2)特別貸付 100,000円以内	やむを得ない事情で、 一時的に生活費支弁が困難になった者	(1)0 (2)0		緊急の場合に随時 (事務室開室時間)			一般貸付の返還は3カ月以内、特 別貸付は10カ月以内に月賦返還	
日本学生支援機構 大学院 第一種奨学金	貸与 (無利子)	月額 下記金額から選択制 前期課程 50,000円 88,000円 後期課程 80,000円 122,000円	本人及び配偶者の 収入金額の合 計額 前期課程： 299万円以下 後期課程： 340万円以下	成績が特に 優れ、学術研 究者として適 格と認められ る者	〈前期〉 217 [217] 〈後期〉 16[16] [専門] 20[20]	3月 下旬～/ 9月 月上旬～	4月 月上旬/ 9月 月中旬	7月 月上旬/ 12月 月上旬	・貸与期間：標準修業年限まで ・外国人留学生は出願不可 ・新生には、初回振込時、10・20・30・40・ 50万円から選択して増額可能な制度あり ・第一種奨学金には「特に優れた業績による 返還免除」制度(「採用時返還免除内定」 制度含む)あり ・第二種奨学金の利率の上限は3% ・第二種奨学金において、司法研究科生が最 高金額を選択した場合は40,000円又は 70,000円の増額が可能 ・返還は借用総額により異なるが修了後10 ～20年以内 ・一貫制博士課程の1・2年次生は前期課程 に、3～5年次生は後期課程に準ずる	
日本学生支援機構 大学院 第二種奨学金	貸与 (有利子)	月額 下記金額から選択制 50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円	本人及び配偶者の 収入金額の合 計額 前期課程： 536万円以下 後期課程： 718万円以下	成績が平均 水準以上で、 特定分野に おいて特に 優れた資質 能力があると 認められる者	〈前期〉 12[62] 〈後期〉 2[4] [専門] 8[10]					
民間・地方公共団体 奨学金	給付 または貸与	各奨学団体に異なる	各奨学団体に異なる (大学推薦団体は成績優秀者)	21		3月下旬より随時受付			貸与の場合は各奨学団体に異なる が修了後10～15年以内に返還	

(*)1採用者数[出願者数]は2022年度実績 採用人数に限度があるため、上記基準内であっても採用されない場合があります。

(*)2ビジネス研究科 秋入学生については別日程

(*)32022年度以前に入学した学生の給付額は、授業料相当額の2分の1とします。

(*)42022年度以前に入学した学生の給付額は、授業料相当額に120,000円を加えたものとします。

(*)52022年度以前に入学した学生の給付額は、年間学費(授業料、教育充実費及び実験実習料、特別在籍料(適用学期のみ))相当額とします。

●修士課程は、前期課程に準じます。

●司法研究科対象(下記の奨学金以外に、他研究科と同じく日本学生支援機構大学院奨学金、同志社大学短期貸付金の利用が可能です。)

名称	種類	金額*1	対象		採用者数*2	願書 入手時期	出願 期間	採否 決定	備考
			家計基準	成績基準					
同志社大学大学院 司法研究科奨学金	給付	(1)第1種奨学金(2年間継続型) 年間の単位授業料相当額 (2)第2種奨学金(単年度給付型)年 間の単位授業料相当額 (3)第3種奨学金(単年度給付型)年 間の単位授業料相当額の1/2	—	勉学意欲旺盛で 学業人物ともに 優秀な者	1年次生 (1)92(2)23(3)4 2年次生 (1)12(2)6(3)0 3年次生 (1)0(2)3(3)0	公募はしない		1年次生： 入試合格 と同時 2年次生： 3月	選考： 1年次生 入学試験の成績による。 秋に補充採用することがある 2年次生以上 学業成績優秀者の中から選考
司法研究科 修学支援奨学金	給付	年間の登録単位数に 8,000円を乗じた額	司法研究科正規学生で司法研究科の 推薦のあるもの (司法研究科奨学金と併給はできない。)		1年次生：19 2年次生：27 3年次生：20	公募はしない		1年次生： 入試合格と同時 2年次生以上： 3月	
同志社大学大学院 司法研究科 貸与奨学金	貸与 (無利子)	一学期の金額 (1)1学期の単位授業料 相当額 (2)1学期の単位授業料 相当額の1/2	学資支弁に 支障のある者	1年次生： 入試合格をもって 基準を満たす 2年次生以上： 司法研究科の 推薦による	〈入学前〉 (1)1(2)0 〈春学期〉 (1)0(2)0 〈秋学期〉 (1)1(2)0	1年次生： 春合格 通知に封入 秋7月上旬 2年次生以上： 春1月上旬 秋7月上旬	1年次生： 春前日程 10月上旬 後期日程 2月中旬 秋7月中旬 2年次生以上： 春1月上旬 秋9月中旬 春3月下旬 秋9月中旬	1年次生： 春前日程 11月下旬後期 日程 3月上旬 秋10月上旬 2年次生以上： 春4月中旬 秋10月上旬	・貸与期間：1学期(学期毎に出願可) ・最短修業年限まで出願可 ・外国人留学生は出願不可 ・連帯保証人が2名必要 ・返還は原則として修了時から貸与回 数×3年以内。ただし、15年を超え ないものとする。願書入手時期：出 願期間・採否決定は予定(変更の場 合あり)
同志社大学大学院 司法研究科 特別支給奨学金	給付	年間100,000円	—	同志社大学を卒業、同志社 大学在学3年で飛び入学又 は同志社大学大学院を修了 し、司法研究科に入学した者	38	公募はしない		5月中旬	有資格者全員を採用する 入学初年度に、各学期5万円を 給付する

(*)1単位授業料は、登録単位数に応じて徴収するもの

(*)2採用者数[出願者数]は2022年度実績 採用人数に限度があるため、上記基準内であっても採用されない場合があります。

大学院 博士課程(前期課程)または修士課程2024年度入学生 学生納付金

■ 第1年次

(単位:円)

研究科	第1年次合計	入学手続時 納入必要額	学費(年額)			諸会費	
			入学金	授業料	教育充実費	学生会費*	
神学研究科	835,000	517,500	200,000	515,000	117,000	3,000	
文学研究科	英文学・英語学専攻	837,000	518,500	200,000	515,000	117,000	5,000
	哲学、文化史学、 美学芸術学専攻	836,000	518,000	200,000	515,000	117,000	4,000
	国文学専攻	838,000	519,000	200,000	515,000	117,000	※6,000
社会学研究科	837,000	518,500	200,000	515,000	117,000	5,000	
法学研究科	840,000	520,000	200,000	515,000	117,000	8,000	
経済学研究科	836,500	518,250	200,000	515,000	117,000	4,500	
商学研究科	837,000	518,500	200,000	515,000	117,000	5,000	
総合政策科学研究科	839,000	519,500	200,000	515,000	117,000	7,000	
文化情報学研究科	927,000	563,500	200,000	599,000	126,000	2,000	
理工学研究科	1,212,000	706,000	200,000	854,000	156,000	2,000	
生命医科学研究科	1,212,000	706,000	200,000	854,000	156,000	2,000	
スポーツ健康科学研究科	955,000	577,500	200,000	626,000	126,000	3,000	
心理学研究科	984,000	592,000	200,000	649,000	132,000	3,000	
グローバル・スタディーズ研究科	837,000	518,500	200,000	515,000	117,000	5,000	
ビジネス研究科グローバル経営研究専攻	832,000	516,000	200,000	515,000	117,000	—	

■ 第2年次

(単位:円)

研究科	授業料	教育充実費
神学、文学、社会学、法学、経済学、 商学、総合政策科学、グローバル・スタディーズ研究科、 ビジネス研究科グローバル経営研究専攻	715,000	117,000
文化情報学研究科	799,000	126,000
理工学、生命医科学研究科	1,054,000	156,000
スポーツ健康科学研究科	826,000	126,000
心理学研究科	849,000	132,000

- 入学金は初年度のみ徴収します。学内出身者(本学卒業生・本学大学院修了生)の入学金は2分の1です。
- 授業料・教育充実費については、各々2分の1が春学期学費及び秋学期学費です。
- 入学手続時納入必要額とは、入学金全額と、春学期学費及び諸会費の2分の1です。
 ※文学研究科国文学専攻の学生会費は、文化学生会費(4,000円)と国文学学生会費(2,000円)を徴収します。
 *学会について
 各学会は、機関誌の発行などを通じ、本学の教育研究活動に寄与することを目的に設置されています。
- 長期履修学生については、本記載内容とは異なります。詳しくはホームページをご参照ください。
 (https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/payment/long_course.html)

注) 諸会費として、学生会費(第1年次と同額)を毎年徴収します。また、法学研究科生(除く、学内進学者)及び総合政策科学研究科生については、第2年次に当該研究科の卒業生団体会費を徴収します。

大学院 博士課程(後期課程)2024年度入学生 学生納付金

■ 第1年次

(単位:円)

研究科	第1年次合計	入学手続時 納入必要額	学費(年額)			諸会費	
			入学金	授業料	教育充実費	学生会費*	
神学研究科	810,000	505,000	200,000	484,000	123,000	3,000	
文学研究科	英文学・英語学専攻	812,000	506,000	200,000	484,000	123,000	5,000
	哲学、文化史学、美学芸術学専攻	811,000	505,500	200,000	484,000	123,000	4,000
	国文学専攻	813,000	506,500	200,000	484,000	123,000	※6,000
社会学研究科	812,000	506,000	200,000	484,000	123,000	5,000	
法学研究科	815,000	507,500	200,000	484,000	123,000	8,000	
経済学研究科	811,500	505,750	200,000	484,000	123,000	4,500	
商学研究科	812,000	506,000	200,000	484,000	123,000	5,000	
総合政策科学研究科	814,000	507,000	200,000	484,000	123,000	7,000	
文化情報学研究科	905,000	552,500	200,000	570,000	133,000	2,000	
理工学研究科	1,189,000	694,500	200,000	825,000	162,000	2,000	
生命医科学研究科	1,189,000	694,500	200,000	825,000	162,000	2,000	
スポーツ健康科学研究科	931,000	565,500	200,000	595,000	133,000	3,000	
心理学研究科	954,000	577,000	200,000	613,000	138,000	3,000	
グローバル・スタディーズ研究科	812,000	506,000	200,000	484,000	123,000	5,000	

■ 第2年次・第3年次

(単位:円)

研究科	年次	授業料	教育充実費
神学、文学、社会学、法学、経済学、商学、 総合政策科学、グローバル・スタディーズ研究科	第2・3年次	684,000	123,000
文化情報学研究科	第2・3年次	770,000	133,000
理工学、生命医科学研究科	第2・3年次	1,025,000	162,000
スポーツ健康科学研究科	第2・3年次	795,000	133,000
心理学研究科	第2・3年次	813,000	138,000

- 入学金は初年度のみ徴収します。学内出身者(本学大学院修了生)の入学金については不要です。
- 授業料・教育充実費については、各々2分の1が春学期学費及び秋学期学費です。
- 入学手続時納入必要額とは、入学金全額と、春学期学費及び諸会費の2分の1です。
 ※文学研究科国文学専攻の学生会費は、文化学生会費(4,000円)と国文学学生会費(2,000円)を徴収します。
 *学会について
 各学会は、機関誌の発行などを通じ、本学の教育研究活動に寄与することを目的に設置されています。
- 長期履修学生については、本記載内容とは異なります。詳しくはホームページをご参照ください。
 (https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/payment/long_course.html)

注) 諸会費として、学生会費(第1年次と同額)を毎年徴収します。また、法学研究科生(除く、学内進学者)については、第3年次に卒業生団体会費を徴収します。

大学院 博士課程(一貫制) 2024年度入学生 学生納付金

■ 第1年次

(単位:円)

研究科	第1年次合計	入学手続時 納入必要額	学費(年額)			諸会費
			入学金	授業料	教育充実費	学会費
脳科学研究科	1,210,000	705,000	200,000	854,000	156,000	—

(1) 入学金は初年度のみ徴収します。学内出身者(本学卒業生・本学大学院修了生)の入学金は2分の1です。

(2) 授業料・教育充実費については、各々2分の1が春学期学費及び秋学期学費です。

(3) 入学手続時納入必要額は、入学金全額及び春学期学費です。

(4) 長期履修学生については、本記載内容とは異なります。詳しくはホームページをご参照ください。 (https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/payment/long_course.html)

■ 第2年次・第3年次・第4年次・第5年次

(単位:円)

研究科	年次	授業料	教育充実費
脳科学研究科	第2年次	1,054,000	156,000
	第3年次	825,000	162,000
	第4年次	1,025,000	162,000
	第5年次	1,025,000	162,000

司法研究科(法科大学院) 2024年度入学生 学生納付金

■ 第1年次

(単位:円)

入学手続時納入必要額	入学金	単位授業料(1単位につき)	教育充実費
278,500	200,000	37,000	157,000

(1) 入学金は初年度のみ徴収します。学内進学者(本学卒業生・本学大学院修了生)の入学金は2分の1です。

(2) 単位授業料については、各学期における登録単位数に応じて徴収します。教育充実費については、上記の2分の1が春学期学費及び秋学期学費です。

(3) 入学手続時納入必要額は、入学金と春学期教育充実費です。初年度春学期の単位授業料については、入学後、科目登録を終えてから徴収します。

■ 第2年次・第3年次

(単位:円)

単位授業料(1単位につき)	37,000
教育充実費(年額)	157,000

※諸会費として、法学未修者は第3年次、法学既修者は第2年次に、卒業生団体会費を徴収します。

ビジネス研究科ビジネス専攻(ビジネススクール) 2024年度入学生 学生納付金

■ 第1年次

(単位:円)

入学手続時納入必要額	入学金	単位授業料(1単位につき)	教育充実費
313,500	200,000	50,500	227,000

(1) 入学金は初年度のみ徴収します。学内進学者(本学卒業生・本学大学院修了生)の入学金は2分の1です。

(2) 単位授業料については、各学期における登録単位数に応じて徴収します。教育充実費については、上記の2分の1が春学期学費及び秋学期学費です。

(3) 入学手続時納入必要額は、入学金と春学期教育充実費です。初年度春学期の単位授業料については、入学後、科目登録を終えてから徴収します。

(4) 長期履修学生については、休学期間及び学籍のない期間を除いて入学時から通算2年を超えた学期から、教育充実費を2分の1とします。ただし、認められた修業年限を超えて在籍した場合は、この減免措置を適用しません。

■ 第2年次

(単位:円)

単位授業料(1単位につき)	50,500
教育充実費(年額)	227,000

※諸会費として、第2年次に卒業生団体会費を徴収します。

出願の流れ

研究科によって手続きが異なります。詳細は各研究科の入試要項をご確認ください。

研究者を調べる

同志社大学「研究者データベース」にて、研究科別、研究分野別、キーワード等で研究者を調べることができます。研究科によっては、出願前に希望する指導教員に研究テーマを相談する必要がある場合や、研究者データベース以外の本学のWebサイトを確認し、指導教員を探す必要があります。

■ 研究者データベース <https://kendb.doshisha.ac.jp/>



入試説明会に参加する

各研究科で説明会を実施しています。

■ https://www.doshisha.ac.jp/admissions_graduate/info/graduate/exam_guide.html



入試要項(願書)を入手する

● Webサイト

大学院願書／1,000円(送料込)
脳科学研究科・法科大学院・ビジネス研究科／無料

■ 同志社大学 資料請求フォーム <https://www.umcnavi.jp/doshisha/>



● 各キャンパス

今出川キャンパス(門衛所)、京田辺キャンパス(門衛所)
東京サテライト・キャンパス、大阪サテライト・キャンパス
無料

出願に必要な情報を確認する

出願期間、入学検定料支払期限、出願書類を入試要項でご確認ください。不明な点がある場合は、入試要項の裏表紙の各研究科事務室または、入学課にお問い合わせください。また、外国人留学生の方は、「2024年度大学院外国人留学生入学試験要項」を確認してください。

出願手続きを行う

● 検定料を支払う

金融機関(ゆうちょ銀行、ATM不可)またはコンビニエンスストアで納入します。

● 出願書類の提出

入試要項に記載の所定の方法で、提出してください。

今出川校地

★重要文化財 ★国の登録有形文化財



烏丸キャンパス

- 1 アーモスト館 ★
- 2 光塩館
法学部・法学研究科事務室
- 3 啓明館 ★
- 4 待辰館
- 5 神学館
神学部・神学研究科事務室
- 6 到達館
- 7 有終館 ★

- 8 弘風館
情報教室、グローバル教育センター、日本語・日本文化教育センター、入学センター
- 9 明德館
食堂、コンビニ、カフェ、学生ラウンジ
- 10 徳照館
文学部・文学研究科事務室
- 11 図書館
- 12 クラーク記念館 ★
キリスト教文化センター
- 13 至誠館
商学部・商学研究科事務室

- 14 扶桑館
国際センター、国際交流ラウンジ
- 15 ハリス理化学館 ★
同志社ギャラリー
- 16 同志社礼拝堂(チャペル) ★
- 17 彰栄館 ★
- 18 真義館
- 19 寧静館
- 20 博遠館

- 21 良心館
情報教室、今出川キャンパス教務センター、経済学部・経済学研究科事務室、ラウンジ、食堂、コンビニ、書庫
- 22 志高館
情報教室、グローバル地域文化学部事務室、グローバルスタディーズ研究科事務室、アメリカ研究科事務室、総合政策科学研究科事務室、国際教育インスティテュート事務室

室町キャンパス

- 23 寒梅館
学生支援センター、キャリアセンター、カウンセリングセンター、保健センター、司法研究科事務室、ビジネス研究科事務室、ハーティーホール、クローバーホール

新町キャンパス

- 24 新創館
- 25 尋真館
- 26 臨光館
情報教室、社会学部・社会学研究科事務室、政策学部事務室、新町カフェテリア
- 27 淡水館
- 28 学生会館(本館)
クラブ・サークル部室、練習場、会議室、シャワー室、新町ショップ、ラウンジ、購買
- 29 新町別館
クラブ・サークル部室、練習場

京田辺校地



京田辺キャンパス

- 1 真誠館
体育関係の練習場
- 2 磐上館
スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科事務室
- 3 デイヴィス記念館
体育館兼講堂
- 4 紫苑館
食堂
- 5 香知館
- 6 成心館
京田辺キャンパス教務センター、学生支援センター

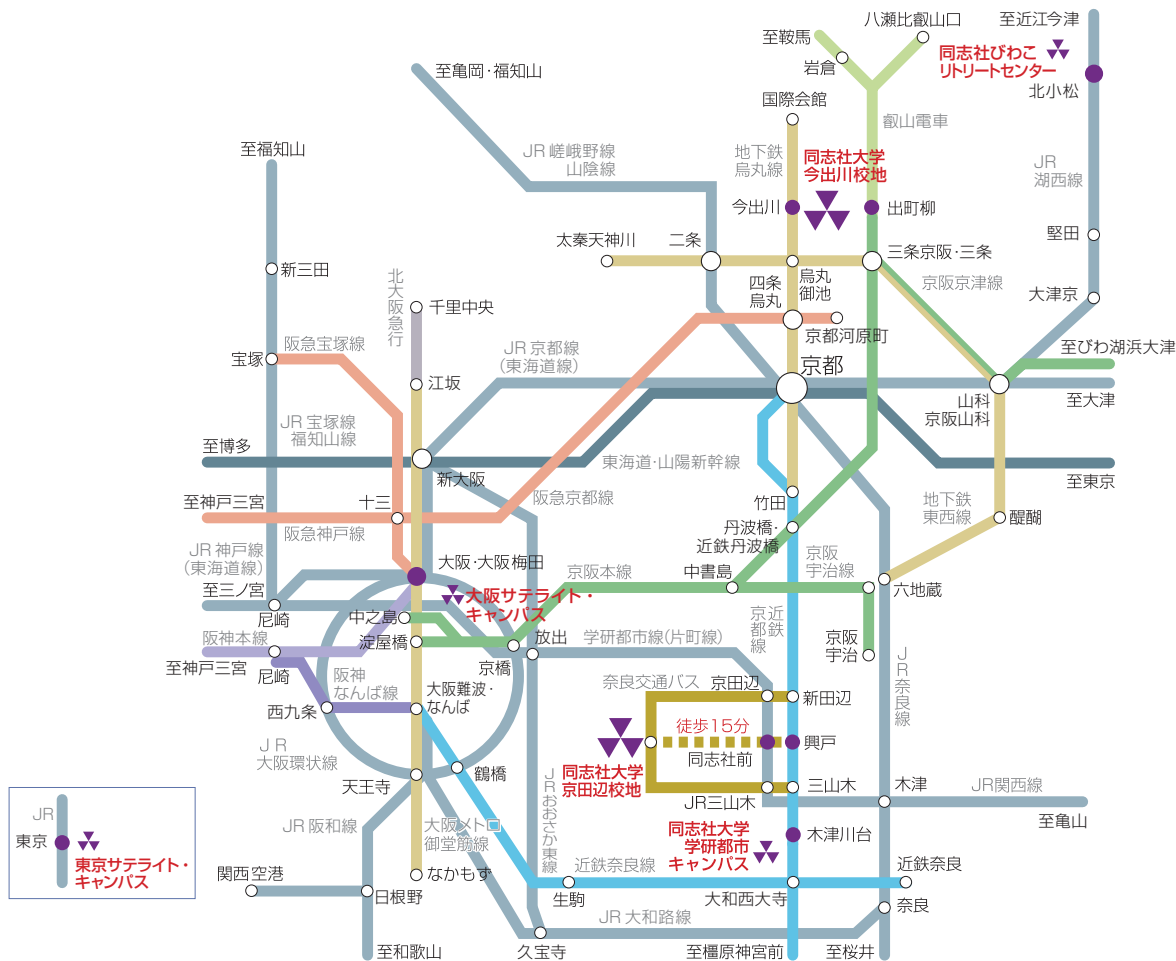
- 7 理化学館
理工学部・理工学研究科事務室
- 8 創考館
共同実験棟
- 9 香柏館
心理学部・心理学研究科事務室、グローバル・コミュニケーション学部事務室
- 10 日糧館
食堂、おいしんボ横丁、購買、書籍店舗、旅行カウンター
- 11 知真館3号館
- 12 恵道館
- 13 嶺真館
情報教室

- 14 ラーネット記念図書館
- 15 京田辺別館
文化系クラブ・サークルBOX、音楽・演劇総合練習場(音楽・コラス・演劇各練習場、アトリエ、会議室など)
- 16 知真館2号館
歴史資料館
- 17 知真館1号館
カウンセリングセンター
- 18 嗣業館
国際センター、キャリアセンター
- 19 交隣館
講師控室、ラウンジ、共同研究室
- 20 同志社ローム記念館
リエゾンオフィス、プロジェクトルーム

- 21 情報メディア館
情報教室、ITサポートオフィス
- 22 新島記念講堂
- 23 夢告館
文化情報学部・文化情報学研究科事務室
- 24 光喜館
- 25 恵喜館
- 26 業成館[D-egg]
- 27 医心館
生命医科学部・生命医科学研究科事務室
- 28 知証館北館
機械系実験実習棟、機械実習工場、機械実習工場別棟

- 29 知証館 南館
自然系等実験実習棟、電気系実験実習棟
- 30 訪知館
脳科学研究科事務室
- 【同志社京田辺会堂】
- 31 言館[KOTOBA-KAN]
礼拝堂
- 32 光館[HIKARI-KAN]
キリスト教文化センター施設

アクセス Access

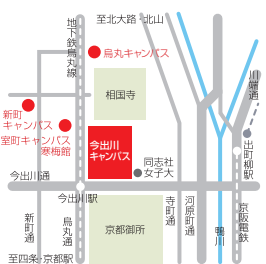


今出川校地

- 地下鉄「今出川」駅下車、徒歩1分
- 京阪「出町柳」駅下車、徒歩15分

【設置研究科】

神学研究科／文学研究科／社会学研究科
 法学研究科／経済学研究科／商学研究科
 総合政策科学研究科／グローバル・スタディーズ研究科
 司法研究科／ビジネス研究科



京田辺校地

- 近鉄「興戸」駅下車、徒歩15分
- 近鉄「新田辺」駅下車、バス10分
- 近鉄「三山木」駅下車、バス7分
- JR「同志社前」駅下車、徒歩10分

【設置研究科】

文化情報学研究科／理工学研究科
 生命医科学研究科／スポーツ健康科学研究科
 心理学研究科／脳科学研究科



※今出川キャンパスから京田辺キャンパスまで電車・徒歩で約60分

学研都市キャンパス

- 近鉄「木津川台」駅下車、徒歩15分



大阪サテライト・キャンパス

- JR「大阪」駅下車、徒歩3分
- JR「北新地」駅下車、徒歩3分
- 大阪メトロ御堂筋線「梅田」駅下車、徒歩3分
- 大阪メトロ谷町線「東梅田」駅下車、徒歩3分

平日の夜間(18:25～21:35)にビジネス研究科の授業を開講しています。また、就職活動の支援も受けられます。



東京サテライト・キャンパス

- JR「東京」駅八重洲南口から徒歩6分
- 東京メトロ銀座線「京橋」駅下車、徒歩1分
- 都営浅草線「宝町」駅下車、徒歩3分

各種証明書発行、PC利用、更衣室利用、荷物預かりなど東京での就職活動をサポートしています。





同志社大学
大学院・専門職大学院案内2024

発行:同志社大学 編集:同志社大学広報部広報課
〒602-8580 京都府京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL.075-251-3120 FAX.075-251-3080

<https://www.doshisha.ac.jp/>

